

「高校教育改革に関する調査 2022」 報告書

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村吉弘）が運営する、リクルート進学総研では、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して 新学習指導要領、入試改革、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革等の取り組みに関する調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

株式会社リクルート リクルート進学総研

「新学習指導要領」への対応について

- 新学習指導要領への対応の進捗度については、【授業】【教材】【評価】のいずれも「計画通りに進んだ」が7割を超え、特に【授業】は78%に及ぶ。ただし【評価】は2割が「計画より縮小した」と回答。
- 取り組みにあたり課題感のある教科は「特になし」が23%にのぼるものの、上がった中では「情報」について課題を感じている学校が最も多い。
- 「文理コース選択」の採択状況については、67%が文系・理系コースに「わかれている」と回答。大短進学率別にみると、70%以上・計の層では「わかれている」が9割を超える。「文理コース」を選択する時期は「高校1年生」が75%を超え、なかでも「高校1年生10～12月」がおおよそ半数を占める。

「総合的な探究の時間」について

- 「総合的な探究の時間」への取り組みは「導入・計」が前年同様、9割を超える。設置者別にみると、国公立は「組織的対応・計」が私立と比べて高い。
- 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【主体性・多様性・協働性が向上した】（12%）。「ややそう思う」まで含めると合計61%が変化を感じている。
- 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題は、「教員の負担の大きさ」が79%でトップ。以下、「教員間の共通認識不足」「教員の知識・理解不足」が続く。
- 多くの学校が、「探究活動」が生徒の進路選択へつながるとし、「地域や社会への興味・関心が高まる」がトップ。

「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」について

- 「導入・活用している」「導入・活用を検討している」を合わせると18%。一方、「導入・活用をしていないし、する予定もない」が過半数を占める。現状では、学校側の体制や生徒に対する必要性の面で課題や不安が大きいようだ。

ICT活用について

- 教育活動において、98%が授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用。「学校全体で」「学年や課程・学科・コース・教科単位で」を合わせた「組織的対応・計」は80%で、前回から大きく上昇した。
- ICT活用への取り組みによる生徒の変化として「そう思う・計」の割合が高いのは、【学びに向かう姿勢・意欲が向上した】（43%）、【主体性・多様性・協働性が向上した】（42%）。
- 今後の教育活動におけるICTの活用方法は「宿題・課題等をオンラインで配布」が74%で突出。
- ICTの活用によって狙いたい効果・変化のトップは、「生徒の興味喚起・モチベーションを上げる」（64%）。前回と比較して大きな変化はないが、「学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上」「先生方の負担軽減・校務の効率化」など、先生に関わる期待が高まっている傾向。

高校の募集状況について

- 令和3年度の受験者応募状況については、45%の学校が「定員割れだった」。定員割れだった学校のうち、6割以上が対策を検討あるいは実施している。
- 具体的には、出前授業、学校説明会、オープン・ハイスクールなどのイベントや広報活動の他、カリキュラムの再検討など教育の充実を図るなどの対策が行われている。

進路検討における「オープンキャンパス」参加について

- 進路検討において、94%の学校が「オープンキャンパス」参加を推奨、「強く推奨している」も6割。
- 推奨する理由は「雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため」がトップ。「志望校への意欲・モチベーション維持・向上のため」「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」が2割前後で続く。

これからの社会について

- 合計で全体の43%が、生徒にとってこれからの社会が「好ましい」と回答。
- 今後「特に必要とされる」と思う社会人基礎力は、「主体性」「課題発見力」。時系列でみると、上位となる項目に大きな変化はみられないが、「課題発見力」は前回から上昇した。
- 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力は、「規律性」が突出。「傾聴力」「柔軟性」が続く。時系列でみると、低下傾向の項目が多い中、チームワークに関する項目のスコアは横ばい。

進路指導とキャリア教育

- 進路指導上の課題は、「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ。以下、「入学者選抜の多様化」「進路選択・決定能力の不足」が5割台で続く。上位となる項目に大きな変化はみられない。
- 98%がキャリア教育に取り組んでいると回答。キャリア教育の今後の課題は「教員の負担の大きさ」が68%で突出。

高校と高等教育機関との連携

- 大学・短期大学に期待することは「就職実績の公開」が51%でトップ。前回からスコアもやや上昇。上位の項目では「基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）」が大きく上昇し、5位になった。
- 専門学校に期待することは「就職実績の公開」が55%で今回もトップ。

教員の労働時間について

- 最も時間のかかる業務のトップは「授業準備」（30%）。
- 最も時間がかかる業務について1月あたりかかる時間は「20時間以内」が最も多く、平均で37.1時間。

目次

調査概要	4
「新学習指導要領」への対応について	5
1. 新学習指導要領への対応の進捗度	5
1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況	5
－A 授業について	6
－B 教材について	7
－C 評価について	8
2. 「新学習指導要領」への取り組みにあたり課題感のある教科	9
3. 「文理コース選択」の状況	11
1) 「文理コース選択」の実態	11
2) 「文理コース」の選択時期	12
「総合的な探究の時間」について	13
1. 「総合的な探究の時間」への取り組み状況	13
2. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化	14
＜フリーアンサー＞「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化	16
＜フリーアンサー＞「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員の変化	17
3. 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題	18
4. カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ	19
5. 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え	20
「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入について	22
1. 「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入・活用状況	22
＜フリーアンサー＞「アントレプレナーシップ教育」の導入に取り組むにあたっての課題や不安	23
ICT活用について	24
1. 教育活動へのICT活用状況	24
2. ICT活用による生徒の変化	25
＜フリーアンサー＞「ICT活用」による生徒・教員の変化	26
3. 今後の教育活動におけるICT活用方法	27
4. ICTの活用によって狙いたい効果・変化	29
5. ICT活用にあたっての課題	31
6. GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み	32
高校の募集状況について	34
1. 令和3年度の受験者応募状況	34
2. 定員割れに対する対策の検討・実施状況	35
＜フリーアンサー＞「定員割れ」に対する対策の具体的な内容	36

進路検討における「オープンキャンパス」参加について	37
1. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度	37
2. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨理由	38
<フリーアンサー> 「オープンキャンパス」を推奨する理由	39
「これからの社会」について	40
1. これからの社会の好ましさ	40
<フリーアンサー> 「『これからの社会』の好ましさ」への回答の理由	41
2. 社会人基礎力	42
進路指導とキャリア教育	47
1. 進路指導上の課題	47
2. キャリア教育の取り組み状況	49
3. キャリア教育の実施時間	50
4. キャリア教育の見直し	52
5. キャリア教育を進めていく上での今後の課題	53
高校と高等教育機関との連携	55
1. 大学・短期大学に期待すること	55
<フリーアンサー> 大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題	57
2. 専門学校に期待すること	58
<フリーアンサー> 専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題	60
教員の労働時間について	61
1. 最も時間のかかる業務	61
2. 最も時間がかかる業務について1月あたりの時間数	62

調査概要

- 調査対象 全国の全日制高等学校4,721校
- 調査方法 郵送調査＋インターネット調査
※校長宛てに調査票を郵送、回答を記入の上郵送にて返送または記載のURLからWeb調査に回答
- 調査期間 2022年8月4日（木）～9月9日（金）投函締め切り
※2022年9月13日（火）到着分までを集計対象とした。
- 有効回答数 943件（回収率20.0％）

回答者プロフィール

■高校設置者（全体／単一回答） (%)

	国公立	私立	無回答
2022年 全体 (n= 943)	71.7	28.3	—
2021年 全体 (n=1156)	73.4	26.0	0.5
2018年 全体 (n=1203)	72.6	25.9	1.5
2016年 全体 (n=1105)	71.0	28.0	1.1
2014年 全体 (n=1140)	73.3	25.9	0.8
2012年 全体 (n=1179)	74.6	24.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	74.5	24.8	0.7
2008年 全体 (n= 910)	74.2	25.5	0.3
2006年 全体 (n= 813)	76.9	23.1	—
2004年 全体 (n=1122)	77.5	22.5	—

■高校学科（高校タイプ）（全体／単一回答） (%)

	普通科・計		総合学科	専門学科	その他	無回答	普通科・計
	普通科	普通科と他学科併設					
2022年 全体 (n= 943)	56.7	23.6	6.4	11.6	1.3	0.4	80.4
2021年 全体 (n=1156)	58.5	20.2	6.5	13.8	0.6	0.5	78.6
2018年 全体 (n=1203)	56.8	20.9	6.6	13.7	*	2.0	77.7
2016年 全体 (n=1105)	56.6	20.2	7.4	11.5	3.4	0.9	76.7
2014年 全体 (n=1140)	54.6	20.1	6.3	11.8	5.4	1.8	74.7
2012年 全体 (n=1179)	54.3	19.1	7.0	11.6	4.7	3.2	73.4
2010年 全体 (n=1208)	53.0	20.4	7.5	13.7	4.2	1.3	73.3
2008年 全体 (n= 910)	53.5	19.8	5.7	15.4	4.5	1.1	73.3
2006年 全体 (n= 813)	52.3	19.2	7.4	17.8	3.4	—	71.5
2004年 全体 (n=1122)	52.9	18.8	4.6	18.2	4.5	1.1	71.7

※総合学科：2018年調査以前は「総合学科単独校（移行中含む）」「総合学科併設校」の合計

※「*」は該当の選択肢なし

■高校所在地（全体／単一回答） (%)

	北海道	東北	北関東・甲信越	北関東		南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答
				北関東	甲信越									
2022年 全体 (n= 943)	8.0	10.6	11.7	6.8	4.9	17.4	13.8	2.4	10.5	11.7	7.6	4.0	14.0	—
2021年 全体 (n=1156)	7.9	12.1	12.1	6.9	5.2	18.0	11.1	2.5	12.4	11.1	8.2	2.9	12.4	0.5
2018年 全体 (n=1203)	8.3	8.6	12.9	7.1	5.8	18.5	12.4	2.8	11.7	11.7	7.3	4.4	11.5	1.5
2016年 全体 (n=1105)	6.2	9.2	13.9	7.9	6.1	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	7.1	2.9	11.8	1.1
2014年 全体 (n=1140)	7.1	11.4	11.8	6.4	5.4	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8
2012年 全体 (n=1179)	7.5	10.3	11.5	6.2	5.3	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	8.1	3.5	12.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	7.9	10.1	11.9	7.2	4.7	17.5	11.6	3.0	12.7	12.4	8.9	3.5	12.2	0.7
2008年 全体 (n= 910)	9.0	9.7	11.6	6.3	5.4	18.9	11.4	3.2	12.1	12.3	8.1	4.2	11.4	0.3
2006年 全体 (n= 813)	7.4	10.6	29.9			18.0			11.8	10.7	*	*	11.7	*
2004年 全体 (n=1122)	7.7	7.8	31.2			14.3			15.8	10.9	*	*	12.4	*

■校務分掌（全体／複数回答） (%)

	校長	副校長・教頭	主幹教諭	教務主任	教務部	進路指導主事	進路指導部	学年主任	学年担当	その他	無回答
2022年 全体 (n= 943)	0.3	2.7	4.9	2.7	1.0	80.4	16.6	1.3	4.0	2.7	0.2
2021年 全体 (n=1156)	9.4	24.0	5.5	10.9	1.4	47.3	11.9	0.9	2.8	3.1	0.3
2018年 全体 (n=1203)	5.9	15.5	*	9.6	1.1	59.4	10.6	1.2	2.5	2.1	2.0
2016年 全体 (n=1105)	0.1	0.1	*	*	*	85.0	13.1	2.4	9.4	1.4	1.4
2014年 全体 (n=1140)	—	0.5	*	*	*	85.0	12.5	1.9	7.0	2.3	1.8
2012年 全体 (n=1179)	—	0.3	*	*	*	84.4	11.9	1.2	5.9	2.4	2.8
2010年 全体 (n=1208)	—	0.2	*	*	*	84.1	14.5	1.5	7.0	2.4	1.3
2008年 全体 (n= 910)	—	0.3	*	*	*	84.5	12.4	2.9	7.8	2.7	1.6
2006年 全体 (n= 813)	—	0.2	*	*	*	81.8	15.0	2.5	4.6	3.2	2.6
2004年 全体 (n=1122)	—	—	*	*	*	82.4	14.6	0.7	0.3	0.9	1.2

「*」は該当の選択肢なし

「新学習指導要領」への対応について

1. 新学習指導要領への対応の進捗度

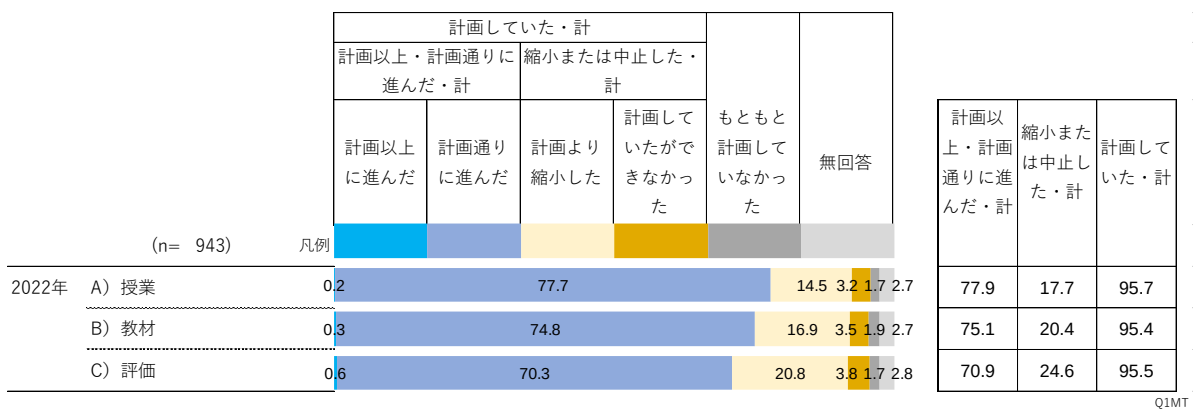
1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況

- いずれも「計画通りに進んだ」が7割を超え、特に【授業】は78%に及ぶ。
- 【評価】は2割が「計画より縮小した」と回答。

■新学習指導要領への対応の進捗度（全体／各単一回答）

（%）

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。



1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 A) 授業について

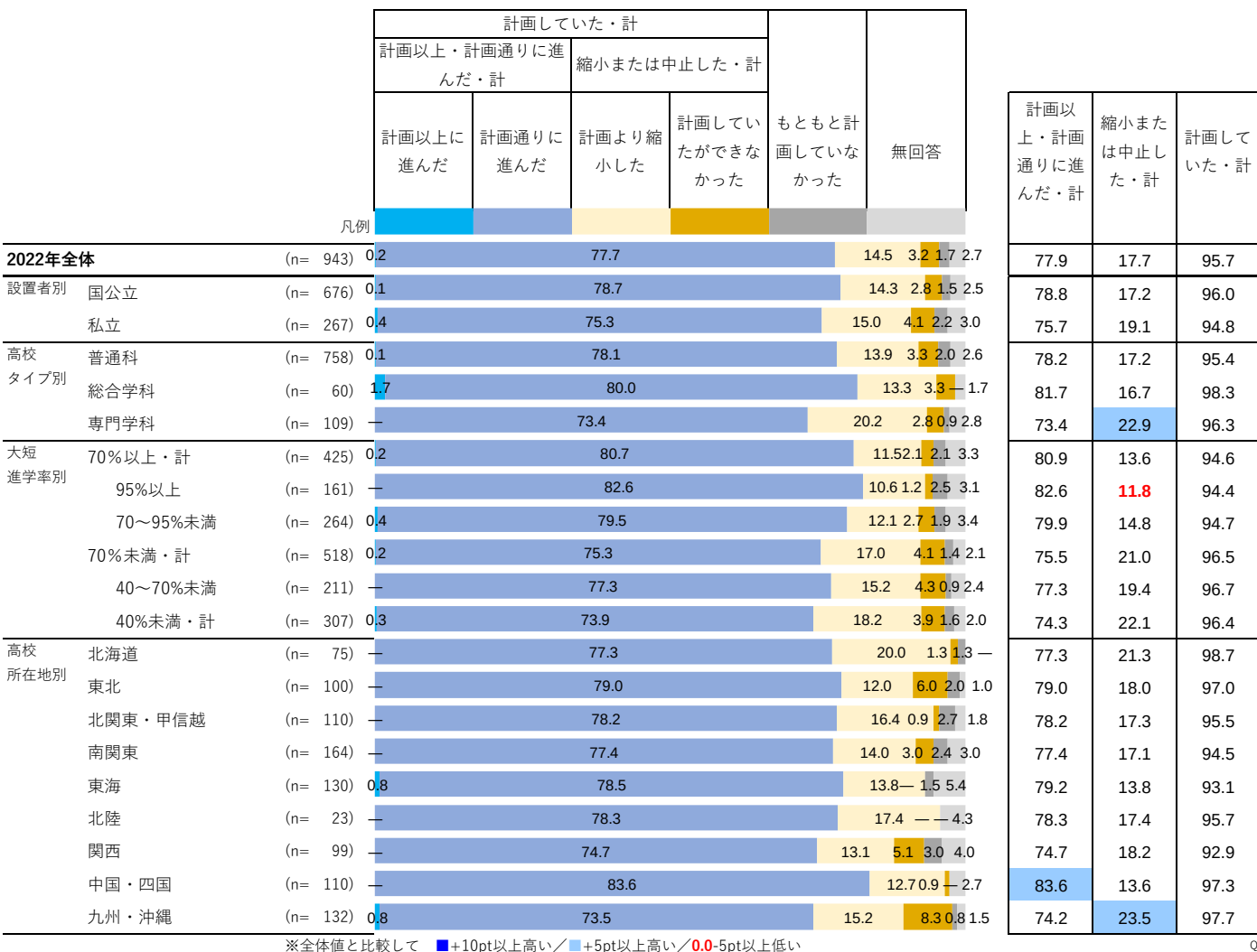
■【授業】については、全体の78%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 高校タイプ別にみると、専門学科は「計画より縮小した」が全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「計画通りに進んだ」のスコアが高くなっている。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況（全体／単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：A) 授業



Q1A

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 B)教材について

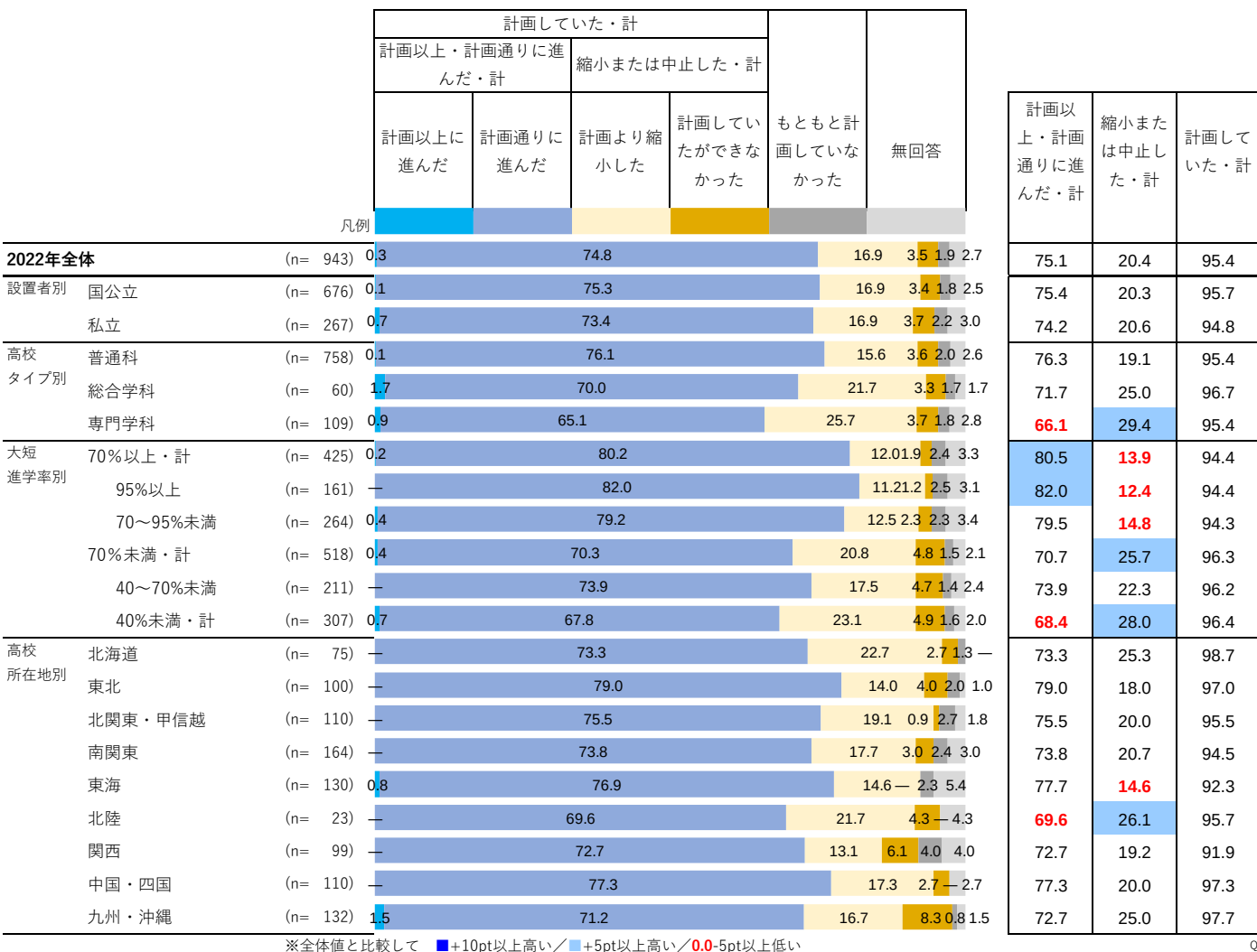
■【教材】については、全体の75%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 高校タイプ別にみると、専門学科は「計画通りに進んだ」が全体と比べて低く、「計画より縮小した」が26%に及ぶ。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「計画通りに進んだ」のスコアが高くなっている。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況（全体／単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：B) 教材



Q18

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 C) 評価について

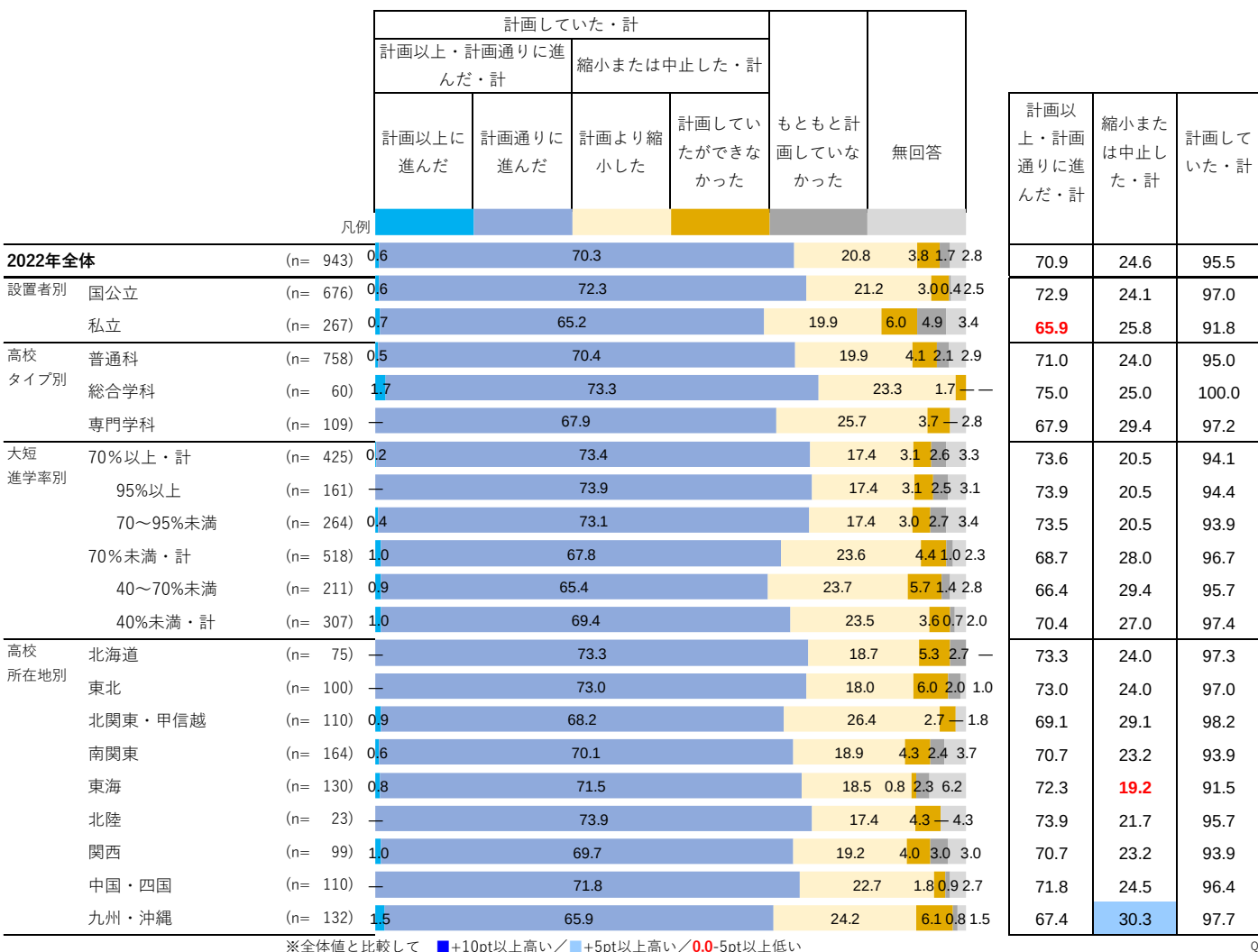
■【評価】については、全体の71%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 設置者別にみると、国公立は「計画通りに進んだ」が私立より高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「計画以上・計画通りに進んだ・計」が全体と比べて高め。
- 大短進学率別にみると、40～70%未満の層は「計画通りに進んだ」が全体と比べてやや低い。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況（全体／単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：C) 評価



Q1C

2. 「新学習指導要領」への取り組みにあたり課題感のある教科

- 課題感のある教科は「特になし」が23%。4～5校につき1校は課題がないと感じている。
- 上がった中では「情報」について課題を感じている学校が最も多い。
 - 課題感のある教科について1～3番目までの合計では、「情報」「地理歴史」「国語」の順で高く、特に「情報」は31%が1番目として回答している。
 - 設置者別に1～3番目までの合計をみると、私立は「国語」「外国語（英語）」「地理歴史」「情報」が国公立と比べて高い。
 - 高校タイプ別にみると、普通科で「地理歴史」「情報」、総合学科で「外国語（英語）」「その他」、専門学科で「芸術」「その他」「特になし」がそれぞれ高い。
 - 大短進学率別にみると、いずれの層でも「国語」は3割があげている。一方、進学率が高い層では「情報」「地理歴史」をあげる高校が5割を超え、課題感が強い。また、「数学」についても進学率が高い層でスコアが高くなっている。

■ 「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題のある教科（全体／3つまでの複数回答） (%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科は何ですか。上位3つまで お答えください。

(n= 943)	1番目	2番目	3番目	1～3番目合計
情報	31.1	6.4	8.9	46.3
地理歴史	11.6	16.3	9.3	37.2
国語	12.4	11.0	9.3	32.7
数学	5.0	11.8	8.6	25.3
外国語（英語）	7.3	8.1	7.8	23.2
公民	1.7	6.5	6.6	14.7
理科	0.6	1.8	3.9	6.4
保健体育	1.4	1.7	1.1	4.1
芸術	1.3	1.5	0.5	3.3
家庭	0.4	1.0	1.3	2.7
その他	4.5	1.1	1.6	7.1
探究／総合的な探究の時間	1.1	0.2	0.6	1.9
上記以外	3.4	0.8	1.0	5.2
特になし	22.8	33.0	41.0	22.8
無回答	—	—	—	—

※ 「その他」「特になし」「無回答」を除く項目について、「1～3番目合計」の降順ソート

Q2MT

■「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題感のある教科（全体／3つまでの複数回答）

(%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科は何ですか。上位3つまで お答えください。：1～3番目合計

1～3番目合計		情報	地理 歴史	国 語	数 学	語 外 （ 国 語 （ 英	公 民	理 科	保 健 体 育	芸 術	家 庭	そ の 他	時 合 う 間 的 な 探 究 の 総	そ れ 以 外	特 に な し	無 回 答
2022年 全体 (n= 943)		46.3	37.2	32.7	25.3	23.2	14.7	6.4	4.1	3.3	2.7	7.1	1.9	5.2	22.8	—
設置者別	国公立 (n= 676)	44.2	34.0	30.9	25.0	21.7	14.9	6.1	4.6	4.3	2.8	8.4	1.9	6.5	24.1	—
	私立 (n= 267)	51.7	45.3	37.1	26.2	27.0	14.2	7.1	3.0	0.7	2.2	3.7	1.9	1.9	19.5	—
高校 タイプ別	普通科 (n= 758)	52.1	42.6	33.9	28.0	22.8	16.5	6.9	3.4	2.6	2.4	3.4	1.6	1.8	19.8	—
	総合学科 (n= 60)	30.0	28.3	33.3	18.3	30.0	5.0	6.7	6.7	1.7	3.3	21.7	6.7	15.0	26.7	—
	専門学科 (n= 109)	15.6	8.3	22.9	11.0	22.0	9.2	3.7	7.3	8.3	4.6	22.9	0.9	22.0	42.2	—
大短 進学率別	70%以上・計 (n= 425)	62.4	52.0	32.7	31.5	17.9	17.6	6.6	2.4	2.1	1.9	2.4	1.6	0.7	15.1	—
	95%以上 (n= 161)	65.8	52.2	33.5	30.4	18.6	18.6	7.5	3.7	3.1	2.5	3.1	2.5	0.6	12.4	—
	70～95%未満 (n= 264)	60.2	51.9	32.2	32.2	17.4	17.0	6.1	1.5	1.5	1.5	1.9	1.1	0.8	16.7	—
	70%未満・計 (n= 518)	33.2	25.1	32.6	20.3	27.6	12.4	6.2	5.6	4.2	3.3	11.0	2.1	8.9	29.2	—
	40～70%未満 (n= 211)	42.7	33.2	35.1	23.2	29.4	14.7	7.1	6.6	1.9	2.8	4.3	2.4	1.9	23.2	—
	40%未満・計 (n= 307)	26.7	19.5	30.9	18.2	26.4	10.7	5.5	4.9	5.9	3.6	15.6	2.0	13.7	33.2	—
高校 所在地別	北海道 (n= 75)	40.0	33.3	36.0	25.3	22.7	22.7	4.0	5.3	2.7	1.3	6.7	—	6.7	22.7	—
	東北 (n= 100)	50.0	33.0	29.0	22.0	23.0	14.0	4.0	3.0	4.0	3.0	9.0	1.0	8.0	25.0	—
	北関東・甲信越 (n= 110)	48.2	29.1	27.3	19.1	19.1	20.9	10.9	4.5	3.6	3.6	10.0	5.5	4.5	23.6	—
	南関東 (n= 164)	40.2	43.9	39.0	29.9	31.1	15.9	8.5	6.1	4.3	3.7	1.2	0.6	0.6	18.3	—
	東海 (n= 130)	46.9	32.3	29.2	17.7	21.5	11.5	2.3	4.6	3.8	4.6	16.2	3.8	12.3	23.8	—
	北陸 (n= 23)	69.6	26.1	30.4	21.7	30.4	13.0	4.3	—	—	—	—	—	—	21.7	—
	関西 (n= 99)	37.4	40.4	27.3	28.3	22.2	10.1	8.1	4.0	3.0	2.0	4.0	1.0	3.0	29.3	—
	中国・四国 (n= 110)	54.5	39.1	40.0	26.4	25.5	10.9	0.9	2.7	—	1.8	5.5	1.8	3.6	22.7	—
	九州・沖縄 (n= 132)	48.5	43.9	31.8	32.6	16.7	14.4	9.1	2.3	4.5	0.8	6.8	1.5	5.3	20.5	—

※2022年全体の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q2TOTAL

3. 「文理コース選択」の状況

1) 「文理コース選択」の実態

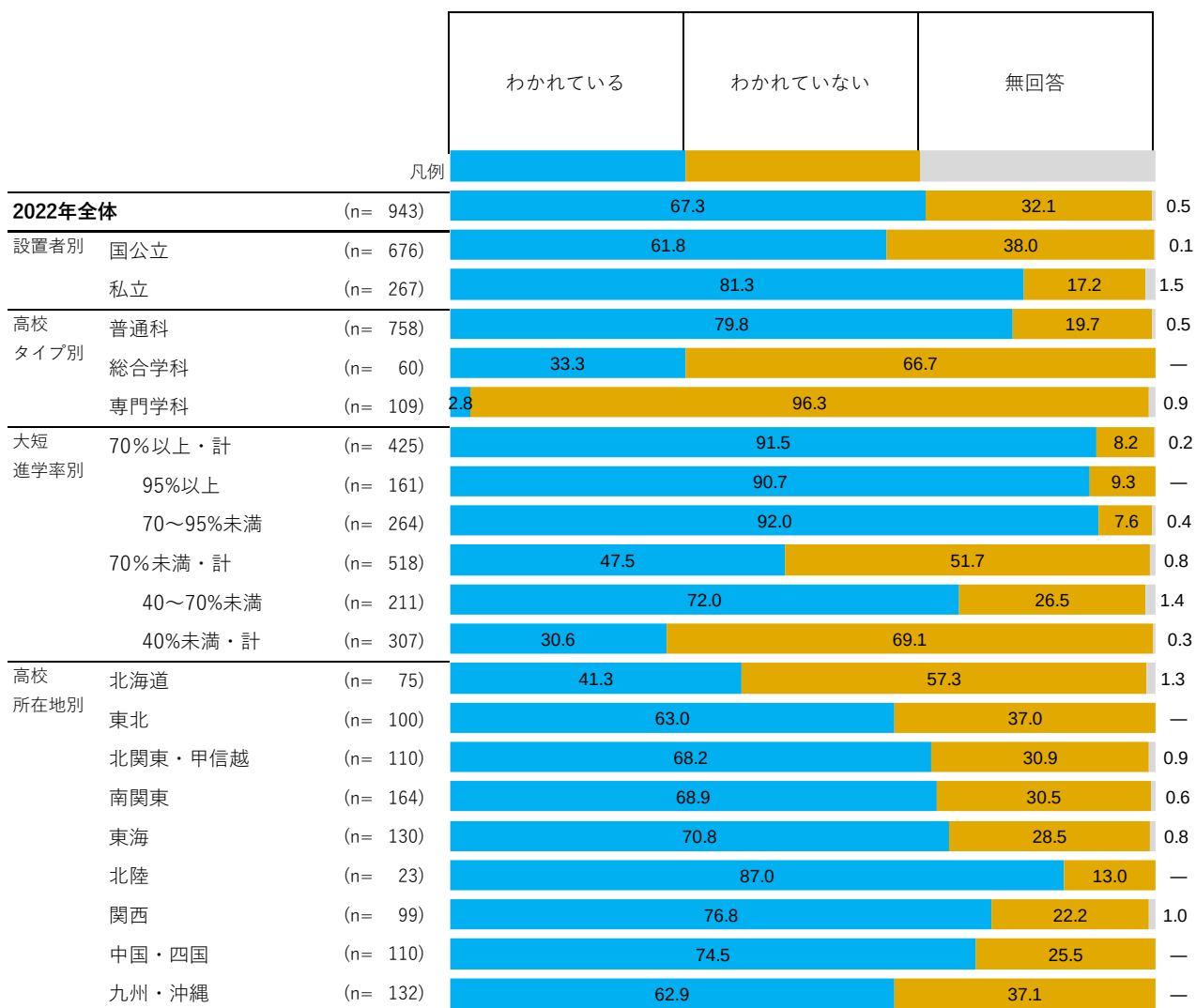
■ 67%が文系・理系コースに「わかれている」と回答。

- 設置者別にみると、私立では8割以上が「わかれている」。
- 高校タイプ別にみると、普通科は約8割が「わかれている」。
- 大短進学率別にみると、70%以上・計の層では「わかれている」が9割を超える。一方、40%未満・計の層では31%にとどまる。

■ 「文理コース選択」の状況（全体／単一回答）

（%）

貴校において、文系・理系コース選択にわかれていますか。



Q3

2) 「文理コース」の選択時期

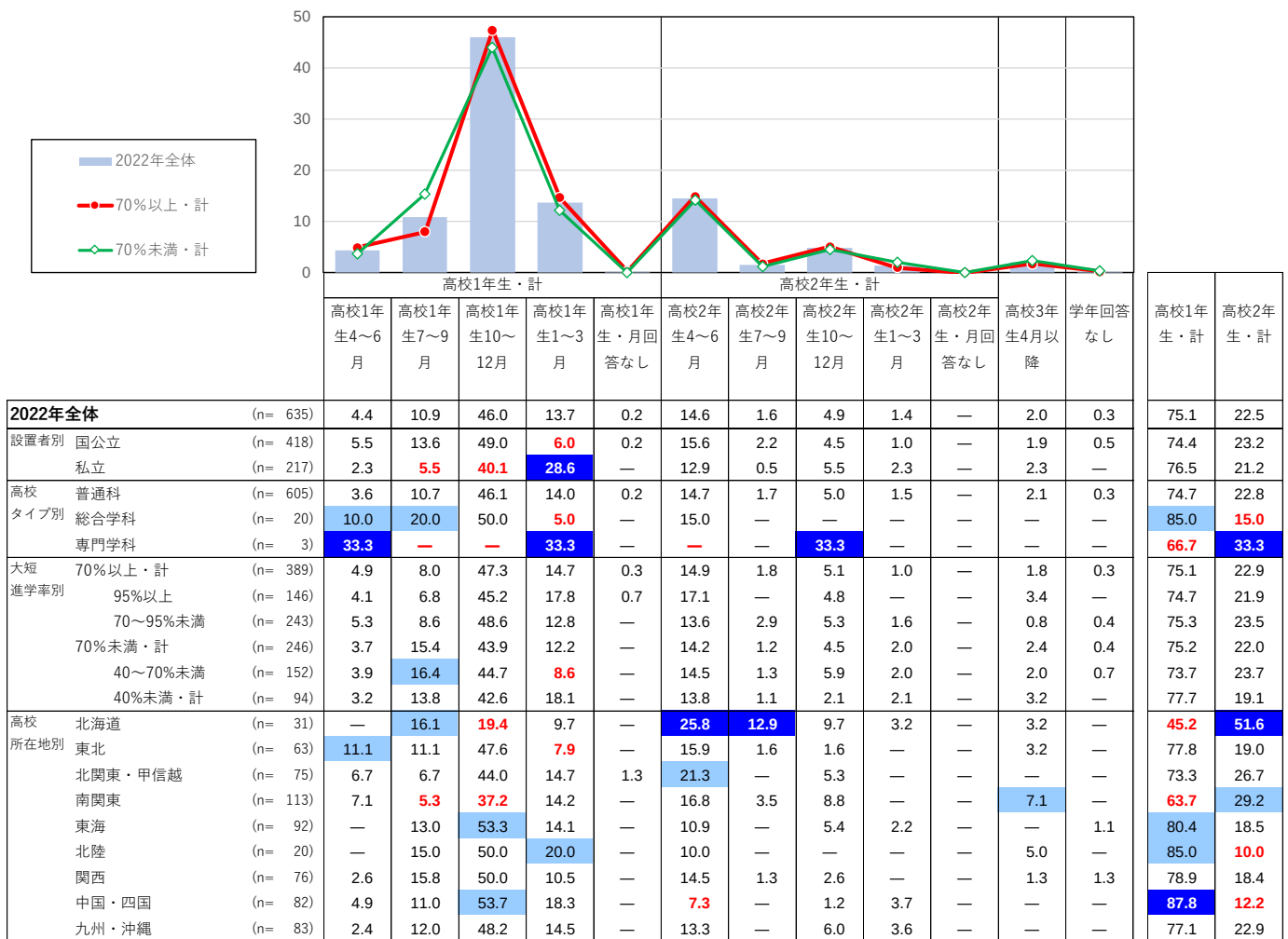
■ 「文理コース」を選択する時期は「高校1年生」が75%を超え、なかでも「高校1年生10～12月」がおおよそ半数を占める。

- 設置者別にみると、国公立、私立のいずれも「高校1年生10～12月」が最も高いが、私立では「高校1年生1～3月」も3割程度と高い。

■ 「文理コース」選択時期（コース選択校／単一回答） ※「学年／月」の自由回答を単一回答として集計

(%)

「文系・理系のコースにわかれている」を選択した方にお尋ねします。文系・理系のコースを最終的に選ばせる時期はいつですか？



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

Q3SQ1

「総合的な探究の時間」について

1. 「総合的な探究の時間」への取り組み状況

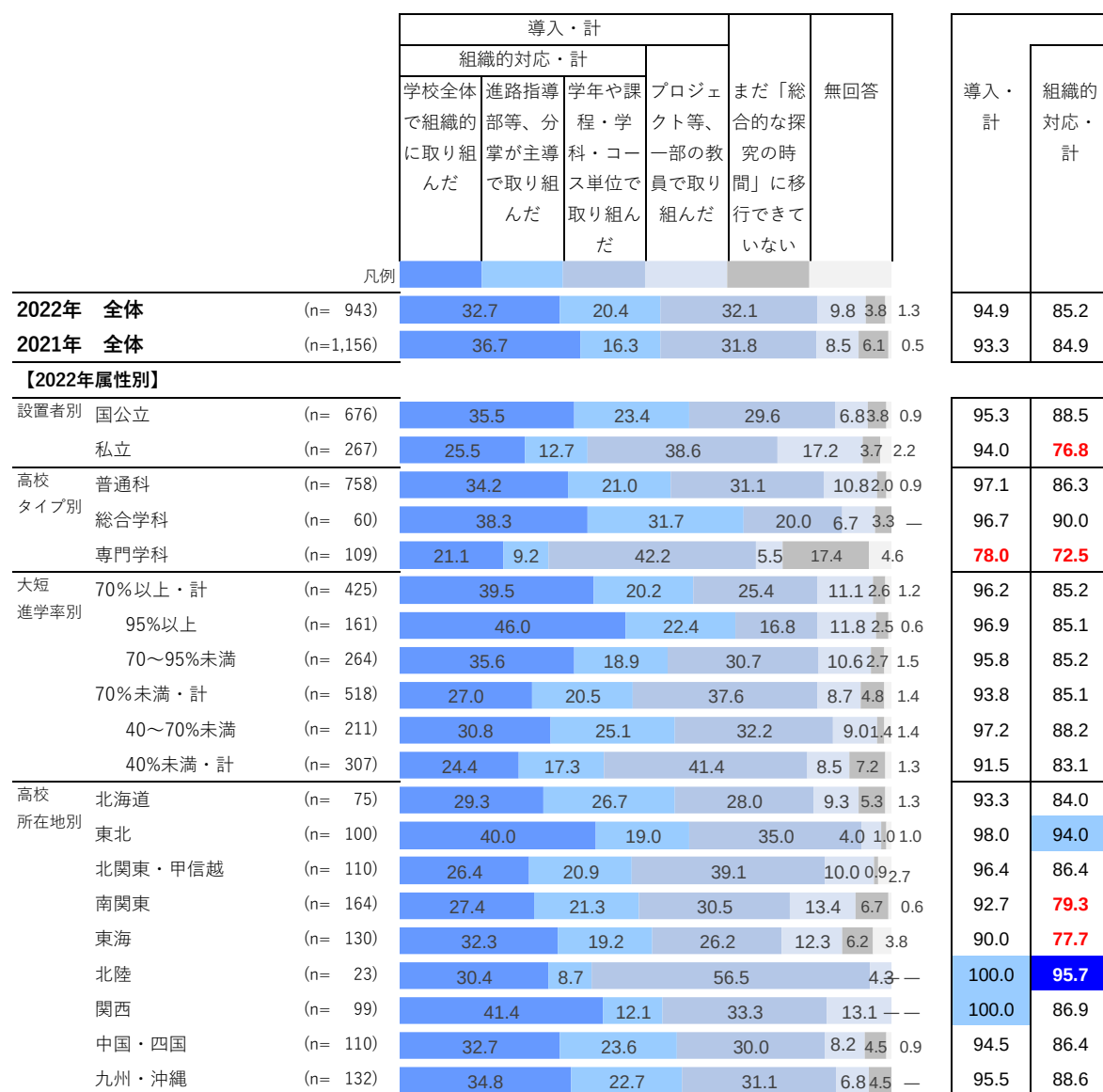
■ 「総合的な探究の時間」への取り組みは「導入・計」が前年同様、9割を超える。

- 設置者別にみると、国公立は「組織的対応・計」が私立と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科は「導入・計」「組織的対応・計」ともに全体と比べて低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「学校全体で組織的に取り組んだ」のスコアが高くなっている。

■ 「総合的な探究の時間」の取り組み（全体／単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」にどのように取り組んできましたか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／■0.0-5pt以上低い

Q4

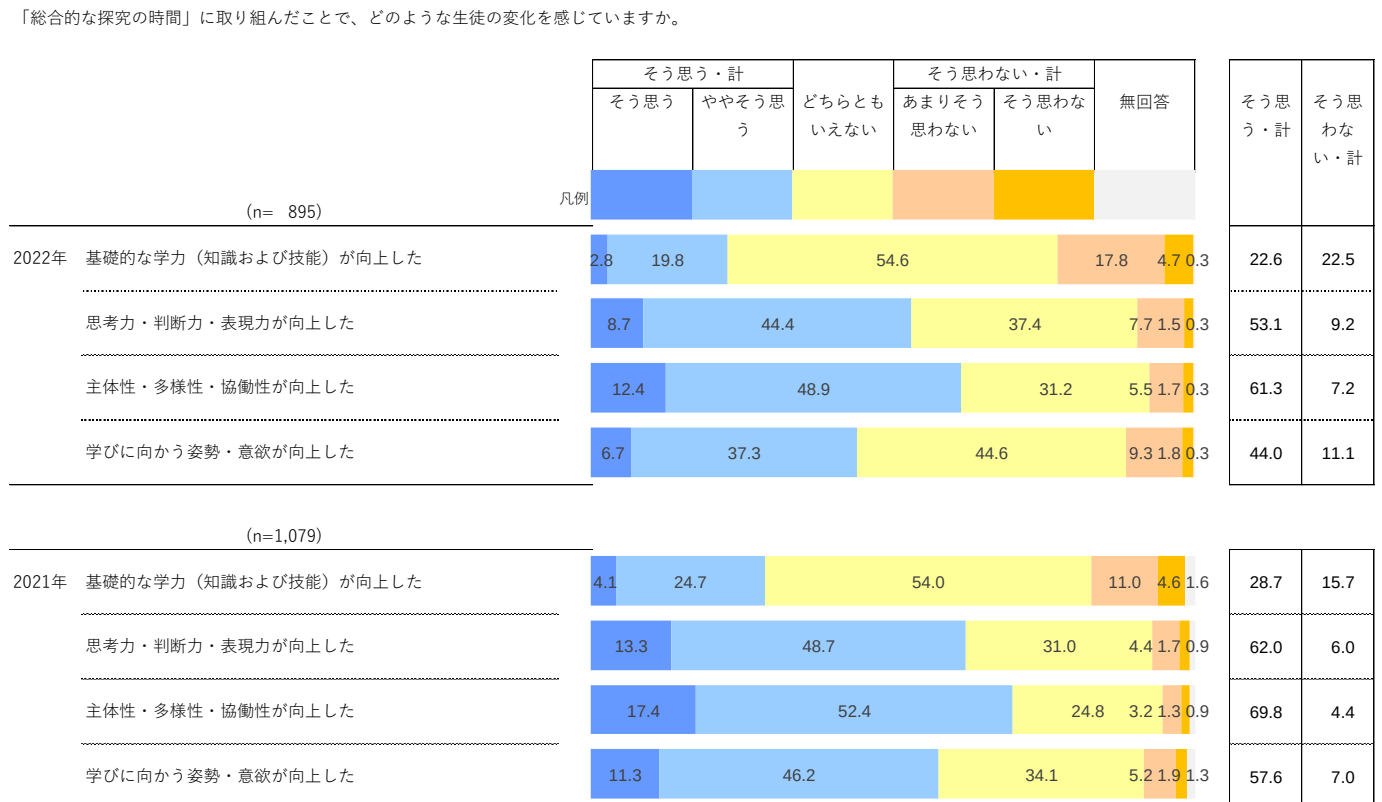
2. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化

■ 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【主体性・多様性・協働性が向上した】（12%）。「ややそう思う」まで含めると合計61%が変化を感じている。

- 前年と比較すると、いずれも「そう思う・計」の割合が低下。属性別でも、同様の傾向。「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」は「そう思わない・計」が上昇したが、他は「どちらともいえない」が上昇している。
- 設置者別にみると、「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」以外で国公立が私立と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「思考力・判断力・表現力が向上した」がトップで、スコアも全体を10ポイント以上上回る。専門学科では「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 大短進学率別にみると、95%以上の層は「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」以外で全体と比べて5ポイント以上スコアが高くなっている。

■ 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）

（%）



Q4SQ1

● 2022年

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）（%）

※そう思う・計（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

			A)基礎的な学力 (知識および技 能)が向上した	B)思考力・判断 力・表現力が向上 した	C)主体性・多様 性・協働性が向上 した	D)学びに向かう姿 勢・意欲が向上し た
2022年 全体	(n= 895)		22.6	53.1	61.3	44.0
設置者別	国公立	(n= 644)	23.3	55.7	63.7	46.9
	私立	(n= 251)	20.7	46.2	55.4	36.7
高校タイ プ	普通科・計	(n= 736)	21.3	52.6	62.0	43.2
	総合学科	(n= 58)	25.9	67.2	62.1	53.4
	専門学科	(n= 85)	34.1	49.4	54.1	43.5
大短	70%以上・計	(n= 409)	22.2	54.3	64.1	44.0
進学率別	95%以上	(n= 156)	26.9	59.0	67.9	53.8
	70～95%未満	(n= 253)	19.4	51.4	61.7	37.9
	70%未満・計	(n= 486)	22.8	52.1	59.1	44.0
	40～70%未満	(n= 205)	19.5	56.1	63.4	47.3
	40%未満・計	(n= 281)	25.3	49.1	55.9	41.6
高校	北海道	(n= 70)	21.4	55.7	62.9	42.9
所在地別	東北	(n= 98)	24.5	65.3	70.4	54.1
	北関東・甲信越	(n= 106)	23.6	59.4	67.0	50.9
	南関東	(n= 152)	21.1	50.0	59.9	42.8
	東海	(n= 117)	19.7	45.3	50.4	41.0
	北陸	(n= 23)	21.7	56.5	52.2	43.5
	関西	(n= 99)	27.3	60.6	61.6	46.5
	中国・四国	(n= 104)	24.0	50.0	66.3	39.4
	九州・沖縄	(n= 126)	20.6	43.7	57.9	37.3
「総合的 な探究の 時間」取 組状況	取り組みあり・計	(n= 895)	22.6	53.1	61.3	44.0
	組織的対応・計	(n= 803)	23.8	54.3	62.4	46.1
	学校全体・学年・課程・計	(n= 611)	23.9	55.3	62.8	47.1
	学校全体で組織的に	(n= 308)	31.2	68.2	76.0	57.5
	学年や課程・学科・コース単位で	(n= 303)	16.5	42.2	49.5	36.6
	進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ	(n= 192)	23.4	51.0	60.9	42.7
	プロジェクト等、一部の教員で	(n= 92)	12.0	42.4	52.2	26.1

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q45Q1_P2

● 参考：2021年

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）（%）

※そう思う・計（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

			基礎的な学力（知 識および技能）が 向上した	思考力・判断力・ 表現力が向上した	主体性・多様性・ 協働性が向上した	学びに向かう姿 勢・意欲が向上し た
2021年 全体	(n=1,079)		28.7	62.0	69.8	57.6
設置者別	国公立	(n= 801)	29.6	63.9	70.7	58.9
	私立	(n= 272)	26.5	56.6	67.3	53.7
高校	普通科	(n= 853)	27.1	62.1	69.3	57.6
タイプ別	総合学科	(n= 74)	27.0	60.8	81.1	55.4
	専門学科	(n= 140)	36.4	60.0	66.4	57.1
大短	70%以上・計	(n= 474)	29.5	66.0	75.1	62.7
進学率別	95%以上	(n= 179)	33.5	69.3	74.3	63.1
	70～95%未満	(n= 295)	27.1	64.1	75.6	62.4
	70%未満・計	(n= 599)	28.2	58.9	65.6	53.6
	40～70%未満	(n= 226)	25.7	61.1	68.1	55.8
	40%未満・計	(n= 373)	29.8	57.6	64.1	52.3
高校	北海道	(n= 85)	25.9	58.8	63.5	61.2
所在地別	東北	(n= 135)	23.0	69.6	79.3	60.7
	北関東・甲信越	(n= 138)	31.9	57.2	71.0	52.2
	南関東	(n= 183)	28.4	53.6	58.5	50.3
	東海	(n= 116)	26.7	62.9	66.4	59.5
	北陸	(n= 29)	41.4	62.1	69.0	69.0
	関西	(n= 134)	33.6	65.7	72.4	65.7
	中国・四国	(n= 120)	32.5	71.7	77.5	59.2
	九州・沖縄	(n= 133)	24.8	60.2	72.2	54.1
「総合的 な探究の 時間」取 組状況	取り組みあり・計	(n=1,079)	28.7	62.0	69.8	57.6
	組織的対応・計	(n= 981)	29.8	63.8	70.9	58.8
	学校全体・学年・課程・計	(n= 792)	30.6	65.9	72.3	61.0
	学校全体で組織的に	(n= 424)	34.7	74.5	79.2	67.5
	学年や課程・学科・コース単位で	(n= 368)	25.8	56.0	64.4	53.5
	進路指導部等、分掌が主導で	(n= 189)	26.5	55.0	65.1	49.7
	プロジェクト等、一部の教員で	(n= 98)	18.4	43.9	58.2	44.9

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

時Q45Q1_Q75Q1_P2

<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化

■ 学習意欲・進学実績の向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・積極的に文献等で調べようとする意欲が増した。[東京都/都立/普通科]
 - ・一部の生徒ではあるが、起業したり、コンクールに出場したりと積極的に活動をしようとする生徒が増えた。[茨城県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒の可能性が広がったと感じている。[茨城県/県立/総合学科]

■ プレゼンテーション能力の向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒が発表に対する抵抗感が小さくなった。成果を言語化する能力が向上した。[兵庫県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒達が自分の考えをまとめて、表現する機会が増えたように感じる。[福岡県/市立/専門学科]
 - ・生徒が他者の前に立って自分が探究したことを発表する機会を増やすことができたのは良いことだったと感じている。[宮城県/私立/普通科]

■ 自主性の向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒の姿勢が前向きになった。調べて発表することで、与えられたテーマへの理解を促すだけでなく、他の生徒の発表内容にも注目し、自己との比較を経て自分のものに取り込もうとする姿勢も見られた。[東京都/国立/専門学科]
 - ・自分からコンクールやコンテストなど最終的に形に残そうとする研修が少しではあるが増えてきた。それに伴って、小論文等を指導する教員が研修を受講するようになった。[岐阜県/私立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・探究活動で、生徒一人ひとりが自分が興味がある課題を探し、それについて調べ、プレゼンテーションをするという過程において、自発的に活動しようという姿勢は身についてきていると思います [熊本県/私立/普通科と他学科併設]

■ 地域への関心の高まり

- **大短進学率70%以上**
 - ・地域との連携による地元の再発見の機会にもなっている。[鹿児島県/県立/普通科]
 - ・校外の人材との連携力がアップした[山口県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・地元・地域のことについて考えるきっかけとなったように感じる。[埼玉県/県立/普通科と他学科併設]

■ チームワークの向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・協力して意見を出し合う場面が見られた。[兵庫県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒はグループ活動を通じて意見を集約して発表する力を育んでいる。[福岡県/私立/普通科と他学科併設]
 - ・個々の意見を大切にできる雰囲気づくりができてきた [静岡県/県立/専門学科]

■ キャリア教育・進路意識選択に対する好影響

- **大短進学率70%以上**
 - ・自分の進路目標への興味・関心を深めた生徒が少なからずいた。[岐阜県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒の進路意識（キャリア意識）が向上したと考えられる。[東京都/都立/普通科]
 - ・進路に対して社会貢献を意識して幅広く、深く考えるようになった。[北海道/道立/普通科と他学科併設]

■ 自己肯定感の向上

- **大短進学率70%未満**
 - ・地域の多様な方と関わる中で視野を広げることができている。体験、実践を通して気づきを得て自信をつけている [岡山県/県立/普通科と他学科併設]

■ 取り組みに対する生徒間の格差が大きい

- **大短進学率70%以上**
 - ・主体性の向上を期待したが、結局やらされていることに変わりなく、以前よりより受動的になっている感じがする。[静岡県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・意識の高い生徒や教員の地域理解、進学先理解が向上しているが、受け身な生徒が多い。[愛知県/県立/普通科]

■ 生徒の負担感の増大

- **大短進学率70%以上**
 - ・協働性を重視すると、グループ編成にせざるを得ないが、複数の生徒によるチーム編成をすることで、主体性が高く、知識理解の高い一部の生徒に負担が増す傾向が見られる。[熊本県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・人間関係の構築の方が難しく、思い通りの探究にならない。そもそも日常の予習復習に忙しく、生徒の負担は過大になっている。[愛知県/私立/普通科]

<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員の変化

■ 生徒の能力の発見

- **大短進学率70%以上**
 - ・大幅に向上したとは言えないものの、大学志望先を含めた視野の広がり、対外交渉等に必要なスキル、タイムマネジメント力など、探究活動を実施していなければそもそも生徒にそのような力がないことにも気づけなかった可能性があることに視点が当たり、向上傾向にあります。[鳥根県/県立/普通科と他学科併設]

■ 「探究の時間」への取り組みや意識の変化

- **大短進学率70%以上**
 - ・探究の指導において、教員が共感的姿勢が強くなった。[山形県/県立/普通科と他学科併設]
 - ・学習開始当初は教員、生徒共にどう取り組めば良いかわからず右往左往していたが、活動が進むにつれ主体的に学習に向かう姿勢が見られ始めた。[福岡県/市立/総合学科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・「探究とは？」という意識の向上[北海道/道立/普通科と他学科併設]

■ 授業や「学び」に対する考え方の変化

- **大短進学率70%以上**
 - ・教員室:教科の時間にも、探究的な内容やアプローチを入れるべきだとの方向になってきた。[東京都/私立/普通科]
 - ・一部の教師の、学びに対する見方が、広がった。[福岡県/私立/普通科と他学科併設]
 - ・教材研究を工夫している教員の増加[静岡県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・これまで調べ学習が中心であった総合学習の時間でしたが、教員が生徒たちに考えさせること、丁寧に振り返りさせることをこれまで以上に意識するようになったと感じる。[京都府/府立/普通科]

■ 教師間の連携意識の高まり

- **大短進学率70%以上**
 - ・教員も協働して総合探究の授業をすすめるため、他の校務においても協力がすすんだ。[岡山県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒はグループ活動を通じて意見を集約して発表する力を育んでいる。生徒の探究活動を通して、教師は生徒の学びに向かう姿勢の変化を感じ取っている。[福岡県/私立/普通科と他学科併設]
 - ・学年全体で探究活動の補助・指導にあたるのが当たり前のこととして定着した。[岩手県/県立/普通科]

■ 地域など外部への関心の高まり

- **大短進学率70%以上**
 - ・20～40代の教員に、地域や大学等と連携して課題解決に積極的に取り組む姿勢が多くみられるようになった。[山形県/県立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・特に地域に係わる内容に関して、生徒と同じ目線にて興味関心を持って取り組んでいる。(教員も生徒達も知るといふ事に積極的になってきている感じはある。)[秋田県/県立/普通科]

■ 取り組みに対する教師間の格差

- **大短進学率70%以上**
 - ・教材が良くても指導する教員のアントレプレナーシップのスキルが向上しないと頭打ちという感じがある。教員研修が難しい。[東京都/私立/普通科と他学科併設]
 - ・変化と言っていていか分からないが、生徒が変化するほどの内容・構成を組み上げるためには、相応の教員の負担があり、その負担とその他の仕事とのやり繰りに多大な苦勞が一部教員に降りかかっている。[愛知県/県立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・全体計画を立てて取り組んでいるが、教員の意識・力量に差があり、計画通りに進んでおらず、まだまだ結果が見えていない。[青森県/県立/総合学科]

■ 負担感が大きい

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒は意識が足りず、教員は負担が大きい。その割に得られるものは少なく感じてしまう。理念は理解できるが、実情、身の丈に合っていないように思える。[富山県/私立/普通科]
 - ・学校外との関連・ミッションや、授業分野以外の研鑽に費やす時間が確保できにくく、一部の教員に負荷がかかっているように思う。[大阪府/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・人手不足の中で、探究だけにとどまらず、教育改革という名のもとに業務が増えているような感じがする。探究活動を通しての変化は今のところ見られない。[山形県/私立/普通科]
 - ・生徒を少人数のグループに分けて実施しており、また、複数の教員が担当するが人的な保証がなく、教員の負担が非常に大きい。[鳥取県/県立/普通科]
 - ・特別活動・対外行事が増えた。従来の指導との間で日程調整が必要な場面が増えた。つまり多忙化した。[福島県/県立/普通科と他学科併設]

■ 評価基準が不明確・成果が見えない

- **大短進学率70%以上**
 - ・始めたばかりなので、その効果がまだわからない。教員の意識も手探りの中、目的をどのように達成するのか、どのように評価するのか非常に難しく悩ましい。[兵庫県/私立/普通科]

3. 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題

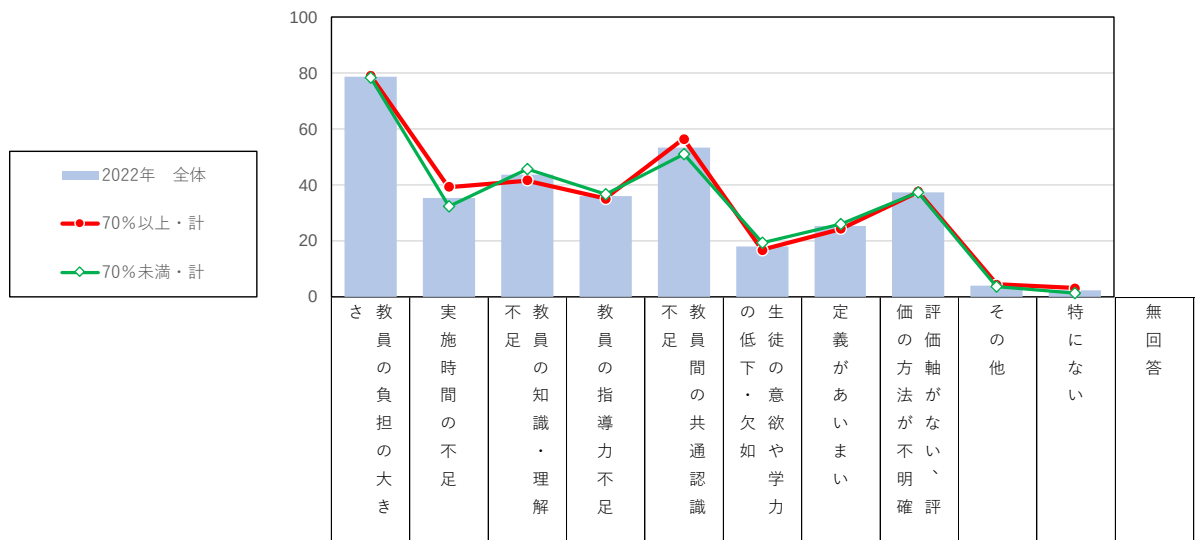
■ 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題は「教員の負担の大きさ」が79%でトップ。以下、「教員間の共通認識不足」「教員の知識・理解不足」が続く。

- 設置者別にみると、全般的に私立のスコアが高く、特に「教員の指導力不足」が全体を大きく上回る。一方、「教員の負担の大きさ」は国公立で高い。
- 高校タイプ別にみると、いずれも上位の項目は同じだが、専門学科は「教員の負担の大きさ」「教員の知識・理解不足」など教員に関する項目で全体を大きく下回る。
- 大短進学率別にみると、40～70%未満の層で「教員の知識・理解不足」「教員の指導力不足」が全体と比べて高い。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別にみると、プロジェクト等、一部の教員で取り組んでいる学校は「実施時間の不足」「生徒の意欲や学力の低下・欠如」以外の項目でスコアが高い。

■ 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題（「総合的な探究の時間」導入校／複数回答）

（%）

「総合的な探究の時間」に取り組むにあたって、どのような課題がありますか。



2022年 全体		(n= 895)	78.8	35.6	43.9	36.1	53.6	18.2	25.4	37.5	4.1	2.3	0.1
設置者別	国公立	(n= 644)	80.3	34.8	40.1	32.1	51.7	17.2	23.1	35.4	4.7	2.3	0.2
	私立	(n= 251)	74.9	37.8	53.8	46.2	58.6	20.7	31.1	43.0	2.8	2.4	—
高校タイプ別	普通科	(n= 736)	81.0	37.2	45.8	38.2	56.3	17.7	26.4	40.1	3.9	1.8	0.1
	総合学科	(n= 58)	77.6	19.0	43.1	32.8	50.0	22.4	19.0	24.1	5.2	1.7	—
	専門学科	(n= 85)	58.8	31.8	28.2	24.7	31.8	17.6	22.4	27.1	4.7	8.2	—
大短進学率別	70%以上・計	(n= 409)	79.0	39.4	41.8	35.2	56.5	16.9	24.4	37.7	4.6	3.2	—
	95%以上	(n= 156)	76.3	40.4	34.6	28.8	55.8	13.5	25.0	36.5	6.4	4.5	—
	70～95%未満	(n= 253)	80.6	38.7	46.2	39.1	56.9	19.0	24.1	38.3	3.6	2.4	—
	70%未満・計	(n= 486)	78.6	32.5	45.7	36.8	51.2	19.3	26.1	37.4	3.7	1.6	0.2
	40～70%未満	(n= 205)	82.0	36.6	55.1	44.9	56.6	18.5	24.4	41.0	3.4	0.5	0.5
	40%未満・計	(n= 281)	76.2	29.5	38.8	31.0	47.3	19.9	27.4	34.9	3.9	2.5	—
高校所在地別	北海道	(n= 70)	78.6	31.4	37.1	28.6	50.0	5.7	18.6	27.1	5.7	2.9	1.4
	東北	(n= 98)	76.5	37.8	36.7	38.8	59.2	16.3	20.4	42.9	1.0	2.0	—
	北関東・甲信越	(n= 106)	72.6	36.8	50.0	34.9	54.7	11.3	25.5	41.5	2.8	3.8	—
	南関東	(n= 152)	78.3	38.2	47.4	41.4	52.6	18.4	34.2	41.4	5.3	1.3	—
	東海	(n= 117)	81.2	26.5	36.8	22.2	48.7	16.2	27.4	34.2	3.4	5.1	—
	北陸	(n= 23)	82.6	39.1	65.2	47.8	73.9	30.4	43.5	34.8	—	—	—
	関西	(n= 99)	74.7	26.3	43.4	28.3	49.5	26.3	23.2	36.4	3.0	2.0	—
	中国・四国	(n= 104)	80.8	40.4	43.3	37.5	53.8	21.2	18.3	39.4	5.8	1.0	—
	九州・沖縄	(n= 126)	84.9	43.7	47.6	48.4	55.6	23.0	24.6	34.1	6.3	1.6	—
「総合的な探究の時間」取り組みあり・計		(n= 895)	78.8	35.6	43.9	36.1	53.6	18.2	25.4	37.5	4.1	2.3	0.1
「総合的な探究の時間」取り組み状況	組織的対応・計	(n= 803)	78.0	36.2	43.3	35.5	52.8	18.9	24.8	36.6	3.7	2.6	0.1
	学校全体・学年・課程・計	(n= 611)	77.4	35.5	42.4	34.5	48.9	20.5	25.2	35.5	3.6	3.1	0.2
	学校全体で組織的に	(n= 308)	78.6	36.7	36.7	33.4	44.2	16.2	20.8	30.8	3.2	3.9	—
	学年や課程・学科・コース単位で	(n= 303)	76.2	34.3	48.2	35.6	53.8	24.8	29.7	40.3	4.0	2.3	0.3
	進路指導部等、分掌が主導で	(n= 192)	79.7	38.5	46.4	38.5	65.1	14.1	23.4	40.1	4.2	1.0	—
	プロジェクト等、一部の教員で	(n= 92)	85.9	30.4	48.9	41.3	60.9	12.0	30.4	45.7	7.6	—	—

※全体値と比較して ■+10pt以上高い ■+5pt以上高い 〇0-5pt以上低い

Q45Q3

4. カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ

- 「総合的な探究の時間」を、カリキュラム・マネジメントの中核に「位置づけている」「位置づけようと考えている」学校が合計で42%。「位置づけたい」までまとめると、62%が意向あり。
- 2021年と比較して「位置づけている」は横ばい。一方、「位置づけようと考えている」が大きく低下した。
 - 設置者別にみると、国公立では「位置づけている」（34%）割合が高い。
 - 高校タイプ別にみると、総合学科では「位置づけている」が53%と突出して高い。
 - 大短進学率別では、95%以上の層で「位置づけている」割合が高い一方、「考えていない」も26%と高い。それ以外の層は「位置づけたい」「考えていない」「わからない」が同程度。
 - 「総合的な探究の時間」取り組み状況別にみると、学校全体で組織的に取り組んでいる学校では、約半数が「位置づけている」と回答しており、対応が進んでいる。

■「総合的な探究の時間」のカリキュラム・マネジメントへの位置づけ（「総合的な探究の時間」導入校／単一回答）

（%）

新しい学習指導要領では、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核に位置づけることが求められています。

それに対し、貴校の状況やお考えを教えてください。

			位置づけている／位置づけたい・計						
			位置づけている・計		中核に位置づ けたいがどう してよいかわ からない	「総合的な探 究の時間」を 中核に位置づ けたカリキュ ラム・マネジ メントは考え ていない	わからない	無回答	
			「総合的な探 究の時間」 を、既にカリ キュラムの中 核に位置づけ ている	次年度以降、 カリキュラム の中核に位置 づけようと思 っている					
凡例									
2022年 全体		(n= 895)	31.2	10.5	20.3		20.8	16.8	0.4
2021年 全体		(n=1,079)	32.4		27.0		16.2	12.8	0.4
2018年 全体		(n= 728)	26.6	17.0	15.7		17.2	21.4	2.1
【2022年属性別】									
設置者別	国公立	(n= 644)	34.2	10.7	18.6		19.1	16.9	0.5
	私立	(n= 251)	23.5	10.0	24.7		25.1	16.3	0.4
高校 タイプ別	普通科	(n= 736)	29.5	10.6	21.1		22.1	16.3	0.4
	総合学科	(n= 58)		53.4	3.4	13.8	10.3	17.2	1.7
	専門学科	(n= 85)	31.8	14.1	14.1		17.6	22.4	—
大短 進学率別	70%以上・計	(n= 409)	33.0	9.0	18.3		22.7	16.6	0.2
	95%以上	(n= 156)	37.8	10.9	15.4		26.9	9.0	—
	70～95%未満	(n= 253)	30.0	7.9	20.2		20.2	21.3	0.4
	70%未満・計	(n= 486)	29.6	11.7	22.0		19.1	16.9	0.6
	40～70%未満	(n= 205)	29.3	10.7	24.9		18.5	15.6	1.0
	40%未満・計	(n= 281)	29.9	12.5	19.9		19.6	17.8	0.4
高校 所在地別	北海道	(n= 70)	34.3	15.7	17.1		15.7	14.3	2.9
	東北	(n= 98)	32.7	13.3	16.3		24.5	13.3	—
	北関東・甲信越	(n= 106)	25.5	20.8	18.9		18.9	16.0	—
	南関東	(n= 152)	28.9	6.6	22.4		25.0	17.1	—
	東海	(n= 117)	35.9	6.8	18.8		21.4	16.2	0.9
	北陸	(n= 23)	21.7	8.7	34.8		17.4	17.4	—
	関西	(n= 99)	29.3	3.0	23.2		22.2	21.2	1.0
	中国・四国	(n= 104)	37.5	12.5	17.3		20.2	12.5	—
	九州・沖縄	(n= 126)	29.4	9.5	23.0		16.7	21.4	—
「総合的 な探究の 時間」取 組状況	取り組みあり・計	(n= 895)	31.2	10.5	20.3		20.8	16.8	0.4
	組織的対応・計	(n= 803)	32.4	10.3	19.4		20.4	16.9	0.5
	学校全体・学年・課程・計	(n= 611)	33.2	8.8	18.7		21.4	17.2	0.7
	学校全体で組織的に	(n= 308)		48.4	7.5	15.3	14.6	14.0	0.3
	学年や課程・学科・コース単位で	(n= 303)	17.8	10.2	22.1		28.4	20.5	1.0
	進路指導部等、分掌が主導で	(n= 192)	29.7	15.1	21.9		17.2	16.1	—
	プロジェクト等、一部の教員で	(n= 92)	20.7	12.0	28.3		23.9	15.2	—
※2018年：「総合的な学習の時間」の目標として、「探究的な学習の狙いを踏まえている」と回答した高校ベース									
※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／○0-5pt以下低い									

Q4SQ4

5. 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え

- ほとんどの学校が、「探究活動」が生徒の進路選択へつながると回答。「地域や社会への興味・関心が高まる」がトップ。
- 前回と比較すると、「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」が低下。

■ 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体／複数回答） (%)

探究活動は、生徒の進路選択にどのようにつながるとお考えですか。

	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
志望校や志望分野選びにつながる	51.3	48.6
総合型選抜等、入学者選抜に活用できる	52.4	50.7
前向きな進路選択の態度の醸成につながる	46.9	61.2
地域や社会への興味・関心が高まる	57.4	60.1
自己の生き方・在り方につながる	48.7	*
その他	1.4	2.6
進路実現につながると思わない	3.9	1.8
無回答	0.8	0.3

*：2021年は該当の選択肢なし

Q5

- 設置者別にみると、国公立は「地域や社会への興味・関心が高まる」、私立は「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」がそれぞれ高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「地域や社会への興味・関心が高まる」が全体と比べて高い。一方、専門学科は全体を下回る項目が多く、「進路実現につながる・計」も88%と低い。
- 大短進学率別では、進学率が高い層で「志望校選びや志望分野選びにつながる」が高い一方、進学率が低い層は「地域や社会への興味・関心が高まる」が高い。70～95%未満、40～70%未満の中間層で、は「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」が全体と比べて高い。
- 「カリキュラム・マネジメント」における位置づけ別にみると、位置づけている学校で全体と比べて高い項目が多く、特に「志望校選びや志望分野選びにつながる」で差が大きい。

■「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体／複数回答）

(%)

探究活動は、生徒の進路選択にどのようにつながるとお考えですか。

			進路実現につながる・計					その他	が進路と実現 に つ な い	無 回 答	が進路・実 計 に つ な	
			る野志 選望 び校 にや つ志 な望 が分	用入総 で学合 き者型 る選選 抜抜 に等 活、	に択前 つの向 な態き が度な るの進 釀路 成選	ま興地 る味域 ・や 関社 心会 がへ 高の	る在自 り己 方の に生 つき な方 が・					
2022年 全体			(n= 943)	51.3	52.4	46.9	57.4	48.7	1.4	3.9	0.8	95.2
設置者別	国公立		(n= 676)	51.3	50.6	45.9	60.4	49.1	1.6	3.7	0.9	95.4
	私立		(n= 267)	51.3	56.9	49.4	49.8	47.6	0.7	4.5	0.7	94.8
高校 タイプ別	普通科		(n= 758)	54.6	56.2	48.3	58.0	50.0	1.5	3.4	0.3	96.3
	総合学科		(n= 60)	53.3	43.3	48.3	63.3	50.0	—	5.0	1.7	93.3
	専門学科		(n= 109)	28.4	32.1	38.5	49.5	41.3	1.8	7.3	4.6	88.1
大短 進学率別	70%以上・計		(n= 425)	60.2	56.5	50.8	50.8	51.1	2.4	3.8	0.2	96.0
	95%以上		(n= 161)	59.6	46.0	50.3	49.1	47.8	3.1	3.7	0.6	95.7
	70～95%未満		(n= 264)	60.6	62.9	51.1	51.9	53.0	1.9	3.8	—	96.2
	70%未満・計		(n= 518)	44.0	49.0	43.6	62.7	46.7	0.6	4.1	1.4	94.6
	40～70%未満		(n= 211)	53.6	63.5	46.9	69.2	44.5	—	2.4	0.9	96.7
	40%未満・計		(n= 307)	37.5	39.1	41.4	58.3	48.2	1.0	5.2	1.6	93.2
高校 所在地別	北海道		(n= 75)	46.7	49.3	52.0	64.0	50.7	—	5.3	1.3	93.3
	東北		(n= 100)	54.0	56.0	41.0	76.0	51.0	—	3.0	1.0	96.0
	北関東・甲信越		(n= 110)	49.1	48.2	45.5	60.0	48.2	1.8	3.6	2.7	93.6
	南関東		(n= 164)	59.1	59.8	54.3	43.3	53.0	1.8	5.5	0.6	93.9
	東海		(n= 130)	45.4	39.2	50.0	50.0	48.5	2.3	2.3	0.8	96.9
	北陸		(n= 23)	52.2	60.9	43.5	47.8	30.4	—	4.3	—	95.7
	関西		(n= 99)	45.5	40.4	47.5	53.5	48.5	2.0	5.1	1.0	93.9
	中国・四国		(n= 110)	54.5	61.8	35.5	61.8	40.0	1.8	2.7	—	97.3
九州・沖縄		(n= 132)	51.5	58.3	47.0	62.9	51.5	0.8	3.8	—	96.2	
「総合的 な探究の 時間」取 組状況	取り組みあり・計		(n= 895)	52.0	53.5	47.5	58.2	49.1	1.3	3.8	0.2	96.0
	組織的対応・計		(n= 803)	52.4	53.4	48.3	58.7	49.1	1.4	4.1	0.1	95.8
	学校全体・学年・課程・計		(n= 611)	50.7	52.0	48.1	58.6	47.0	1.5	4.4	0.2	95.4
	学校全体で組織的に		(n= 308)	57.1	56.2	50.6	61.4	52.9	1.3	3.2	—	96.8
	学年や課程・学科・コース単位で		(n= 303)	44.2	47.9	45.5	55.8	40.9	1.7	5.6	0.3	94.1
	進路指導部等、分掌が主導で		(n= 192)	57.8	57.8	49.0	58.9	55.7	1.0	3.1	—	96.9
	プロジェクト等、一部の教員で		(n= 92)	47.8	54.3	40.2	54.3	48.9	1.1	1.1	1.1	97.8
	未取り組み		(n= 36)	47.2	33.3	38.9	52.8	44.4	2.8	8.3	—	91.7
「カリ キュラ ム・マネ ジメン ト」にお ける位置 づけ	中核に位置づけている・位置づけたい・計		(n= 555)	58.4	58.7	51.2	63.8	52.3	1.1	1.8	0.2	98.0
	位置づけている・計		(n= 373)	61.9	61.1	51.5	65.1	55.2	1.6	1.3	0.3	98.4
	既に中核に位置づけている		(n= 279)	60.9	61.6	51.3	65.9	57.7	1.8	1.4	—	98.6
	次年度以降、中核に位置づけようと考えている		(n= 94)	64.9	59.6	52.1	62.8	47.9	1.1	1.1	1.1	97.9
	位置づけたいがどうしてよいかわからない		(n= 182)	51.1	53.8	50.5	61.0	46.2	—	2.7	—	97.3
	中核に位置づけたカリキュラム・マネジメントは考えていない わからない		(n= 186) (n= 150)	45.7 36.7	46.8 43.3	41.4 42.0	50.5 48.0	44.6 44.0	1.1 2.7	7.0 7.3	— —	93.0 92.7

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

05

「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入について

1. 「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入・活用状況

- 「アントレプレナーシップ教育」について、「導入・活用している」「導入・活用を検討している」を合わせると18%。「導入・活用をしていないし、する予定もない」が過半数を占める。

- 設置者別にみると、私立は「導入／検討中・計」が国公立に比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科は「導入・活用している」が16%で全体と比べて高く、「導入・活用を検討している」まで含めると25%に及ぶ。

■ 「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入・活用状況（全体／単一回答）

(%)

貴校において、現時点で「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」を導入・活用していますか。

			導入／検討中・計		導入・活用を していない し、する予定 もない	わからない	無回答		導入／ 検討 中・計
			学校全体、も しくは一部で 導入・活用し ている	導入・活用し ていないが、 導入・活用を 検討している					
凡例									
2022年 全体			9.5	8.6	58.7		22.8	0.3	18.1
設置者別	国公立	(n= 676)	8.7	7.7	59.6		23.7	0.3	16.4
	私立	(n= 267)	11.6	10.9	56.6		20.6	0.4	22.5
高校 タイプ別	普通科	(n= 758)	8.8	8.6	60.4		22.0	0.1	17.4
	総合学科	(n= 60)	8.3	8.3	53.3		28.3	1.7	16.7
	専門学科	(n= 109)	15.6	9.2	49.5		24.8	0.9	24.8
大短進学 率別	70%以上・計	(n= 425)	11.1	6.6	58.6		23.8	—	17.6
	95%以上	(n= 161)	11.2	5.6	58.4		24.8	—	16.8
	70～95%未満	(n= 264)	11.0	7.2	58.7		23.1	—	18.2
	70%未満・計	(n= 518)	8.3	10.2	58.9		22.0	0.6	18.5
	40～70%未満	(n= 211)	8.1	13.7	56.4		21.3	0.5	21.8
	40%未満・計	(n= 307)	8.5	7.8	60.6		22.5	0.7	16.3
高校所在 地別	北海道	(n= 75)	10.7	10.7	60.0		18.7	—	21.3
	東北	(n= 100)	7.0	9.0	59.0		25.0	—	16.0
	北関東・甲信越	(n= 110)	8.2	16.4	56.4		18.2	0.9	24.5
	南関東	(n= 164)	10.4	6.1	64.0		19.5	—	16.5
	東海	(n= 130)	8.5	5.4	57.7		27.7	0.8	13.8
	北陸	(n= 23)	8.7	—	65.2		26.1	—	8.7
	関西	(n= 99)	13.1	9.1	50.5		26.3	1.0	22.2
	中国・四国	(n= 110)	10.9	6.4	65.5		17.3	—	17.3
	九州・沖縄	(n= 132)	8.3	9.8	53.8		28.0	—	18.2

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q6

<フリーアンサー> 「アントレプレナーシップ教育」の導入に取り組むにあたっての課題や不安

■ 学校体制に関する課題や不安

● 大短進学率70%以上

- ・やはり起業意識の醸成を実現できる教員が不足している。また、外部（企業）との連携ネットワークを持っている教員、持っていない教員の格差が大きい。[京都府/私立/普通科]
- ・どうしたら実務経験者と持続的な関係を築くことができるかが課題。[大阪府/市立/普通科]
- ・担当する教員の負担が大きい。[神奈川県/県立/普通科]
- ・関心はあるものの、探究活動やICTの導入など、優先度の高い他の教育活動で精一杯の感がある。教員の働き方改革も叫ばれる現在、さらなる教育活動の拡大には慎重にならざるをえない。[島根県/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・教職以外の経験に乏しい教員が、どこまで教えることができるのか不安である。[広島県/県立/普通科]
- ・教員に教科教育でないものへの対応を増加させようというところが、まず間違っている。教科指導準備の時間が全然足りていない。[山口県/県立/普通科]
- ・一般的に言って、教員があまり持ち合わせていない精神の教育に校内の組織のみで取り組むのは難しい。この教育の意義、現代の生徒にとっての必要性、具体的なモデルとなる授業など研修できる機会が必要。[茨城県/県立/総合学科]

■ 生徒への必要性に関する課題や不安

● 大短進学率70%以上

- ・現実的ではないし、高校生段階で行う必要が現状では不明。[富山県/私立/普通科]
- ・生徒が必ずしも意欲的でない。時間も不足している。[長野県/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・全高校生に必要な素養だとは思えない。[埼玉県/県立/普通科]
- ・探究学習が深化してくると、自然発生的にアントレプレナーシップ教育が必要になってくると思うが、今はその段階ではない。[福島県/私立/普通科]
- ・基礎的な知識や技能の向上が最優先課題と考えている。知るからこそ面白みが理解でき、そこから創造が広がり、アントレプレナーシップにつながると考える。[神奈川県/県立/普通科]
- ・高校生段階での導入は、真摯な社会人としての生き方よりも、安易な進路選択を導く危険性につながる、という不安がある。[神奈川県/県立/普通科]

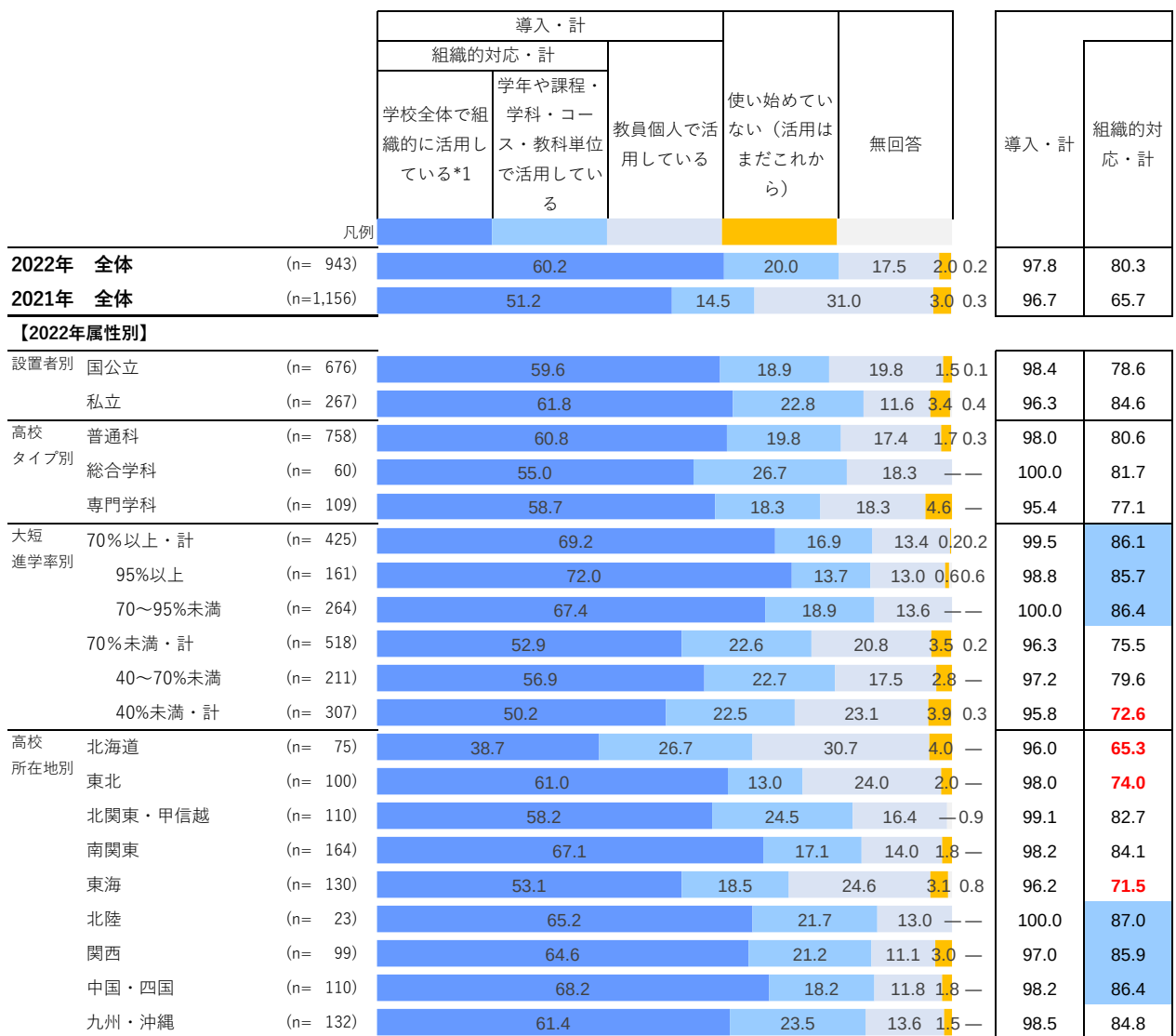
1. 教育活動へのICT活用状況

- 98%が授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用。
- 「学校全体で」「学年や課程・学科・コース・教科単位で」を合わせた「組織的対応・計」は80%で、前回から大きく上昇した。
 - 設置者別にみると、私立は「組織的対応・計」が85%で国公立と比べて高い。
 - 大短進学率別にみると、進学率が70%以上の層では「組織的対応・計」のスコアが高く86%を占める。

■教育活動へのICT活用状況（全体／単一回答）

（%）

授業、ホームルーム、探究等の教育活動にICTを活用していますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／■0.0-5pt以上低い

※*1：2021年の選択肢は「学校全体で組織的に活用を推進している」

2. ICT活用による生徒の変化

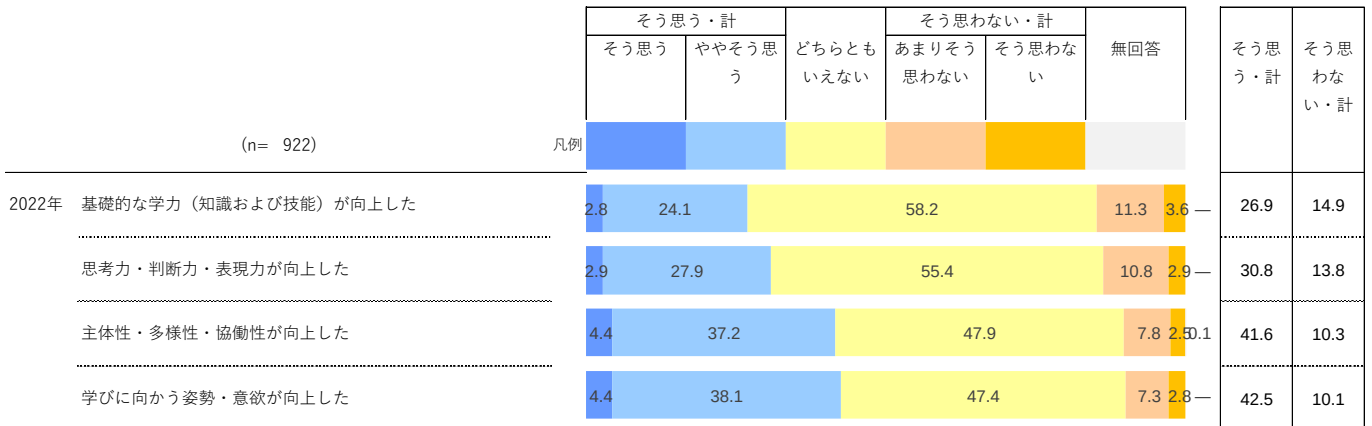
- ICT活用への取り組みによる生徒の変化として「**そう思う・計**」の割合が高いのは、【**学びに向かう姿勢・意欲が向上した**】（43%）、【**主体性・多様性・協働性が向上した**】（42%）。

- 高校タイプ別にみると、専門学科は「基礎的な学力（知識および技能）が向上した」「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」が全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が低いほどスコアが高い項目が多く、「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」で差が顕著。

■ICT活用への取り組みによる生徒の変化（「ICT活用」実施校／各単一回答）

（%）

ICT活用に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。



Q8

■ICT活用への取組による生徒の変化（「ICT活用」実施校／各単一回答） ※「そう思う・計」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

（%）

ICT活用に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

		A)基礎的な学力 （知識および技 能）が向上した	B)思考力・判断 力・表現力が向上 した	C)主体性・多様 性・協働性が向上 した	D)学びに向かう姿 勢・意欲が向上し た	
2022年	全体	(n= 922)	26.9	30.8	41.6	42.5
設置者別	国公立	(n= 665)	26.9	30.2	42.1	43.8
	私立	(n= 257)	26.8	32.3	40.5	39.3
高校 タイプ別	普通科	(n= 743)	26.9	30.3	41.3	41.6
	総合学科	(n= 60)	16.7	31.7	41.7	36.7
	専門学科	(n= 104)	35.6	35.6	44.2	51.9
大短 進学率別	70％以上・計	(n= 423)	24.6	28.8	37.1	35.7
	95％以上	(n= 159)	20.8	27.7	37.1	35.8
	70～95％未満	(n= 264)	26.9	29.5	37.1	35.6
	70％未満・計	(n= 499)	28.9	32.5	45.5	48.3
	40～70％未満	(n= 205)	32.7	35.1	48.3	47.8
	40％未満・計	(n= 294)	26.2	30.6	43.5	48.6
高校 所在地別	北海道	(n= 72)	26.4	29.2	40.3	36.1
	東北	(n= 98)	24.5	31.6	46.9	55.1
	北関東・甲信越	(n= 109)	19.3	22.0	46.8	38.5
	南関東	(n= 161)	31.1	36.6	34.8	46.0
	東海	(n= 125)	24.8	28.8	37.6	38.4
	北陸	(n= 23)	26.1	26.1	43.5	47.8
	関西	(n= 96)	33.3	33.3	41.7	43.8
	中国・四国	(n= 108)	25.0	29.6	43.5	37.0
	九州・沖縄	(n= 130)	29.2	33.1	44.6	42.3
「ICT」	活用・計	(n= 922)	26.9	30.8	41.6	42.5
活用状況	学校全体・学年・課程・計	(n= 757)	29.2	34.3	45.6	45.3
	学校全体で組織的に	(n= 568)	32.0	37.5	48.6	47.0
	学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 189)	20.6	24.9	36.5	40.2
	教員個人で	(n= 165)	16.4	14.5	23.6	29.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q8TOP2

<フリーアンサー> 「ICT活用」による生徒・教員の変化

生徒の変化

■ 学習意欲の向上、授業へのフィードバック

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒の考えをダイレクトに授業にフィードバックできる点でメリットが大きい。[秋田県/県立/普通科]
 - ・ICTで視覚的素材の提供、提出物の提出、発表機会の提供など、学習意欲の向上に寄与している。[長野県/県立/普通科]
 - ・ICT（タブレットを使うこと）に対する罪悪感（抵抗）がなくなった。活用できるものは何でも活用して勉強しようという機運。[愛知県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・授業や活動への参加意欲が向上し、クラス内の作業で孤立しがちな生徒も積極的に関わろうと努めている。[茨城県/県立/総合学科]
 - ・ICT活用スキルの底上げにつながっているように感じる。基本的な操作方法を、生徒同志で教え合い、活用できている。[愛知県/県立/普通科]
 - ・筆記が苦手な生徒たちの中にはICTツールを活用することで学習に積極的になりつつある者も増えている。[長野県/県立/普通科]

■ 学習や思考の深掘り不足、想像力の低下

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒はICTに慣れているが、情報を自分のタブレットに取り入れた時点で満足してしまっている様子も見られる。[新潟県/県立/普通科]
 - ・情報がネット中心になっているのは仕方ないが、結論を急ぐあまり、ソースの信頼性よりも自分のストーリーに都合の良いものを優先的に選ぶケースを減らすことができない。[茨城県/県立/普通科]
 - ・書くということへの抵抗感が強まったように感じる。[三重県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・分かりやすくなった反面、想像する力は弱くなった気がします。[和歌山県/県立/普通科]
 - ・学びに向かう姿勢によって、ICTへの取組に差が生じ、広い意味での学力差が生まれた。[神奈川県/県立/普通科]

教員の変化

■ 授業の効率化、教員負担の軽減

- **大短進学率70%以上**
 - ・準備が大変だが、1度作成すると負担軽減につながる。[千葉県/県立/普通科]
 - ・指導の多様性への認識。[富山県/県立/普通科]
 - ・教員と生徒とのコミュニケーションの機会が増えたことがプラスの要素として考えられます。[長野県/私立/普通科]
 - ・調査・アンケート等の負担が軽減された。[岡山県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・板書だけでなくICTを利用することで授業の効率がアップした。[石川県/県立/その他]
 - ・一斉全校集合型でなくても臨機応変に小集団で取り組ませる意識、学校（授業）に來られない生徒に対してオンライン対応する気持ちのハードルが下がった。[埼玉県/県立/普通科]
 - ・授業効率の向上により、実験やグループワークといった活動に多くの時間を確保できるようになった。[岐阜県/県立/普通科]

■ 教員間の取り組み態度・スキルの格差

- **大短進学率70%以上**
 - ・ICTを使うことが目的化してしまっている。一方で、上手にICTを利用できない（活用しようとしなない。スキルではなくやる気の部分）教員も一定数いる。[福岡県/県立/普通科]
 - ・教職員間の取組姿勢やスキルの格差が激しく、職場内での教員間の分断が一層顕著になった。[東京都/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・転換期であるため教員の準備の負担がかなり大きく感じる。[熊本県/県立/普通科]
 - ・教員のICT活用スキルに差がありすぎる。[東京都/都立/普通科]

3. 今後の教育活動におけるICT活用方法

- 今後の教育活動におけるICTの活用方法は「宿題・課題等をオンラインで配布」が74%で突出。前年と比較してもスコアが高くなっている。
- 一方、「コミュニケーション活用」は前回と比べて低くなっている。

■今後の教育活動におけるICT活用方法（全体／複数回答）

（%）

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。

		2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
授業での活用・計	オンラインによる双方向型授業・学習支援	53.8	55.9
	動画配信によるオンデマンド型授業	31.6	39.6
	対面とオンラインのハイブリッド型授業	42.2	44.9
宿題・課題等をオンラインで配布		74.3	68.0
コミュニケーション活用・計	ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施	18.2	21.7
	学校と家庭とのコミュニケーション	33.0	40.2
外部との連携力強化・計	地域社会や海外との連携、協力の強化	36.1	35.5
	他の高校との連携、協力の強化	25.2	22.2
その他		2.4	3.3
まだ活用のイメージがついていない		4.2	4.8
無回答		—	0.1

授業での活用・計	74.0	77.8
宿題・課題の配信	74.3	68.0
コミュニケーション活用・計	41.9	50.1
外部との連携力強化・計	43.2	41.5

Q9

- 設置者別にみると、国公立は「外部との連携力強化・計」、私立は「授業での活用・計」「宿題・課題の配信」「コミュニケーション活用・計」がそれぞれ高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「宿題・課題の配信」が全体と比べて高い一方、「授業での活用・計」「コミュニケーション活用・計」が低い。
- 大短進学率別にみると、95%以上の層は「外部との連携力強化・計」が全体と比べて高い。一方、40～70%未満の層は「宿題・課題の配信」が高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学校全体で組織的にを行っている学校はいずれもスコアが高めの項目が多く、「授業での活用・計」で差が顕著。

■今後の教育活動におけるICT活用方法（全体／複数回答）

(%)

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。

		授業での活用・計				コミュニケーション活用・計		外部との連携力強化・計		その他	さまざまな使い方のない	無回答	授業での活用・計	宿題・課題の配信	コミュニケーション	外部との連携力強化
		習得支援型授業による	双方向型授業による	動画配信型授業による	授業計画・教材の活用	宿題・課題の配信	学習履歴の活用	学校・家庭・社会での活用	地域・連携校との連携							
2022年 全体	(n= 943)	53.8	31.6	42.2	74.3	18.2	33.0	36.1	25.2	2.4	4.2	—	74.0	74.3	41.9	43.2
設置者別																
国公立	(n= 676)	52.2	29.9	39.9	72.3	16.7	29.1	37.1	27.5	2.2	4.7	—	71.9	72.3	38.0	45.0
私立	(n= 267)	57.7	36.0	47.9	79.4	22.1	42.7	33.3	19.5	3.0	3.0	—	79.4	79.4	51.7	38.6
高校タイプ別																
普通科	(n= 758)	55.3	32.1	42.7	74.1	18.6	33.8	35.9	25.3	2.8	4.0	—	74.7	74.1	42.9	43.0
総合学科	(n= 60)	48.3	31.7	45.0	83.3	13.3	23.3	40.0	25.0	—	3.3	—	66.7	83.3	30.0	43.3
専門学科	(n= 109)	46.8	27.5	39.4	68.8	19.3	32.1	33.9	26.6	1.8	6.4	—	71.6	68.8	40.4	44.0
大短進学率別																
70%以上・計	(n= 425)	56.9	36.0	45.2	74.6	21.2	36.0	38.6	25.6	2.8	4.0	—	75.1	74.6	46.1	44.9
95%以上	(n= 161)	52.8	36.0	47.2	71.4	21.7	36.0	42.2	32.3	1.9	3.7	—	70.2	71.4	46.0	50.3
70～95%未満	(n= 264)	59.5	36.0	43.9	76.5	20.8	36.0	36.4	21.6	3.4	4.2	—	78.0	76.5	46.2	41.7
70%未満・計	(n= 518)	51.2	28.0	39.8	74.1	15.8	30.5	34.0	24.9	2.1	4.4	—	73.2	74.1	38.4	41.7
40～70%未満	(n= 211)	52.1	34.6	41.7	80.6	19.9	37.4	36.5	27.5	3.3	2.8	—	75.8	80.6	46.4	42.2
40%未満・計	(n= 307)	50.5	23.5	38.4	69.7	13.0	25.7	32.2	23.1	1.3	5.5	—	71.3	69.7	32.9	41.4
高校所在地別																
北海道	(n= 75)	49.3	22.7	33.3	73.3	12.0	38.7	37.3	34.7	2.7	2.7	—	66.7	73.3	41.3	46.7
東北	(n= 100)	53.0	30.0	47.0	71.0	20.0	39.0	53.0	29.0	3.0	4.0	—	73.0	71.0	45.0	55.0
北関東・甲信越	(n= 110)	54.5	25.5	43.6	67.3	15.5	27.3	37.3	22.7	3.6	4.5	—	79.1	67.3	36.4	43.6
南関東	(n= 164)	59.1	48.2	52.4	82.3	25.0	43.3	31.1	22.6	1.8	3.0	—	77.4	82.3	52.4	38.4
東海	(n= 130)	44.6	23.1	33.8	71.5	19.2	30.8	33.1	24.6	1.5	5.4	—	63.8	71.5	39.2	40.8
北陸	(n= 23)	60.9	30.4	39.1	78.3	8.7	21.7	30.4	26.1	—	4.3	—	82.6	78.3	30.4	47.8
関西	(n= 99)	50.5	31.3	33.3	76.8	15.2	36.4	36.4	21.2	2.0	4.0	—	70.7	76.8	43.4	43.4
中国・四国	(n= 110)	58.2	25.5	42.7	71.8	17.3	22.7	37.3	30.0	2.7	2.7	—	77.3	71.8	34.5	47.3
九州・沖縄	(n= 132)	56.1	36.4	44.7	75.8	18.2	27.3	30.3	22.0	3.0	6.8	—	78.8	75.8	40.9	35.6
「ICT」活用状況																
活用・計	(n= 922)	54.2	31.7	42.4	74.6	18.5	33.4	36.3	25.6	2.5	4.1	—	74.3	74.6	42.4	43.6
学校全体・学年・課程・計	(n= 757)	56.3	33.2	44.8	76.1	18.9	33.9	38.7	26.4	2.5	2.5	—	76.5	76.1	43.2	46.5
学校全体で組織的に	(n= 568)	60.0	35.2	48.2	78.0	21.1	35.0	40.7	27.8	2.5	1.1	—	79.6	78.0	44.2	48.4
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 189)	45.0	27.0	34.4	70.4	12.2	30.7	32.8	22.2	2.6	6.9	—	67.2	70.4	40.2	40.7
教員個人で	(n= 165)	44.8	24.8	31.5	67.9	17.0	30.9	25.5	21.8	2.4	11.5	—	64.2	67.9	38.8	30.3
未活用	(n= 19)	36.8	26.3	26.3	63.2	5.3	10.5	26.3	10.5	—	10.5	—	57.9	63.2	15.8	26.3

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／〇0-5pt以上低い

4. ICTの活用によって狙いたい効果・変化

- ICTの活用によって狙いたい効果・変化のトップは、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」（64％）。
- 以下、「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」「先生方の負担軽減・校務の効率化」が同程度で続く。
- 前回と比較して大きな変化はないが、「学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上」「先生方の負担軽減・校務の効率化」など、先生に関わる期待が高まっている傾向。

■ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）

（％）

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。

	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる	64.2	64.2
生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる	51.0	50.0
先生方の負担軽減・校務の効率化	50.9	48.0
多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり	49.3	48.0
授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長	44.9	49.9
オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施	41.6	43.3
生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる	41.4	41.6
学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上	25.9	22.7
オンラインを活用した保護者との連携強化	16.5	22.0
その他	0.8	1.5
無回答	0.1	0.1

※「その他」「無回答」を除く項目で、2022年全体の降順ソート

Q10

- 設置者別にみると、私立は「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」「学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上」「オンラインを活用した保護者との連携強化」で全体と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」「先生方の負担軽減・校務の効率化」が全体と比べて高い。一方、専門学科は全般的にスコアが低め。
- 大短進学率別にみると、いずれの層も「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」が60%以上でトップだが、2位以降の項目は進学率によって異なる。
- 「ICT」活用状況別にみると、学校全体で組織的にを行っている学校はいずれもスコアが高めの項目が多く、「オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施」で差が顕著。

■ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）

(%)

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。

		上習生 げへ徒 るのの モ興 チ味を べー喚 ン起し ョン、 を学	で合生 きっ徒 るた一 方人 法ひと やと 進り 度が自 分学 習に	の先 効生 率方 化の 負担 軽減 ・校 務	の多 学様 びきな のるり 深こソ まーに りス よに るア 生ク 徒セ	習題授 時業 問等外 のもの 仲含家 長め庭 生習 徒ー の課 学	二果 ン的 グな やアイ ンク ンを 活用 し、 実ラ 施効	習学生 で習徒 きを自 ら探身 よりが うな自 にが分 る自最 学適自 な	授オ学 業等習 やをロ 各活グ 種用、 指しポ 導たー のト 質先フ 向生オ 上のリ	護オン 者との ライン 連携を 強化 用した 保	その他	無 回 答	
2022年 全体	(n= 943)	64.2	51.0	50.9	49.3	44.9	41.6	41.4	25.9	16.5	0.8	0.1	
設置者別	国公立	(n= 676)	64.8	48.8	50.4	49.0	43.9	40.1	42.6	23.1	13.5	1.0	—
	私立	(n= 267)	62.5	56.6	52.1	50.2	47.2	45.3	38.2	33.0	24.3	0.4	0.4
高校	普通科	(n= 758)	62.5	51.6	51.2	50.7	46.0	42.6	43.9	27.3	17.3	0.7	0.1
タイプ別	総合学科	(n= 60)	76.7	51.7	58.3	45.0	45.0	41.7	31.7	23.3	13.3	1.7	—
	専門学科	(n= 109)	67.9	47.7	45.9	43.1	36.7	34.9	31.2	19.3	14.7	0.9	—
大短	70%以上・計	(n= 425)	61.2	50.8	56.0	51.5	44.2	44.7	42.6	27.5	16.2	0.5	0.2
進学率別	95%以上	(n= 161)	60.2	46.0	57.8	59.6	34.8	43.5	44.7	24.8	14.9	1.2	—
	70～95%未満	(n= 264)	61.7	53.8	54.9	46.6	50.0	45.5	41.3	29.2	17.0	—	0.4
	70%未満・計	(n= 518)	66.6	51.2	46.7	47.5	45.4	39.0	40.3	24.5	16.8	1.2	—
	40～70%未満	(n= 211)	62.6	54.0	47.4	49.3	55.9	41.7	44.5	30.8	20.4	0.5	—
	40%未満・計	(n= 307)	69.4	49.2	46.3	46.3	38.1	37.1	37.5	20.2	14.3	1.6	—
高校	北海道	(n= 75)	57.3	44.0	44.0	53.3	44.0	38.7	44.0	22.7	20.0	—	—
所在地別	東北	(n= 100)	71.0	49.0	61.0	56.0	46.0	48.0	41.0	33.0	16.0	1.0	—
	北関東・甲信越	(n= 110)	61.8	40.9	42.7	49.1	40.0	35.5	38.2	22.7	13.6	—	—
	南関東	(n= 164)	61.6	57.3	54.3	56.7	58.5	44.5	47.0	32.3	28.0	0.6	0.6
	東海	(n= 130)	62.3	46.2	53.8	43.1	35.4	33.8	37.7	20.8	13.8	0.8	—
	北陸	(n= 23)	78.3	65.2	43.5	56.5	52.2	43.5	39.1	26.1	13.0	—	—
	関西	(n= 99)	58.6	56.6	45.5	40.4	47.5	33.3	40.4	21.2	11.1	2.0	—
	中国・四国	(n= 110)	68.2	49.1	50.0	49.1	40.9	46.4	36.4	22.7	7.3	0.9	—
	九州・沖縄	(n= 132)	68.2	56.8	53.0	44.7	40.9	49.2	44.7	28.0	18.2	1.5	—
「ICT」	活用・計	(n= 922)	64.6	51.4	50.9	49.9	45.2	42.1	41.6	26.4	16.6	0.8	0.1
活用状況	学校全体・学年・課程・計	(n= 757)	65.5	53.5	50.7	51.1	46.4	43.9	42.9	28.0	17.2	0.5	0.1
	学校全体で組織的に	(n= 568)	65.8	54.2	53.9	54.0	48.6	46.7	44.0	30.1	18.0	0.5	—
	学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 189)	64.6	51.3	41.3	42.3	39.7	35.4	39.7	21.7	14.8	0.5	0.5
	教員個人で	(n= 165)	60.6	41.8	51.5	44.2	40.0	33.9	35.8	18.8	13.9	1.8	—
	未活用	(n= 19)	36.8	31.6	47.4	21.1	31.6	21.1	31.6	5.3	15.8	5.3	—

※「その他」「無回答」を除く項目で、2022年全体の降順ソート ※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／○0.0-5pt以上低い

Q10

5. ICT活用にあたっての課題

■ ICT活用にあたっての課題は、「教員の知識・理解不足」「教員の負担の大きさ」が6割を超えて突出。

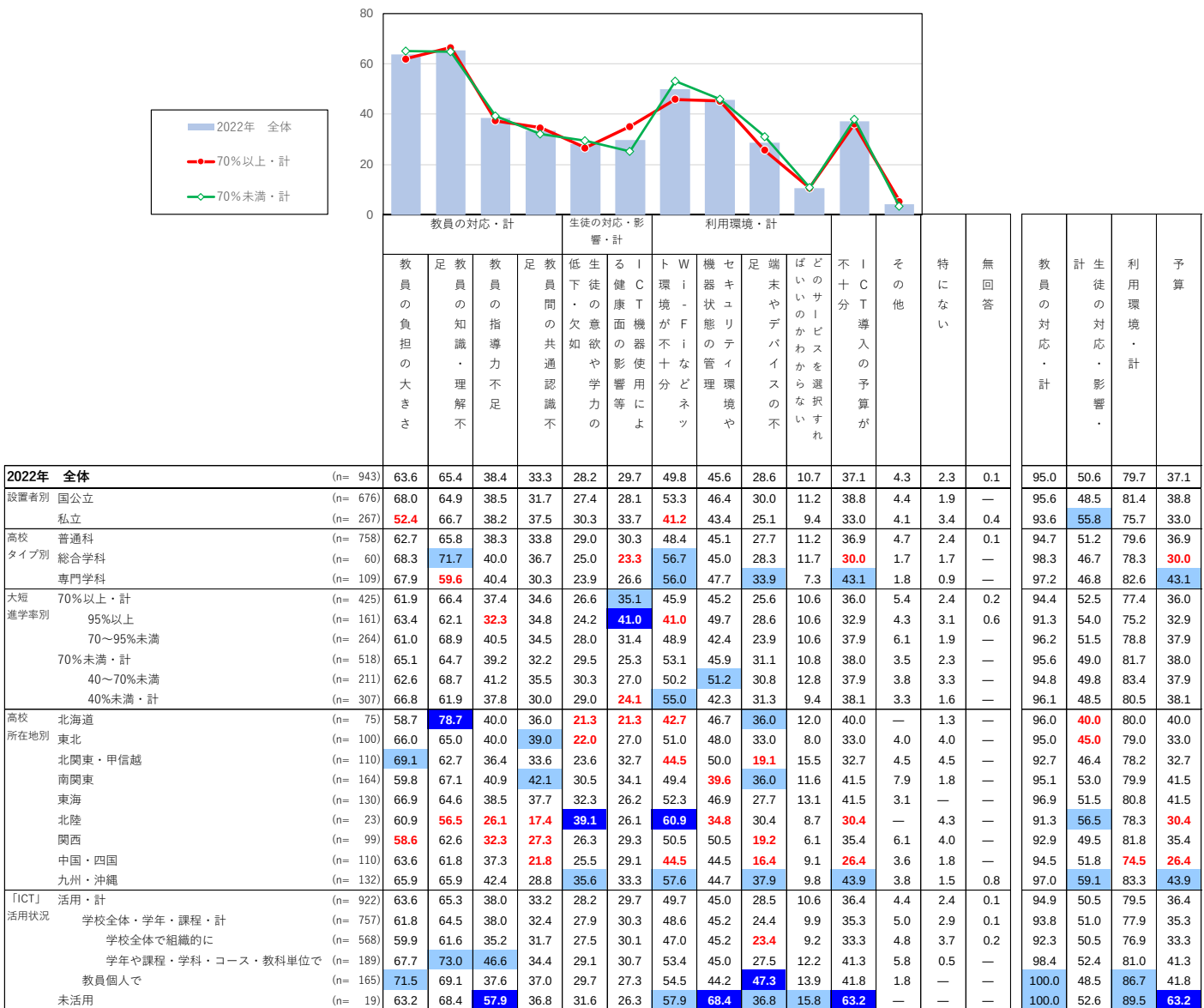
■ 次に、「Wi-Fiなどネット環境が不十分」など利用環境に関する内容が続く。

- 設置者別にみると、いずれも「教員の知識・理解不足」「教員の負担の大きさ」が上位だが、私立では「教員の負担の大きさ」のスコアが相対的に低い。
- 高校タイプ別にみると、上位の項目に大きな違いはないが、総合学科と専門学科は「Wi-Fiなどネット環境が不十分」が全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、上位の項目に大きな違いはないが、進学率が高い層は「ICT機器使用による健康面の影響等」、進学率が低い層は利用環境に関する項目がそれぞれ高くなっている。

■ 「ICT」活用にあたっての課題（全体／複数回答）

(%)

ICT活用にあたって、どのような課題がありますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q11

6. GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み

- GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組みは、「先生方の研修の強化（校内・校外）」が突出。
 - 前回と比較して、「推進計画の立案と教員間での共有」「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」などの準備フェーズの取り組みが減少し、より具体的な取り組みが増加。
- GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用の推進のために行っている取り組みや今後実施予定の取り組みについて尋ねたところ、「先生方の研修の強化（校内・校外）」（63%）が突出して高く、以下「デジタル教科書・教材の活用」（36%）が続く。
 - 時系列でみると、「デジタル教科書・教材の活用」「専門家やICTコーディネーターによるサポートを導入」などが増加。逆に「推進計画の立案と教員間での共有」「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」など、“準備フェーズ”の取り組みが減少しており、より具体的な取り組みが増加していることがわかる。

■ GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み（全体／複数回答） (%)

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取り組みや、今後実施予定の取り組みがございましたら教えてください。

	2022年 全体 (n= 943)			2021年 全体 (n=1,156)		
先生方の研修の強化（校内・校外）		62.9	1位		63.3	1位
デジタル教科書・教材の活用		36.3	2位		27.8	4位
推進計画の立案と教員間での共有		25.3	3位		31.0	3位
検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命		24.2	4位		33.0	2位
専門家やICT コーディネーターによるサポートを導入		24.0	5位		17.9	5位
先進校への視察		14.5	6位		17.4	6位
生徒の巻き込み		12.6	7位		13.8	8位
保護者との連携、協力の強化		11.3	8位		11.5	9位
地域社会や海外との連携、協力の強化		10.6	9位		15.1	7位
他の高校との連携、協力の強化		8.0	10位		8.4	11位
教育委員会との連携、協力の強化		6.4	11位		10.9	10位
その他		0.4			2.3	
特にない		12.9			12.6	
無回答		1.4			1.4	

※「その他」「特にない」「無回答」を除く項目の、2022年全体の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

Q12

- 設置者別にみると、私立は「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」「デジタル教科書・教材の活用」が全体と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「デジタル教科書・教材の活用」が相対的に高い。総合学科は「推進計画の立案と教員間での共有」「専門家やICTコーディネーターによるサポートを導入」が全体と比べて高い。

■GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み（全体／複数回答）

(%)

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取り組みや、今後実施予定の取り組みがございましたら教えてください。

		（先 校生 内方 ・校 研修 の強 化）	のデ 活ジ 用タル 教科 書・教 材	間推 進の計 画の立 案と教 員	ト検 討／推 進の立 上げプ ロジェ クト	ボデ ィネ ーター による サポート	先 進校 への視 察	生 徒の巻 き込み	の保 護者 との連 携、協 力	携地 、域社 会の強 化、外 との連 携	力他 の強 化、校 との連 携、協 力	協教 育委員 会との 連携、	そ の他	特 に な い	無 回 答
2022年 全体	(n= 943)	62.9	36.3	25.3	24.2	24.0	14.5	12.6	11.3	10.6	8.0	6.4	0.4	12.9	1.4
設置者別															
国公立	(n= 676)	62.1	33.0	24.6	21.4	25.4	13.3	10.8	10.5	10.2	9.0	8.6	0.4	12.7	1.5
私立	(n= 267)	64.8	44.6	27.3	31.1	20.2	17.6	17.2	13.5	11.6	5.2	0.7	0.4	13.5	1.1
高校															
普通科	(n= 758)	62.8	38.3	25.2	25.2	23.7	14.5	13.2	12.3	10.8	8.2	6.1	0.5	13.5	1.2
タイプ別															
総合学科	(n= 60)	66.7	26.7	33.3	21.7	30.0	16.7	13.3	8.3	6.7	10.0	10.0	—	8.3	—
専門学科	(n= 109)	60.6	29.4	24.8	19.3	21.1	12.8	10.1	6.4	10.1	6.4	4.6	—	11.9	2.8
大短															
進学率別															
70%以上・計	(n= 425)	62.4	40.2	26.8	26.1	24.7	16.0	12.7	11.8	12.0	9.6	7.1	0.7	14.1	1.2
95%以上	(n= 161)	62.7	41.0	28.6	24.8	26.1	16.1	13.7	6.8	15.5	8.7	6.2	0.6	14.9	1.9
70～95%未満	(n= 264)	62.1	39.8	25.8	26.9	23.9	15.9	12.1	14.8	9.8	10.2	7.6	0.8	13.6	0.8
70%未満・計	(n= 518)	63.3	33.0	24.1	22.6	23.4	13.3	12.5	11.0	9.5	6.6	5.8	0.2	12.0	1.5
40～70%未満	(n= 211)	67.8	39.3	22.7	25.6	25.6	14.7	16.1	14.2	10.4	7.1	4.7	0.5	10.9	1.4
40%未満・計	(n= 307)	60.3	28.7	25.1	20.5	21.8	12.4	10.1	8.8	8.8	6.2	6.5	—	12.7	1.6
高校															
所在地別															
北海道	(n= 75)	70.7	40.0	24.0	20.0	16.0	5.3	16.0	17.3	14.7	10.7	12.0	—	9.3	—
東北	(n= 100)	67.0	35.0	20.0	23.0	17.0	15.0	18.0	13.0	14.0	11.0	6.0	—	12.0	4.0
北関東・甲信越	(n= 110)	66.4	34.5	27.3	24.5	25.5	15.5	11.8	8.2	10.9	5.5	4.5	0.9	13.6	0.9
南関東	(n= 164)	59.1	36.0	26.8	25.6	26.2	9.1	17.7	15.9	12.2	5.5	3.7	—	15.2	0.6
東海	(n= 130)	56.9	30.0	29.2	29.2	16.2	17.7	7.7	7.7	6.9	4.6	5.4	—	14.6	0.8
北陸	(n= 23)	73.9	34.8	26.1	26.1	34.8	30.4	4.3	13.0	4.3	13.0	13.0	—	4.3	—
関西	(n= 99)	62.6	40.4	26.3	20.2	19.2	17.2	13.1	10.1	7.1	8.1	7.1	—	12.1	2.0
中国・四国	(n= 110)	60.9	36.4	20.9	21.8	31.8	16.4	11.8	6.4	13.6	8.2	8.2	1.8	10.0	1.8
九州・沖縄	(n= 132)	62.9	40.2	25.8	25.0	32.6	15.9	7.6	12.1	8.3	11.4	6.1	0.8	15.2	1.5
「ICT」															
活用状況															
活用・計	(n= 922)	63.1	36.9	25.5	24.2	24.0	14.5	12.9	11.6	10.8	8.1	6.4	0.4	12.5	1.4
学校全体・学年・課程・計	(n= 757)	66.8	38.8	27.6	25.1	24.6	15.1	14.3	12.4	12.0	8.7	6.9	0.5	10.2	1.5
学校全体で組織的に	(n= 568)	67.6	40.8	27.8	24.3	23.2	15.0	16.2	12.9	13.0	9.7	8.3	0.7	9.9	1.1
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 189)	64.6	32.8	27.0	27.5	28.6	15.3	8.5	11.1	9.0	5.8	2.6	—	11.1	2.6
教員個人で	(n= 165)	46.1	27.9	15.8	20.0	21.2	12.1	6.7	7.9	5.5	5.5	4.2	—	23.0	1.2
未活用	(n= 19)	52.6	10.5	21.1	21.1	26.3	10.5	—	—	—	—	5.3	—	36.8	—

※「その他」「特になし」「無回答」を除く項目の、2022年全体の降順ソート ※全体値と比較して ■全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q12

1. 令和3年度の受験者応募状況

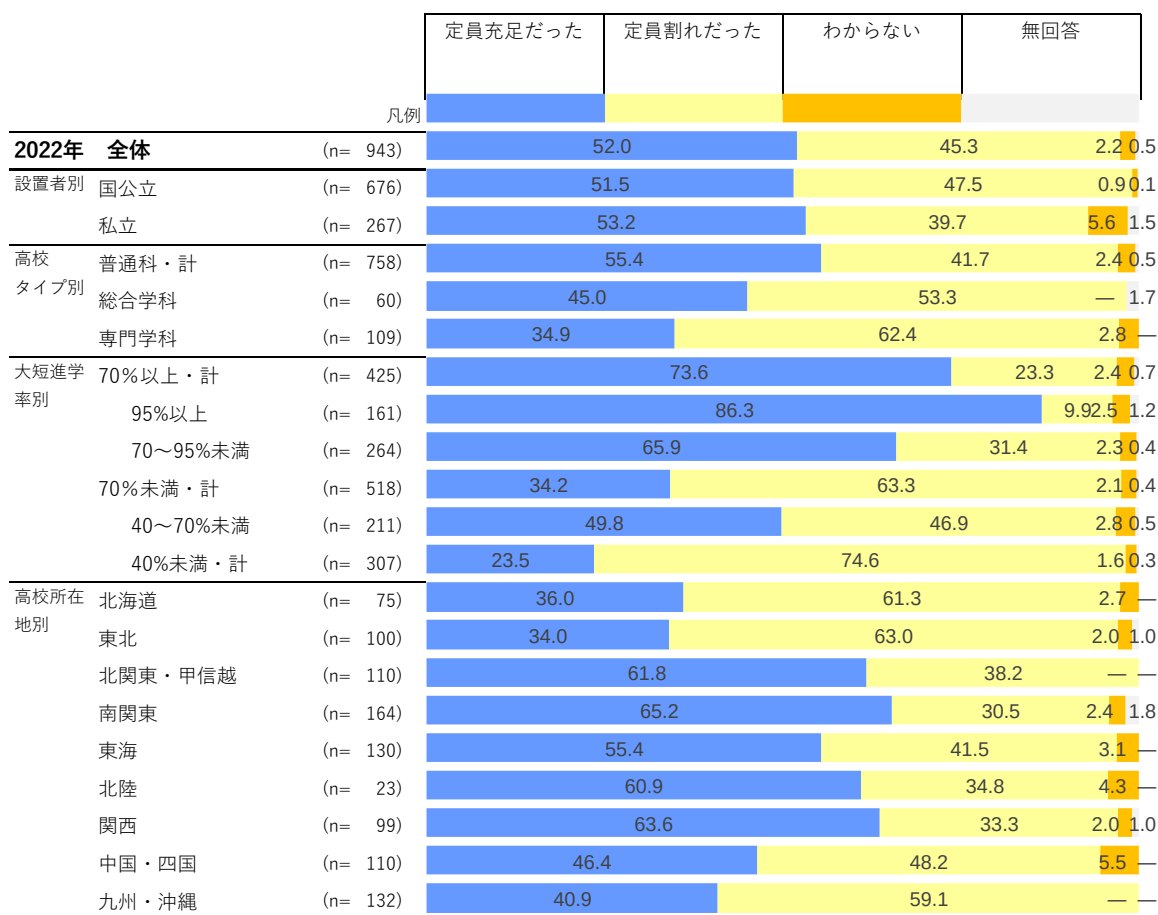
■ 令和3年度は45%の学校が「定員割れだった」。

- 設置者別にみると、国公立は「定員割れだった」が私立と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科は過半数が「定員割れだった」と回答し、特に専門学科は6割を超える。
- 大短進学率別にみると、進学率が低いほど「定員割れだった」のスコアが高くなっている。

■ 令和3年度の受験者応募状況（全体／単一回答）

（%）

貴校の受験者数について、令和3年度の応募状況を教えてください。



Q13

2. 定員割れに対する対策の検討・実施状況

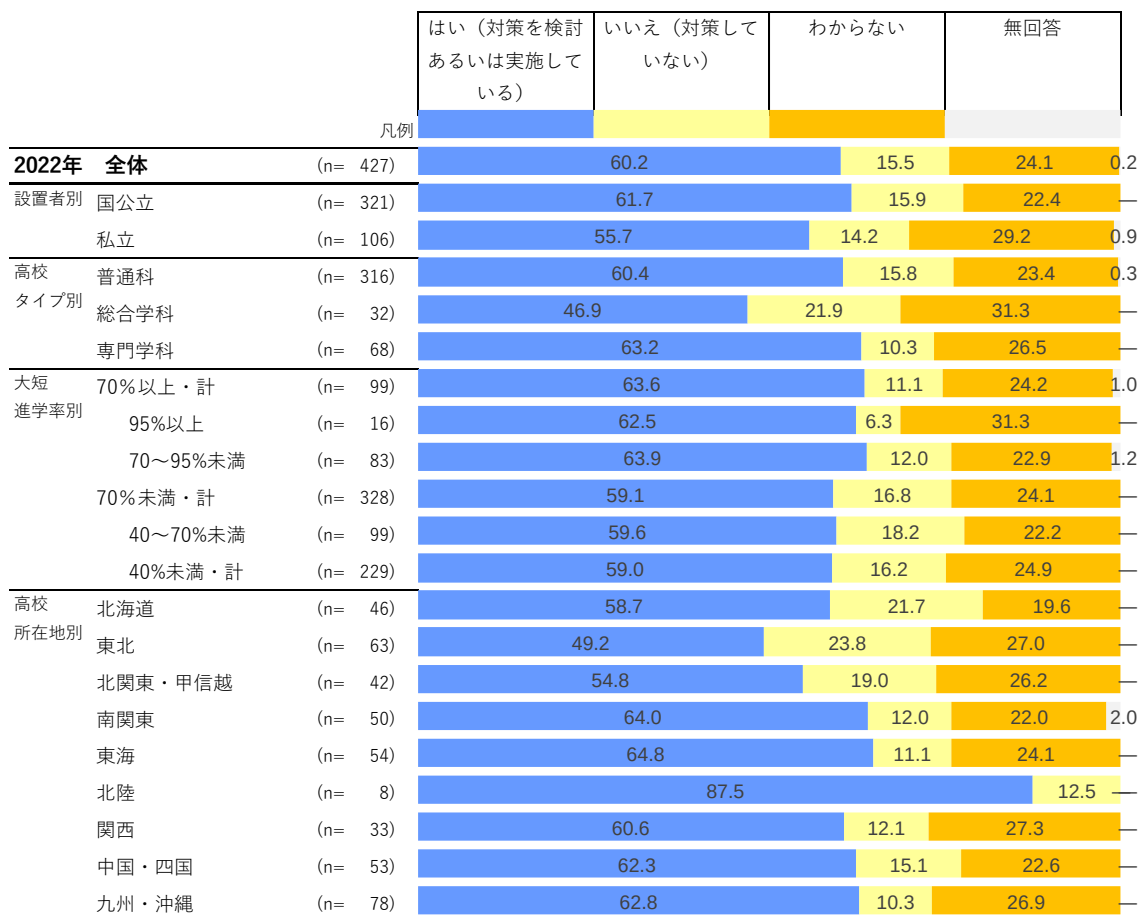
■ 定員割れに対して、6割以上が対策を検討あるいは実施している。

- 設置者別にみると、国公立は「はい（対策を検討あるいは実施している）」が私立と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「はい（対策を検討あるいは実施している）」が全体と比べて低く、対策をしていない学校も2割。

■ 定員割れに対する対策の検討・実施状況（令和3年度応募状況が「定員割れ」の高校／単一回答）

（%）

「定員割れだった」を選択した方にお尋ねします。「定員割れ」に対して、何か対策を検討あるいは実施していますか。



Q13SQ1

<フリーアンサー> 「定員割れ」に対する対策の具体的な内容

■ 中学校への働きかけ

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 中学校への広報活動を強化している。（出前授業、オープン・ハイスクール等）[兵庫県/県立/普通科]
 - ・ 地域住民や中学生に積極的に発信していく（HPの外部委託や、学校情報の更新頻度を上げる、進路実績を積極的にPRする等）。[岩手県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 中学校生徒および教員への説明を強化。校長も中学校へ訪問する予定である。[青森県/県立/専門学科]
 - ・ 中学校での学校説明会、中学生の体験入学、地域での学校説明会、中高連携進路合同事業。[北海道/道立/普通科]

■ イベント・広報活動

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 学校説明会などの機会を増やし、教育内容を出来るだけ理解してもらう。[福岡県/私立/普通科]
 - ・ 対面でのオープンスクール開催。[新潟県/県立/普通科]
 - ・ 魅力ある学校作りと広報活動の強化。[宮崎県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 在校生が本校に入学して大きく成長していく部分について、さまざまな媒体を通したアピールを地域に発信する。[岩手県/県立/普通科]
 - ・ 学校説明会の内容を、回ごとに变えて、多面的に本校の魅力を発信するとともに、受験への意識向上を図っている。[神奈川県/県立/普通科]
 - ・ SNSを利用した広報活動。[岡山県/県立/普通科]

■ 教育の充実

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 質の確保を目指し、在学生の教育の充実と、教員の教育力向上を目指して、取り組み始めている。[愛知県/私立/普通科]
 - ・ カリキュラムの再検討。教員自身が学校の魅力を共有するワークショップの実施。総合的な探究の時間のさらなる充実。[山形県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 福祉教育の充実と、資格試験、模試等への金銭的援助のPR。[北海道/道立/普通科]

■ その他

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 魅力ある学校づくりと入試基準の再検討。[東京都/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 地域みらい留学の活用、設置自治体からの支援、県内外の中学校訪問。[福島県/県立/普通科]
 - ・ 地域との連携強化～公共交通機関の利用について、自治体への働きかけなど周辺中学校へのPR強化。[山口県/県立/普通科]

進路検討における「オープンキャンパス」参加について

1. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度

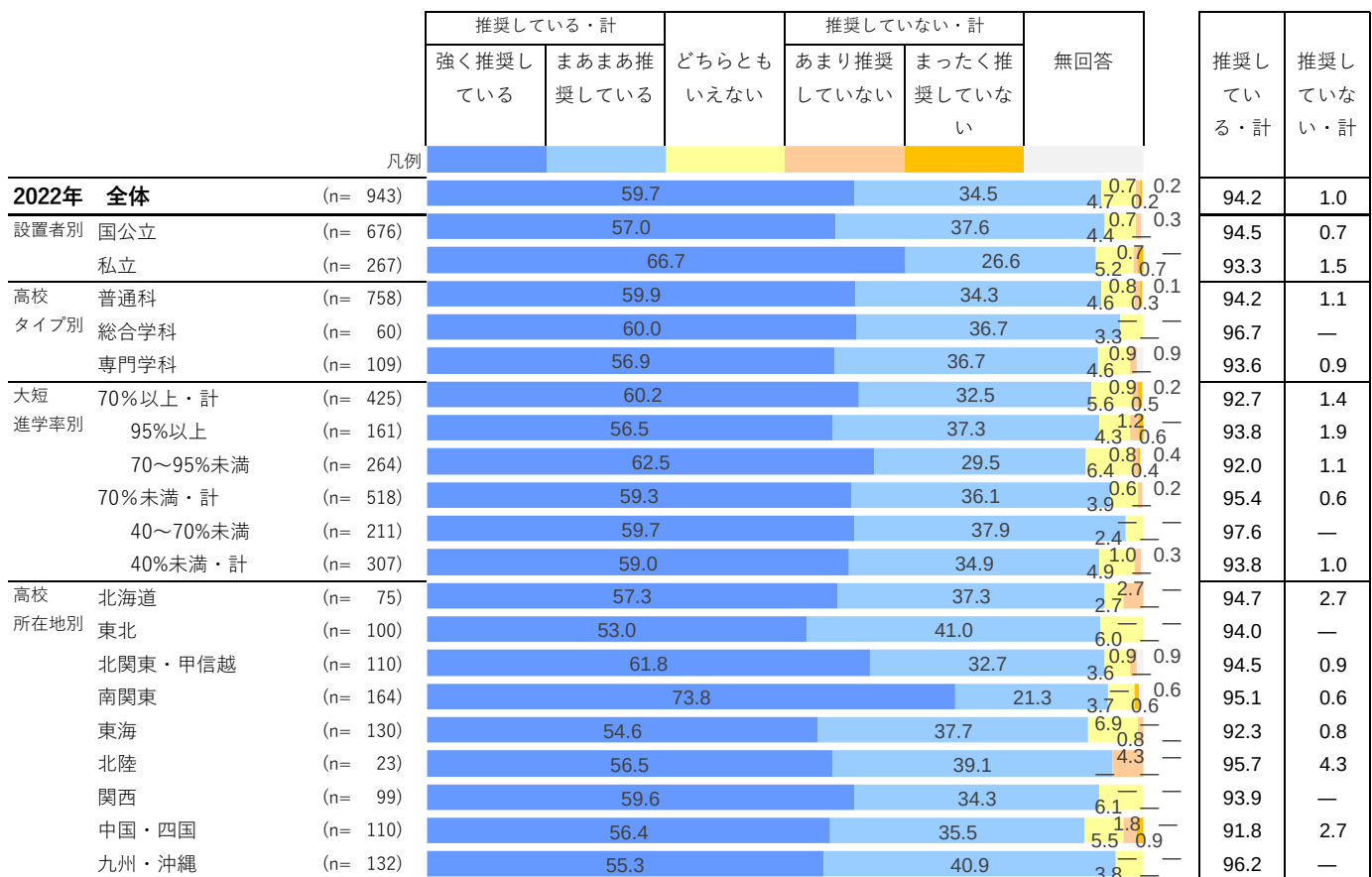
■ 94%の学校が「オープンキャンパス」参加を推奨、「強く推奨している」も6割。

- 設置者別にみると、私立は「強く推奨している」が67%で全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、「推奨している・計」に大きな差はみられないが、「強く推奨している」割合は、70～95%未満の層で高くなっている。

■ 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度

(%)

進路検討に関して、オープンキャンパスの参加について、生徒への推奨度を教えてください。



Q14

2. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨理由

■ オープンキャンパスを推奨する理由は「雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため」がトップ。

- オープンキャンパスを推奨する理由を自由回答で尋ね、内容を分類し集計した（実際の自由回答は次ページ参照）。
- 全体では、【志望校のイメージ・理解形成】を理由とする意見が多く、なかでも志望校の「雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため」が多くなっている。以下、「志望校への意欲・モチベーション維持・向上のため」「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」などが2割前後あがった。
- 非推奨の高校は全体の1%と少ないが、理由としては以下のような意見があげられた。
 - ・「とりあえず見に行っただけの大学が、第一志望になってしまうことがあるため。」[大短進学率70%以上/愛知県/県立/普通科]
 - ・「作られた良い部分を見るより、通常の授業などをみた方が本当の大学のすがたが見えるから。」[大短進学率70%以上/栃木県/県立/普通科]
 - ・「時間や経済的な負担を生じているのでWebの利用で補えばいい!と伝えている。」[大短進学率70%未満/愛知県/県立]

■ オープンキャンパスの推奨理由（オープンキャンパス参加を推奨している高校のうち、自由回答のあった高校／自由回答）

(%)

（強く推奨している、まあまあ推奨している）を選択した方にお尋ねします。オープンキャンパス参加について推奨する理由について教えてください。

※自由回答をコーディング集計した

		2022年 全体 (n= 860)	
進路の検討	入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消	19.9	3位
	生徒自身が志望校や進路を選択・決定するのに役立てるため	15.8	4位
	比較検討のため	4.3	8位
	自分で進路を考えさせる・調べさせるため	4.3	8位
	視野が広がる・選択肢を増やす	1.2	15位
意欲喚起	志望校への意欲・モチベーション維持・向上のため	21.7	2位
	学問への興味喚起のため	1.7	13位
志望校のイメージ・理解形成	雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため	23.3	1位
	志望校への理解を深めるため	13.4	5位
	生徒自身の目で確かめられる機会だから・直接見ないとわからないから	13.3	6位
	入試方法・学費・立地条件・通学事情など具体的な条件を確認するため	5.0	7位
	直接説明を聞ける・質問できる機会だから	3.6	10位
受験対策	面接など入試で役立てるため	3.3	11位
	OC参加が必・推奨する大学があるため	2.9	12位
	次年度の生徒募集につながるため	0.2	16位
世相	コロナ禍のため	1.3	14位
	特になし	0.6	

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

Q14SQ1

<フリーアンサー> 「オープンキャンパス」を推奨する理由

■ 入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消

- **大短進学率70%以上**
 - ・実際に足を運んで見て、感じることの大切さ。（進路情報を足で稼ぐ）→ミスマッチを防止するために。[茨城県/県立/普通科]
 - ・個々の生徒にフィットした進学先の保証（内容面、学力面等々）のためにも、志望校となりうる学校には、できる限りオープンキャンパス等に出向くことを推奨している。やはり、進学後のミスマッチ感から、大学進学後にモチベーションが低下し、退学（放学）となる生徒が存在するため。[熊本県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・実際に見て感じるものがあるため、入学後のギャップができるだけ出ないようにと指導している[広島県/県立/普通科]
 - ・本校では専門学校を希望する生徒が進学者の6割を超えている。大学に比べ、専門学校では学校間の学習サポートや学習環境の面で差が大きく、生徒の学習スタイルとの整合性を取る必要が高いため推奨している。[愛知県/市立/専門学科]

■ 希望に合った大学を見つけるため

- **大短進学率70%以上**
 - ・多様な教育方針を知ることにより、生徒一人一人に合う進路選択できると考えるから[東京都/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・複数の学校について施設を見学し、比較した上で確信を持って志望校を決定させたい。[秋田県/県立/その他]
 - ・直接見て感じて納得のいく進路にむかってほしいので[大阪府/私立/普通科と他学科併設]

■ 主体的な進路選択のため

- **大短進学率70%以上**
 - ・進学後の生徒自身の姿を予想させ、自らの意志で進路を選択できるようにする。[神奈川県/市立/専門学科]
 - ・進路について考える機会とする。OCはイベントとして生徒に推奨しやすい[神奈川県/県立/普通科]
 - ・生徒の主体的な進路選択のため[三重県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・実際に見る、聴く、感じるのによい機会であり、生徒が主体的に動くことで得るのが大きいと感じるから[熊本県/県立/普通科と他学科併設]

■ 受験への意欲・モチベーションの維持・向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・将来を具体的にイメージして、日頃の学習や様々な事への取り組みをするモチベーションにしてみたい。[茨城県/私立/普通科]
 - ・間違いなくモチベーションがアップするので。[広島県/市立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・近隣に上級学校がないので、周囲の環境も含めて、見学に行くことで、学問へのモチベーションを上げたり、志望校を絞り込む一助となる。[熊本県/県立/普通科]
 - ・実際に見ないと動き出せない生徒が多い。[東京都/都立/普通科]

■ 志望校への理解を深めるため

- **大短進学率70%以上**
 - ・身近なところに「大学」というものがなく、進学に関する情報も不足しているため、実際に「自分の目で見る」ことが大切だと感じるから。[佐賀県/県立/普通科]
 - ・進学先における詳細な中身を知ることはもちろん、実際の在学生の声を聴いたり、学校の立地や周辺環境を体感、具体的なイメージを描いてもらうため。[岐阜県/私立/普通科と他学科併設]
 - ・実際に訪問してこそわかる学校の施設の充実度や雰囲気を感じてほしいから。また、学校関係者や学生に直接話を聞くことで理解できることを大切にしてほしいから。[兵庫県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・特にオフラインの参加を推奨している。やはり実際に行って、雰囲気を感じ取り、話を聞くことでその学校への理解や興味関心の度合いが測れるから[栃木県/県立/普通科と他学科併設]
 - ・自らが志望する大学で、さまざまな情報を収集したり、体験したりすることで自分が希望する学び・研究・キャンパスライフを送ることができるのかを確認させるため。[福岡県/私立/普通科と他学科併設]

■ 入試方法・学費・立地条件・通学事情など具体的な条件を確認するため

- **大短進学率70%以上**
 - ・学校の雰囲気、立地条件がわかる[兵庫県/私立/学科無回答]
 - ・校内の雰囲気、毎日通学が可能なのかなどを肌で感じてほしいから。[千葉県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・入学金授業料を収め、数年間の学びを行う場所を選ぶにあたっては十分に調べた上で、納得して進学することが大切だと思う。[長野県/県立/普通科]
 - ・大学や専門学校の雰囲気を知り、入試等の情報を得ることで、志望校を明確化するため。[茨城県/県立/普通科と他学科併設]
 - ・学費や奨学金の相談（保護者と参加を推奨）生徒の学科適性の確認学校雰囲気の確認[福岡県/私立/普通科と他学科併設]

■ 受験対策として

- **大短進学率70%以上**
 - ・ほとんどの生徒は参加しているので。オーキャンに参加した生徒のみ、一般選抜の過去問配布をしている場合がある。オーキャンに参加した生徒のみ、総合型選抜の過去問配布をしている場合がある。[埼玉県/私立/普通科]
 - ・総合、推薦の面接等で必要[鹿児島県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・実際に見聞きたり講義を受けたりしてその学校についてよく知り、自分の進路志望を固めることができる。オープンキャンパスの参加が推薦受験の条件になっていたり、優遇されたりする上級学校がある。[青森県/県立/総合学科]
 - ・オープンキャンパス参加が受験時の条件になっている学校がある場合[北海道/私立/普通科]
 - ・総合型選抜入試等に対応するため[三重県/県立/専門学科]

「これからの社会」について

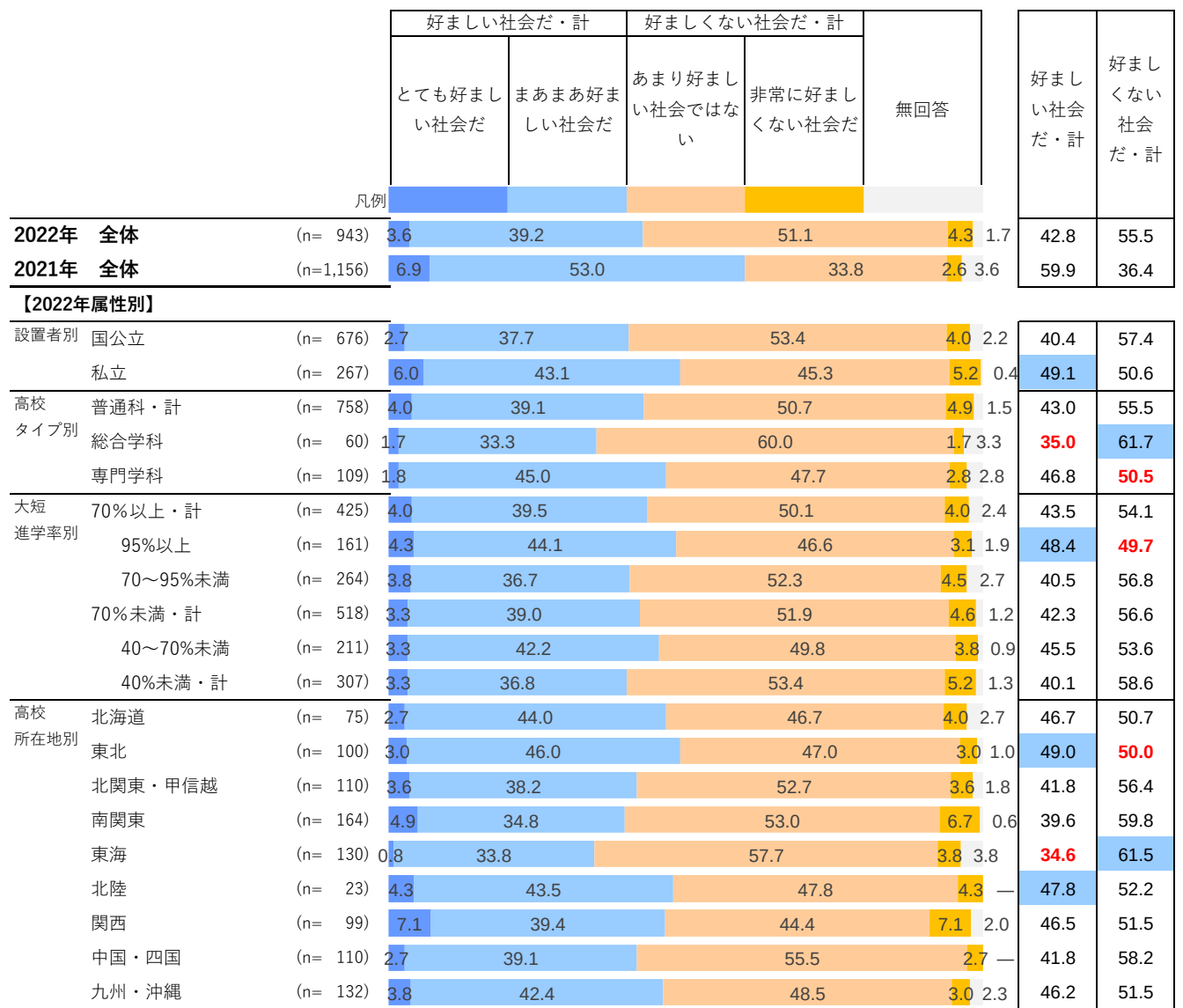
1. これからの社会の好ましさ

- 全体の43%が、生徒にとってこれからの社会が「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」と回答。
- 前回と比べて、「あまり好ましい社会でない」が大きく上昇した。
 - 設置者別にみると、私立は「好ましい社会だ・計」が49%で全体と比べて高い。
 - 高校タイプ別にみると、総合学科は「好ましい社会だ・計」が全体と比べて低い。
 - 大短進学率別にみると、95%以上の層は「好ましい社会だ・計」が全体と比べて高く、「好ましくない社会だ・計」とスコアが拮抗している。

■ 「これからの社会」の高校生にとっての好ましさ（全体／単一回答）

（%）

これからの社会は生徒にとって好ましい社会だと思いますか、好ましくない社会だと思いますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q15

<フリーアンサー> 「『これからの社会』の好ましさ」への回答の理由

「好ましい」と思う理由

■ 主体性や個性

- **大短進学率70%以上**
 - ・一人一人の主体性が尊重される社会となるため。[千葉県/私立/普通科]
 - ・自由、多様化が進んでいるため。[大阪府/国立/普通科]
 - ・自分がやりたいことを見つけることが困難な時代であるが、自分の挑戦したいことを見つけることができさえすれば、応援してもらえる環境になってきているから。[佐賀県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・これから日本の経済が良くなっていくのは難しいかもしれないが、多様な価値観が認められる世の中になってきているので、自己実現が達成されやすいと考えるから。[北海道/道立/普通科]

■ 生徒への期待

- **大短進学率70%以上**
 - ・今まで発展しなかった分野も、新たな環境で育った生徒たちによって切り拓かれると期待できる。[埼玉県/私立/普通科]
 - ・多くの生徒にとっては安全で、努力することにより自らの進路決定が可能であるから。[長野県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・生徒はICT機器をはじめ新しい時代に対応したデジタルコンテンツの活用能力が高く、自分のやるべきことを見つけ社会に貢献できる人材になり得ると思うので。[福岡県/県立/普通科]

■ 技術の発展

- **大短進学率70%以上**
 - ・情報技術の発達により、より便利な社会になっていくから。[愛知県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・今まで不可能だった事がどんどん可能な社会になっていくから。[千葉県/県立/普通科]

■ その他

- **大短進学率70%以上**
 - ・「生徒に明るい未来を感じさせること」が、教育者の仕事だから。[新潟県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・社会は変化し続けていて、若者はそれを受け入れ対応できているから。[群馬県/県立/普通科]

「好ましくない」と思う理由

■ 経済や政治情勢への懸念

- **大短進学率70%以上**
 - ・日本の若者や弱者への政策不足や、経済状況の悪化の改善への見通しができないため。[東京都/私立/普通科]
 - ・少子高齢化で就ける職が減り、不安定になると思うから。[静岡県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・経済的に厳しい家庭の生徒は進学先も希望通りには選べないから。現在の政治的、経済的に不安定な社会の中で、うまく立ち回る力が身に付いていない。[東京都/都立/普通科]

■ 格差の広がり

- **大短進学率70%以上**
 - ・経済・教育格差が広がっていると感じるから。[兵庫県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・学力・意欲ともに二極化が進み、格差が拡大していく恐れがある。[岩手県/県立/普通科]

■ 制約・社会的課題の多さ

- **大短進学率70%以上**
 - ・環境、資源、少子化など様々な制約の中で生きていく必要がある社会になると思われるから。[北海道/道立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・短期的には感染症拡大による諸活動の制限が問題であり、長期的には日本の人口減・AIとの共存など、厳しい未来が予想されるから。[埼玉県/私立/普通科]

■ 先行きの不透明感・複雑化その他

- **大短進学率70%以上**
 - ・先行き不透明感が強いから。[静岡県/県立/普通科]
 - ・個人をとりまく環境の変化への対応が多様化しているので個人で切り開く能力が問われるため。[広島県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ネットとの付き合い方がより一層複雑していく気がするから。[埼玉県/県立/普通科]
 - ・不透明なことが多く、それに対応する力がついていない。[神奈川県/県立/普通科]

2. 社会人基礎力

- 「特に必要とされる」と思う社会人基礎力は、「主体性」「課題発見力」。
 - 時系列でみると、上位となる項目に大きな変化はみられないが、「主体性」のスコアは前々回から低下。一方、「課題発見力」は前回から上昇した。
 - 上昇の続いていた「創造力」は低下。
 - 「柔軟性」「ストレスコントロール力」「状況把握力」など、チームワークに関する項目が全体的に上昇傾向がみられる。

- 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力は、「規律性」が突出。「傾聴力」「柔軟性」が続く。
 - 時系列でみると、上位となる項目に大きな変化はみられない。スコアは低下傾向の項目が多い中、チームワークに関する項目のスコアは横ばい。

- 「特に必要とされている」と思う社会人基礎力と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力のギャップをみると、「課題発見力」「主体性」は不足している一方、「規律性」「傾聴力」は十分備わっていると考えられる。

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／それぞれ3つまでの複数回答）

(%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

2022年 全体

(n= 943)

			①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②生徒が現在持っていると思う能力	①必要とされる能力－ ②現在持っている能力の ギャップ
前に踏み出す 力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	50.6 1位	15.9 5位	34.7
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	26.6 3位	11.2 7位	15.4
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.7 9位	5.1 10位	12.6
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	47.4 2位	4.9 11位	42.5
	創造力	新しい価値を生み出す力	26.5 4位	5.3 9位	21.2
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	17.3 10位	5.4 8位	11.9
チームで働く 力 (チームワーク)	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	22.7 5位	22.5 3位	0.2
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	19.8 6位	13.7 6位	6.2
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	19.1 7位	3.7 12位	15.4
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	18.3 8位	17.6 4位	0.7
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	16.8 11位	34.0 2位	-17.3
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	11.7 12位	55.1 1位	-43.5
ひとつもあてはまるものはない			0.1	11.9	②の方が高い←→①の方が高い
無回答			0.5	1.7	

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート

※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

Q16

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／それぞれ3つまでの複数回答）

(%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

2021年 全体

(n=1,156)

			①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②生徒が現在持っていると思う能力	①必要とされる能力－ ②現在持っている能力の ギャップ
前に踏み出す 力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	55.2 1位	17.0 4位	38.2
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	29.8 4位	13.3 6位	16.5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.6 8位	6.8 8位	10.8
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	42.4 2位	5.4 10位	37.0
	創造力	新しい価値を生み出す力	32.7 3位	6.3 9位	26.4
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	17.9 7位	4.5 11位	13.4
チームで働く 力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	22.9 5位	13.0 7位	9.9
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	20.2 6位	22.4 3位	-2.2
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	16.3 9位	4.2 12位	12.1
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	15.9 10位	14.7 5位	1.2
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	14.1 11位	34.7 2位	-20.6
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	10.6 12位	57.9 1位	-47.3
ひとつもあてはまるものはない			—	9.1	②の方が高い←→①の方が高い
無回答			0.7	2.6	

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート

※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

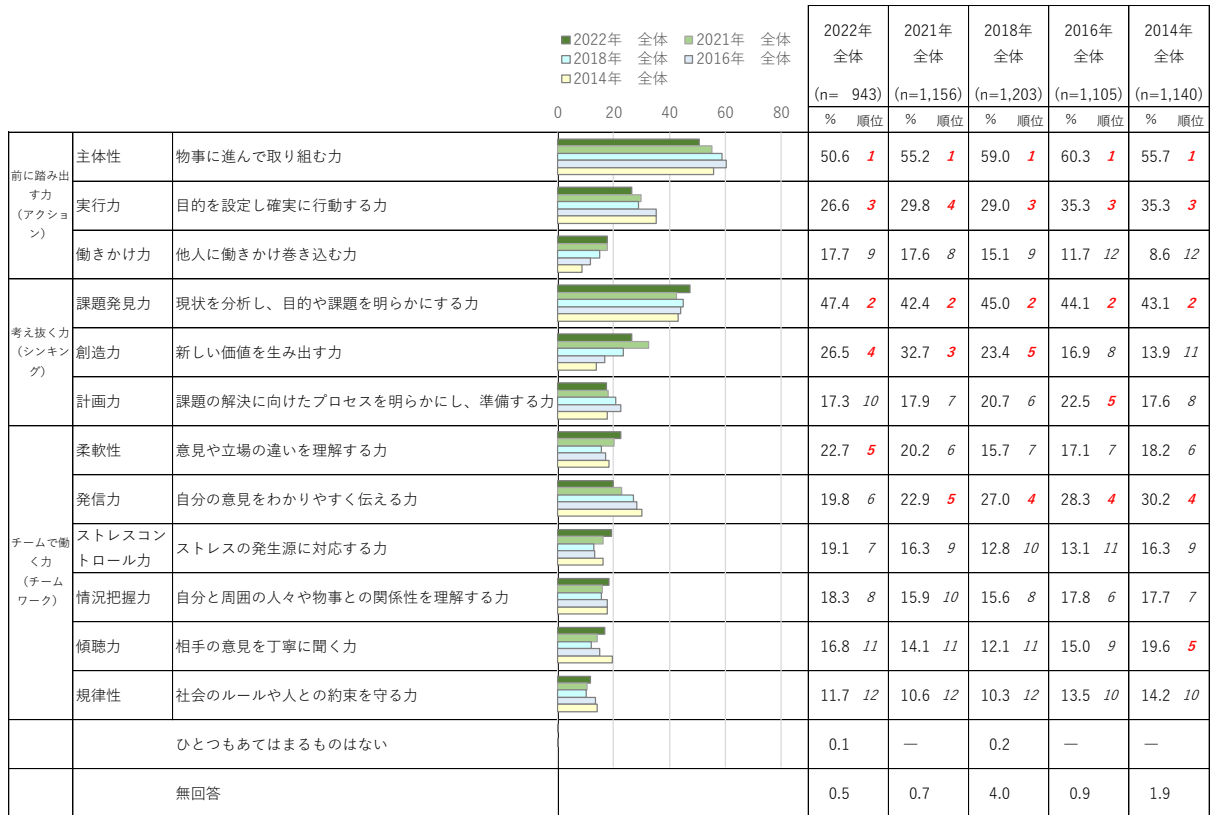
TL2021Q24

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。

（％）



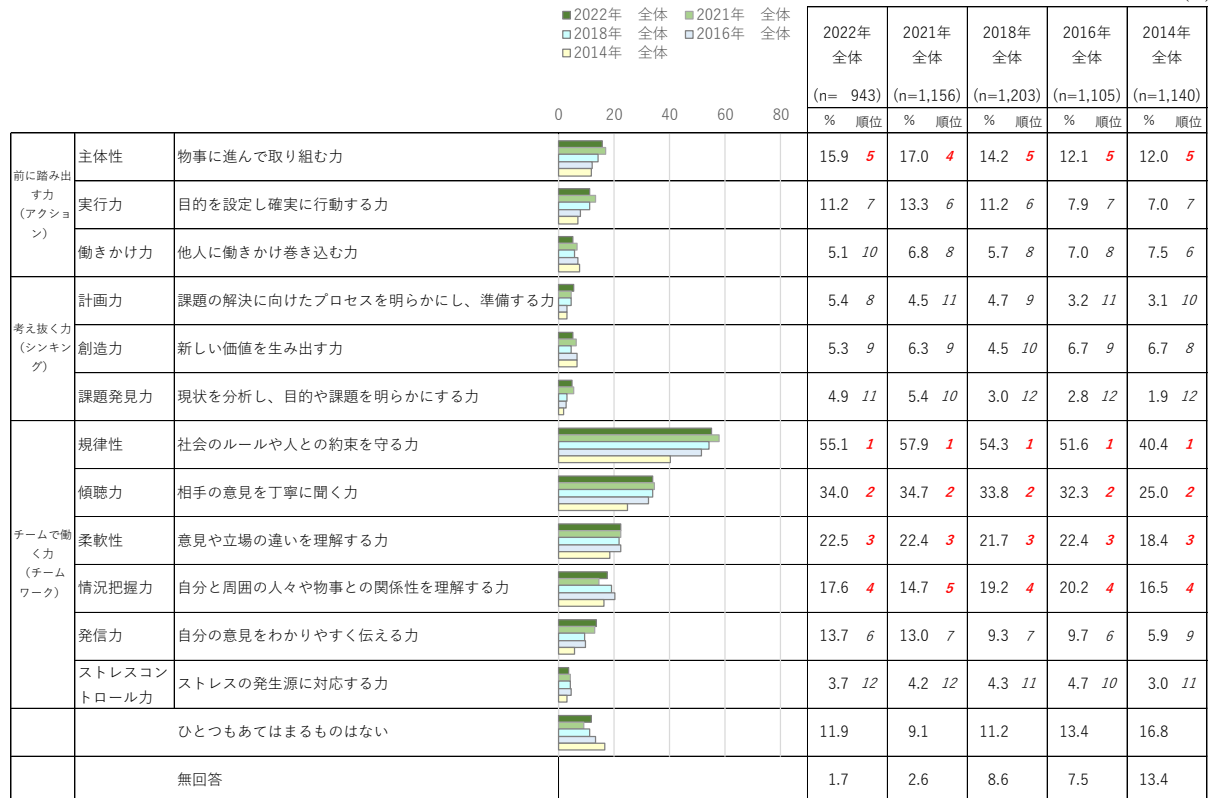
※2022年 カテゴリーごとに全体の降順にソート

Q16_1

■「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。

（％）



※2022年 カテゴリーごとに全体の降順にソート

Q16_2

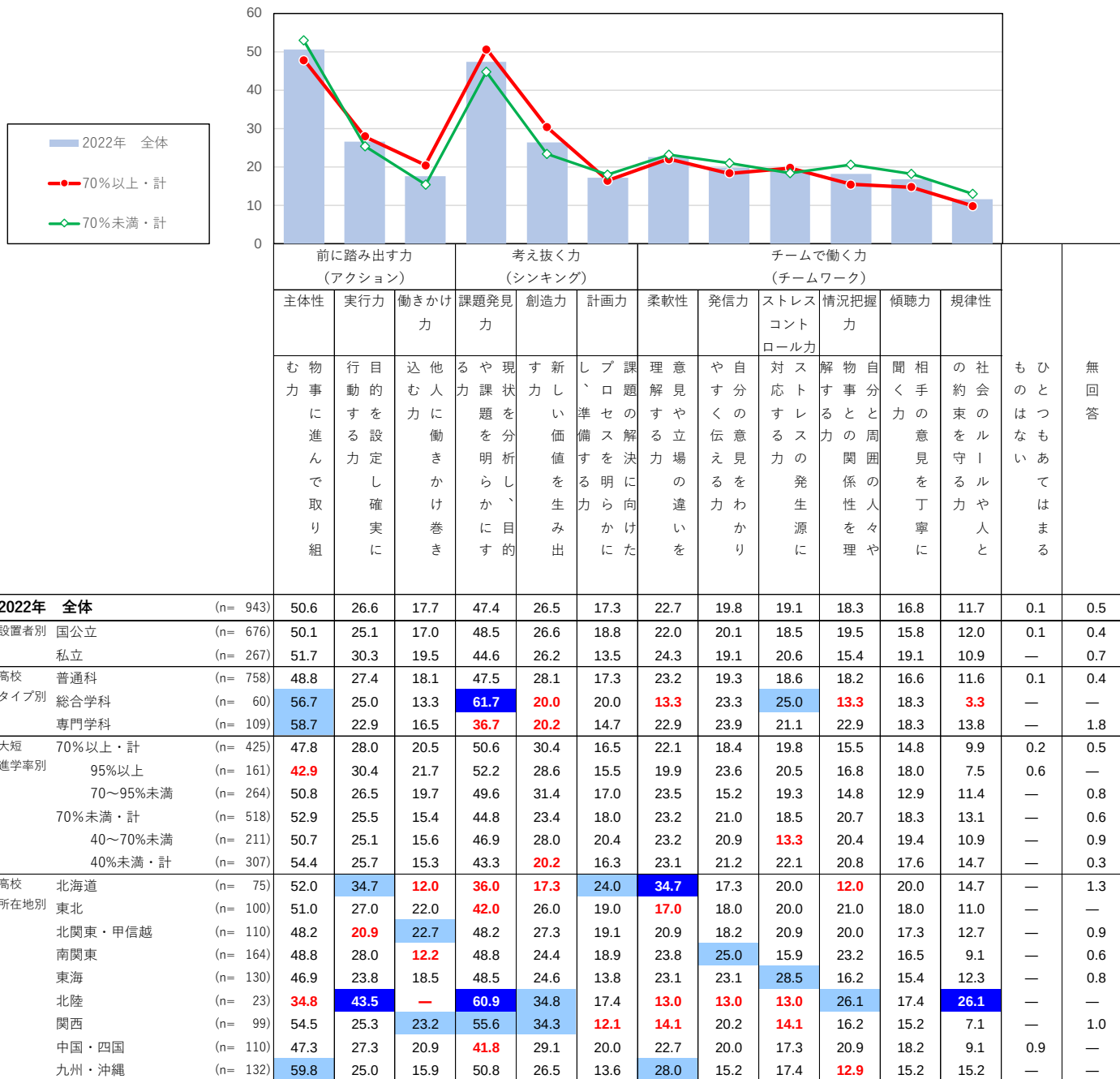
- 高校タイプ別にみると、総合学科、専門学科でスコアが高い項目が散見され、特に総合学科では「主体性」「課題発見力」「ストレスコントロール力」で差が大きい。
- 大短進学率別にみると、95%以上の層は他の層と比較して「主体性」のスコアが低く、「課題発見力」が第1位となっている。それ以外の層では「主体性」が最も高い。

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

（%）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んでください。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

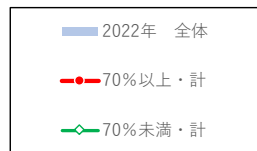
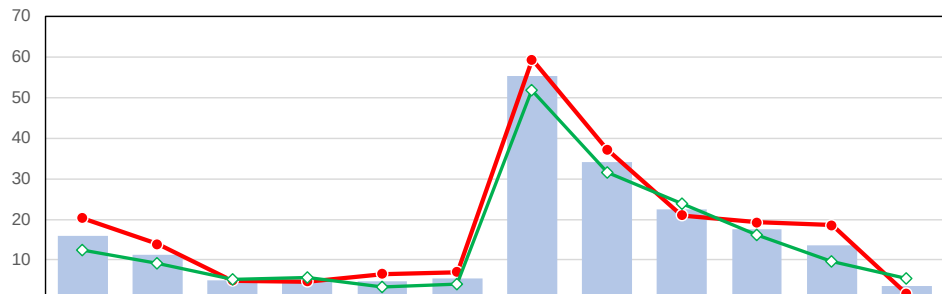
Q16_1

- 高校タイプ別にみると、いずれも上位の項目は同じだが、総合学科は「規律性」「柔軟性」、専門学科は「主体性」がそれぞれ全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほどスコアが高い項目が多く、特に「主体性」は95%以上の層で顕著に高い。

■「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／3つまでの複数回答）

（%）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。



		前に踏み出す力 (アクション)			考え抜く力 (シンキング)			チームで働く力 (チームワーク)					も の は つ な い あ て は ま る	無 回 答	
		主体性	実行力	働きかけ 力	創造力	課題発見 力	計画力	規律性	傾聴力	柔軟性	状況把握 力	発信力			ストレス コント ロール力
		む 力 に 進 ん で 取 り 組	行 目 的 を 設 定 し 確 実 に	込 む 人 に 働 き か け 卷 き	す 新 しい 価 値 を 生 み 出	る や 課 題 を 分 析 し 目 的	し 、 現 在 の 課 題 を 分 析 し 目 的	ブ ロ グ を 決 め る 方 向 に た	の 社 会 の 束 縛 を 守 り た と	聞 相 手 の 意 見 を 丁 寧 に	理 意 解 見 す や 立 場 の 違 い を	解 物 事 と の 周 圍 の 係 人 々 と の 関 係 を 理 解			や 自 分 の 伝 え る 力 を わ か り
2022年 全体 (n= 943)		15.9	11.2	5.1	5.3	4.9	5.4	55.1	34.0	22.5	17.6	13.7	3.7	11.9	1.7
設置者別	国公立 (n= 676)	17.0	10.1	4.3	4.7	5.2	5.3	55.9	34.9	21.2	16.7	13.3	3.6	11.7	1.8
	私立 (n= 267)	13.1	14.2	7.1	6.7	4.1	5.6	53.2	31.8	25.8	19.9	14.6	4.1	12.4	1.5
高校 タイプ別	普通科 (n= 758)	15.3	11.3	5.3	5.7	4.7	6.1	55.1	34.8	21.9	18.3	14.5	3.7	11.9	1.5
	総合学科 (n= 60)	11.7	8.3	3.3	1.7	3.3	1.7	61.7	36.7	31.7	21.7	13.3	—	11.7	1.7
	専門学科 (n= 109)	22.9	13.8	3.7	5.5	5.5	2.8	56.0	28.4	23.9	11.0	9.2	5.5	10.1	2.8
大短 進学率別	70%以上・計 (n= 425)	20.2	13.9	4.9	4.7	6.6	7.1	59.3	37.2	20.9	19.3	18.6	1.6	8.5	0.9
	95%以上 (n= 161)	26.1	16.1	2.5	5.6	9.9	8.7	60.2	37.3	21.1	20.5	21.1	1.2	7.5	—
	70～95%未満 (n= 264)	16.7	12.5	6.4	4.2	4.5	6.1	58.7	37.1	20.8	18.6	17.0	1.9	9.1	1.5
	70%未満・計 (n= 518)	12.4	9.1	5.2	5.8	3.5	4.1	51.7	31.5	23.7	16.2	9.7	5.4	14.7	2.3
	40～70%未満 (n= 211)	11.8	8.1	7.6	7.6	4.3	5.2	51.7	33.2	23.7	16.6	10.9	5.7	12.8	1.9
	40%未満・計 (n= 307)	12.7	9.8	3.6	4.6	2.9	3.3	51.8	30.3	23.8	16.0	8.8	5.2	16.0	2.6
高校 所在地別	北海道 (n= 75)	14.7	12.0	2.7	6.7	1.3	2.7	65.3	37.3	16.0	24.0	9.3	1.3	8.0	4.0
	東北 (n= 100)	15.0	13.0	4.0	4.0	5.0	3.0	49.0	32.0	26.0	18.0	12.0	4.0	10.0	1.0
	北関東・甲信越 (n= 110)	13.6	10.9	0.9	3.6	9.1	9.1	50.0	31.8	22.7	22.7	20.0	1.8	10.9	2.7
	南関東 (n= 164)	14.0	12.8	9.1	8.5	7.3	3.7	56.1	29.9	24.4	16.5	13.4	6.1	11.6	1.8
	東海 (n= 130)	14.6	10.8	4.6	0.8	2.3	4.6	66.9	39.2	17.7	13.8	14.6	3.1	13.1	0.8
	北陸 (n= 23)	13.0	13.0	4.3	—	8.7	4.3	52.2	34.8	21.7	26.1	21.7	—	21.7	4.3
	関西 (n= 99)	20.2	9.1	7.1	6.1	5.1	6.1	55.6	35.4	21.2	14.1	13.1	4.0	11.1	1.0
	中国・四国 (n= 110)	13.6	5.5	2.7	6.4	0.9	4.5	59.1	30.9	25.5	23.6	9.1	4.5	13.6	0.9
	九州・沖縄 (n= 132)	22.0	14.4	6.8	6.8	5.3	9.1	42.4	37.1	24.2	10.6	14.4	3.8	12.9	1.5

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q16_2

進路指導とキャリア教育

1. 進路指導上の課題

■ 進路指導上の課題は、「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ。以下、「入学者選抜の多様化」「進路選択・決定能力の不足」が5割台で続く。上位となる項目に大きな変化はみられない。

- 保護者の問題は「保護者が干渉しすぎる」と前回から大きく上昇。学校の問題は「教員が進路指導を行うための時間の不足」「校内連携の不十分」でスコアが上昇している。進路環境の問題は「入学者選抜の多様化」「入学者選抜の易化」で前回から、「仕事や働くことに対する価値観の変化」で継続的な上昇傾向がみられる。

■進路指導上の課題（全体／複数回答）

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。

■2022年 全体 ■2021年 全体 □2018年 全体
□2016年 全体 □2014年 全体 ■2012年 全体
□2010年 全体 ■2008年 全体

(%)

		2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)	2016年 全体 (n=1,016)	2014年 全体 (n=1,026)	2012年 全体 (n=1,075)	2010年 全体 (n=1,121)	2008年 全体 (n= 832)	2006年 全体 (n= 739)	2004年 全体 (n=1,018)
		% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
生徒の問題	進路選択・決定能力の不足	51.9 3	51.8 2	59.3 1	66.6 2	67.3 2	67.3 1	66.2 1	65.0 1	65.0 1	68.0 1
	学力低下	46.9 4	42.4 7	47.3 5	48.4 7	51.3 6	52.1 7	50.5 8	45.3 8	56.8 2	54.1 4
	職業観・勤労観の未発達	46.4 5	44.1 5	41.7 7	48.9 6	51.8 5	56.8 5	52.4 6	51.9 6	52.4 3	61.3 2
	学習意欲の低下	45.5 6	45.0 4	50.3 4	54.3 4	55.1 4	57.6 4	56.8 4	60.0 4	48.2 5	44.5 7
	規範意識・道徳意識の低下	11.2 22	12.3 23	12.5 23	14.2 22	16.2 21	23.7 18	24.7 16	24.4 15	* *	* *
	生徒の問題・その他	3.1 26	3.6 25	3.8 25	5.5 25	4.6 25	4.7 23	4.5 25	5.5 21	* *	* *
保護者の問題	進路環境変化への認識不足	45.4 7	43.3 6	42.6 6	46.6 8	48.9 7	52.2 6	51.7 7	52.2 5	52.2 4	60.9 3
	保護者が干渉しすぎる	43.6 8	35.0 9	33.8 9	35.1 9	32.2 11	* *	* *	* *	* *	* *
	家庭・家族環境の悪化：家計面について	33.4 10	33.4 11	40.2 8	50.5 5	48.5 8	61.0 2	62.7 2	* *	* *	* *
	子どもに対する過剰な期待	29.0 14	27.3 14	29.2 12	29.9 12	27.7 15	30.2 12	27.5 14	27.9 12	* *	* *
	子どもに対する無関心・放任	26.5 15	29.2 13	30.8 10	30.8 11	29.8 13	29.1 14	29.4 13	32.2 11	36.8 7	32.6 11
	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	16.0 20	14.6 20	14.4 21	15.3 21	13.9 23	14.4 21	17.5 21	* *	* *	* *
	学校や教員への非協力	10.2 23	11.8 24	7.9 24	7.7 24	7.2 24	7.9 22	9.3 22	10.3 20	11.2 14	10.9 15
	保護者の問題・その他	3.0 27	2.2 27	2.3 28	2.9 27	2.2 28	4.1 25	4.8 23	5.3 23	* *	* *
学校の問題	教員が進路指導を行うための時間の不足	62.6 1	57.0 1	58.0 2	67.3 1	68.3 1	58.8 3	61.0 3	62.1 2	* *	* *
	旧態依然とした教員の価値観	31.6 11	33.4 11	29.0 13	27.7 16	24.7 18	21.7 19	20.5 19	24.3 16	31.9 9	33.7 10
	校内連携の不十分	29.9 13	24.7 16	27.9 15	34.8 10	32.7 10	31.2 11	32.5 11	34.0 10	40.5 6	40.5 8
	教員の実社会に関する知識・経験不足	26.4 16	26.6 15	27.2 16	23.9 18	25.2 16	25.3 16	21.7 18	25.0 14	* *	* *
	教員の意欲・能力不足	21.6 19	22.8 17	22.0 18	28.2 15	24.9 17	23.9 17	24.8 15	25.8 13	28.6 10	24.8 14
	生徒とのコミュニケーション不足	12.7 21	14.9 19	14.6 20	17.7 20	16.8 20	18.9 20	18.6 20	22.4 18	28.1 11	27.3 12
	学校の問題・その他	3.9 25	2.8 26	3.0 26	3.5 26	3.3 26	4.4 24	4.7 24	5.5 21	* *	* *
進路環境の問題	入学者選抜の多様化	55.2 2	48.6 3	50.6 3	62.6 3	59.6 3	48.6 9	48.7 9	60.8 3	* *	* *
	仕事や働くことに対する価値観の変化	38.6 9	34.3 10	30.0 11	28.3 14	31.2 12	30.1 13	24.7 16	18.5 19	26.5 12	34.4 9
	産業・労働・雇用環境の変化	30.1 12	39.1 8	28.2 14	29.9 12	35.0 9	48.7 8	53.7 5	45.6 7	33.3 8	48.0 5
	上級学校の学費高騰	24.8 17	22.7 18	25.5 17	24.9 17	17.2 19	* *	* *	* *	* *	* *
	入学者選抜の易化	23.0 18	13.5 22	20.4 19	22.5 19	29.8 13	27.3 15	29.9 12	39.5 9	* *	26.9 13
	高卒就職市場の変化	8.2 24	14.1 21	14.2 22	10.9 23	15.8 22	34.2 10	45.9 10	24.0 17	25.2 13	47.6 6
	進路環境の問題・その他	1.8 28	1.3 28	2.6 27	2.9 27	2.7 27	1.6 26	2.2 26	4.1 24	* *	* *
無回答		0.1	0.3	0.7	0.1	—	0.1	—	—	* *	* *

※カテゴリーごとに降順ソート

※2004～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、私立は「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」「旧態依然とした教員の価値観」「校内連携の不十分」「教員の意欲・能力不足」が全体と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「子どもに対する無関心・放任」「家庭・家族環境の悪化」など、家庭環境に関する項目が全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」「入学者選抜の多様化」が高い一方、進学率が低いほど、「学力低下」など【生徒の問題】、「子どもに対する無関心・放任」「家庭・家族環境の悪化」など家庭環境に関する項目、「仕事や働くことに対する価値観の変化」のスコアが高い。

■進路指導上の課題（全体／複数回答）

(%)

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。

		2022 年 全 体 (n= 943)	設置者別		高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別											
			国公立	私立	普通科	総合学 科	専門学 科	70%以 上・計	70%未 満・計	40～ 70%未 満・計	40%未 満・計	北海道	東北	北関 東・甲 信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・ 四国	九州・ 沖縄					
(n= 676) (n= 267) (n= 758) (n= 60) (n= 109) (n= 425) (n= 161) (n= 264) (n= 518) (n= 211) (n= 307) (n= 75) (n= 100) (n= 110) (n= 164) (n= 130) (n= 23) (n= 99) (n= 110) (n= 132)																									
生徒 の 問 題	進路選択・決定能力の不足	51.9	54.0	46.4	52.4	58.3	46.8	50.6	52.8	49.2	52.9	52.1	53.4	48.0	54.0	50.0	50.0	55.4	60.9	48.5	52.7	53.0			
	学力低下	46.9	45.0	51.7	46.6	50.0	45.0	43.1	35.4	47.7	50.0	44.5	53.7	41.3	54.0	40.0	48.2	36.2	30.4	44.4	54.5	57.6			
	職業観・勤労観の未発達	46.4	46.7	45.7	45.3	48.3	52.3	37.4	30.4	41.7	53.9	50.7	56.0	57.3	54.0	47.3	42.1	40.0	56.5	45.5	41.8	48.5			
	学習意欲の低下	45.5	43.9	49.4	45.9	43.3	41.3	36.2	23.0	44.3	53.1	53.1	53.1	38.7	40.0	44.5	42.1	36.9	43.5	44.4	51.8	62.9			
	規範意識・道徳意識の低下	11.2	10.9	12.0	10.4	10.0	14.7	8.0	6.2	9.1	13.9	10.9	16.0	8.0	12.0	12.7	7.9	6.9	30.4	9.1	11.8	17.4			
	生徒の問題・その他	3.1	3.4	2.2	3.2	6.7	0.9	4.9	7.5	3.4	1.5	2.4	1.0	1.3	2.0	3.6	5.5	4.6	—	5.1	—	1.5			
保護 者 の 問 題	進路環境変化への認識不足	45.4	46.6	42.3	45.0	45.0	49.5	41.2	29.8	48.1	48.8	50.2	47.9	52.0	50.0	51.8	42.1	30.8	56.5	41.4	48.2	50.0			
	保護者が干渉しすぎること	43.6	40.4	51.7	45.0	30.0	40.4	56.5	67.1	50.0	33.0	30.3	34.9	34.7	36.0	36.4	54.9	50.8	30.4	43.4	41.8	43.2			
	家庭・家族環境の悪化：家計面について	33.4	37.6	22.8	31.9	43.3	36.7	16.9	6.8	23.1	46.9	41.2	50.8	42.7	38.0	38.2	32.9	31.5	39.1	19.2	34.5	31.8			
	子どもに対する過剰な期待	29.0	24.6	40.1	31.9	20.0	16.5	40.0	49.7	34.1	19.9	19.9	19.9	22.7	31.0	26.4	37.2	24.6	4.3	27.3	28.2	33.3			
	子どもに対する無関心・放任	26.5	28.4	21.7	24.1	45.0	31.2	12.7	6.8	16.3	37.8	28.4	44.3	32.0	39.0	19.1	19.5	28.5	17.4	24.2	28.2	28.8			
	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	16.0	15.8	16.5	14.0	26.7	22.0	8.9	6.8	10.2	21.8	16.1	25.7	12.0	16.0	17.3	20.1	14.6	17.4	9.1	17.3	17.4			
学 校 の 問 題	学校や教員への非協力	10.2	9.6	11.6	10.4	13.3	5.5	7.5	6.8	8.0	12.4	11.4	13.0	8.0	13.0	10.0	9.1	10.0	8.7	7.1	10.9	12.9			
	保護者の問題・その他	3.0	3.3	2.2	2.9	3.3	2.8	4.2	2.5	5.3	1.9	1.4	2.3	4.0	2.0	3.6	4.3	2.3	—	2.0	1.8	3.8			
	教員が進路指導を行うための時間の不足	62.6	64.9	56.6	64.2	58.3	52.3	64.5	65.8	63.6	61.0	65.9	57.7	54.7	61.0	63.6	70.7	58.5	56.5	54.5	63.6	67.4			
	旧態依然とした教員の価値観	31.6	29.6	36.7	33.2	25.0	27.5	32.2	30.4	33.3	31.1	37.0	27.0	36.0	36.0	30.0	39.0	23.1	17.4	25.3	28.2	36.4			
	校内連携の不十分	29.9	26.9	37.5	30.5	23.3	27.5	30.8	29.8	31.4	29.2	32.2	27.0	25.3	31.0	28.2	34.1	30.8	26.1	27.3	30.9	28.8			
	教員の実社会に関する知識・経験不足	26.4	24.7	30.7	25.6	30.0	32.1	20.9	22.4	20.1	30.9	29.9	31.6	28.0	30.0	28.2	27.4	26.9	30.4	25.3	22.7	22.7			
進 路 環 境 の 問 題	教員の意欲・能力不足	21.6	18.6	29.2	21.4	26.7	19.3	20.9	14.3	25.0	22.2	23.2	21.5	18.7	20.0	14.5	29.9	28.5	30.4	16.2	17.3	19.7			
	生徒とのコミュニケーション不足	12.7	12.6	13.1	13.1	8.3	13.8	11.3	8.7	12.9	13.9	11.4	15.6	14.7	16.0	6.4	12.2	12.3	8.7	12.1	16.4	13.6			
	学校の問題・その他	3.9	4.1	3.4	4.1	3.3	1.8	4.2	4.3	4.2	3.7	3.8	3.6	1.3	3.0	4.5	4.3	3.8	—	5.1	3.6	5.3			
	入学者選抜の多様化	55.2	53.7	59.2	59.6	45.0	35.8	63.5	65.2	62.5	48.5	56.9	42.7	45.3	54.0	51.8	65.9	52.3	52.2	43.4	64.5	56.1			
	仕事や働くことに対する価値観の変化	38.6	38.8	38.2	36.1	55.0	45.9	28.7	27.3	29.5	46.7	40.3	51.1	45.3	43.0	34.5	37.2	37.7	39.1	37.4	37.3	39.4			
	産業・労働・雇用環境の変化	30.1	30.3	29.6	29.0	35.0	34.9	28.7	26.1	30.3	31.3	32.7	30.3	25.3	36.0	30.9	28.7	28.5	21.7	31.3	27.3	34.1			
入 学 者 選 抜 の 問 題	上級学校の学費高騰	24.8	26.9	19.5	24.4	23.3	27.5	21.2	16.8	23.9	27.8	24.2	30.3	29.3	26.0	34.5	23.8	16.2	21.7	24.2	21.8	26.5			
	入学者選抜の易化	23.0	22.9	23.2	23.6	21.7	20.2	22.6	18.6	25.0	23.4	25.1	22.1	14.7	22.0	19.1	20.1	24.6	8.7	24.2	23.6	34.8			
	高卒就職市場の変化	8.2	8.6	7.1	5.7	15.0	19.3	1.6	—	2.7	13.5	10.0	16.0	9.3	11.0	8.2	7.9	10.8	8.7	7.1	5.5	6.1			
	進路環境の問題・その他	1.8	1.5	2.6	2.0	1.7	0.9	2.8	1.9	3.4	1.0	1.4	0.7	1.3	1.0	0.9	4.3	2.3	—	1.0	1.8	0.8			
無回答		0.1	0.1	—	0.1	—	—	0.2	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	—	—	—	—			

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／●0-5pt以上低い

※カテゴリーごとに降順ソート

Q17

2. キャリア教育の取り組み状況

■ 98%がキャリア教育に取り組んでいると回答。時系列で大きな変化はみられない。

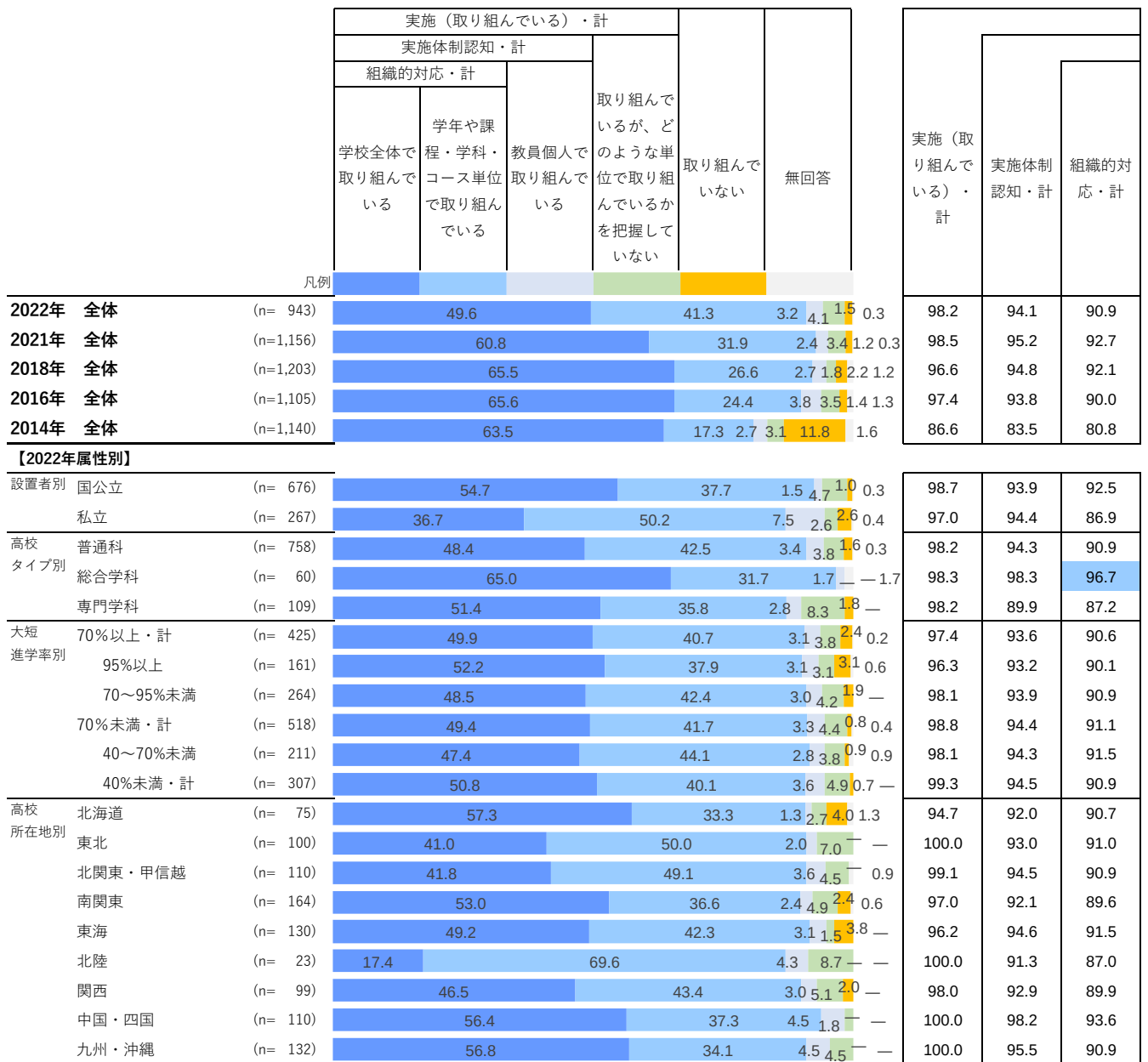
■ 「学校全体」が低下した一方、「学年や課程・学科・コース単位」が上昇した。

- 設置者別にみると、国公立は「学校全体」が55%で全体と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「学校全体」が65%で全体と比べて高い。

■ キャリア教育の実施体制（全体／単一回答）

貴校でのキャリア教育は、どの単位で取り組まれていますか。

(%)



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

Q18

3. キャリア教育の実施時間

- キャリア教育を実施する時間は「総合的な探究（学習）の時間」が78%でトップ。
- 以下、「ホームルーム活動」が続く。上位項目に時系列で大きな変化はみられない。
 - 「教科の時間」「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」「修学旅行や遠足」は緩やかな低下傾向。

■ キャリア教育の実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。

■ 2022年 全体
 ■ 2021年 全体
 ■ 2018年 全体
 ■ 2016年 全体
 ■ 2014年 全体
 ■ 2012年 全体
 ■ 2010年 全体
 ■ 2008年 全体

(%)

	2022年 全体 (n= 926)	2021年 全体 (n=1,139)	2018年 全体 (n=1,162)	2016年 全体 (n=1,076)	2014年 全体 (n= 989)	2012年 全体 (n=1,145)	2010年 全体 (n=1,152)	2008年 全体 (n= 778)
	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
総合的な探究（学習）の時間	77.6 1	78.9 1	77.5 1	79.5 1	79.8 1	77.8 1	77.1 1	73.0 1
教科の時間	18.5 5	19.2 4	22.6 5	22.5 5	29.2 4	22.8 5	16.0 5	14.3 3
キャリア・ガイダンス等を内容とする学校設定科目	15.3 6	16.6 6	12.6 8	7.8 11	8.5 11	7.8 11	6.0 10	* *
生徒会活動	6.2 10	6.2 11	10.8 9	9.9 9	9.6 9	9.6 9	4.8 11	3.1 5
部活動の時間	5.6 11	6.9 10	7.0 12	9.8 10	9.1 10	7.6 12	4.3 12	2.8 6
ホームルーム活動	67.6 2	67.3 2	56.7 2	66.1 2	64.4 2	75.2 2	70.7 2	66.3 2
ショートホームルーム	9.5 9	8.8 9	8.3 10	10.4 8	10.4 8	10.6 8	7.4 8	* *
文化祭や体育祭等の学校行事	13.0 8	12.8 8	16.4 7	15.7 7	16.3 7	15.7 7	8.9 7	* *
長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として	18.9 4	19.2 4	23.1 4	24.2 4	24.7 5	27.9 4	22.1 4	* *
修学旅行や遠足	14.8 7	14.9 7	17.0 6	18.7 6	18.6 6	17.6 6	11.5 6	* *
宗教・道徳等の時間	1.2 13	1.5 13	1.5 13	1.5 13	1.9 13	2.1 13	1.4 13	* *
普段の学校生活全般の中で	24.6 3	27.8 3	24.5 3	26.7 3	30.6 3	31.6 3	26.9 3	* *
その他	5.0 12	4.4 12	7.2 11	6.4 12	7.4 12	9.3 10	6.2 9	14.0 4
無回答	—	—	0.6	0.3	—	—	—	—

※「*」は該当の項目なし

Q19

- 設置者別にみると、私立は「総合的な探究（学習）の時間」「教科の時間」が全体と比べて低い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「総合的な探究（学習）の時間」「教科の時間」「キャリアガイダンス等を内容とする学校設定科目」、専門学科は「教科の時間」が全体と比べて特に高い。
- 大短進学率別にみると、95%以上の層で「ショートホームルーム」「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」、70%未満の層では「教科の時間」「キャリアガイダンス等を内容とする学校設定科目」が全体と比べて高い。

■キャリア教育の実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

（%）

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。

	2022 年 全 体 (n= 926)	設置者別		高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別											
		国公立	私立	普通科	総合学 科	専門学 科	70%以 上・計			70%未 満・計			北海道	東北	北関 東・甲 信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・ 四国	九州・ 沖縄			
							95%以 上	70～ 95%未 満	95%未 満	40～ 70%未 満	40%未 満・計													
		(n= 667)	(n= 259)	(n= 744)	(n= 59)	(n= 107)	(n= 414)	(n= 155)	(n= 259)	(n= 512)	(n= 207)	(n= 305)	(n= 71)	(n= 100)	(n= 109)	(n= 159)	(n= 125)	(n= 23)	(n= 97)	(n= 110)	(n= 132)			
総合的な探究（学習）の時間	77.6	80.5	70.3	82.4	89.8	37.4	77.3	72.9	79.9	77.9	86.0	72.5	85.9	89.0	75.2	73.0	75.2	95.7	67.0	78.2	78.8			
教科の時間	18.5	21.4	10.8	14.7	28.8	36.4	11.6	13.5	10.4	24.0	21.3	25.9	36.6	26.0	20.2	12.6	16.8	17.4	10.3	14.5	19.7			
キャリア・ガイダンス等を内容とする 学校設定科目	15.3	14.2	18.1	13.7	30.5	17.8	8.5	3.9	11.2	20.9	18.4	22.6	9.9	17.0	18.3	12.6	11.2	17.4	24.7	10.0	18.9			
生徒会活動	6.2	6.9	4.2	6.5	5.1	4.7	8.0	11.0	6.2	4.7	5.8	3.9	9.9	6.0	7.3	6.3	4.8	4.3	6.2	4.5	6.1			
部活動の時間	5.6	6.0	4.6	5.4	5.1	7.5	6.0	6.5	5.8	5.3	5.8	4.9	12.7	4.0	5.5	1.9	6.4	8.7	4.1	8.2	5.3			
ホームルーム活動	67.6	67.8	67.2	67.2	55.9	75.7	69.8	71.6	68.7	65.8	60.9	69.2	62.0	72.0	71.6	66.7	62.4	65.2	67.0	77.3	62.9			
ショートホームルーム	9.5	8.8	11.2	9.3	11.9	9.3	11.8	16.1	9.3	7.6	9.2	6.6	12.7	8.0	9.2	9.4	9.6	13.0	7.2	10.0	9.8			
文化祭や体育祭等の学校行事	13.0	13.0	12.7	12.6	11.9	15.9	13.8	15.5	12.7	12.3	11.6	12.8	12.7	13.0	10.1	13.8	8.8	21.7	13.4	10.9	18.2			
長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題 として	18.9	18.1	20.8	18.7	22.0	19.6	20.3	25.2	17.4	17.8	20.3	16.1	22.5	13.0	16.5	25.8	27.2	8.7	15.5	13.6	15.9			
修学旅行や遠足	14.8	14.2	16.2	14.9	20.3	11.2	16.2	16.1	16.2	13.7	15.5	12.5	14.1	10.0	15.6	17.0	12.0	26.1	13.4	17.3	15.2			
宗教・道徳等の時間	1.2	0.1	3.9	1.3	—	0.9	1.7	1.9	1.5	0.8	1.9	—	1.4	1.0	—	1.3	0.8	—	2.1	—	3.0			
普通の学校生活全般の中で	24.6	25.9	21.2	23.3	27.1	33.6	21.0	21.3	20.8	27.5	23.7	30.2	35.2	25.0	19.3	22.0	24.0	17.4	20.6	22.7	32.6			
その他	5.0	4.2	6.9	5.1	6.8	3.7	5.6	8.4	3.9	4.5	4.3	4.6	—	4.0	7.3	8.8	6.4	8.7	4.1	2.7	2.3			
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い／■ +5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q19

4. キャリア教育の見直し

■ 特別活動を要としたキャリア教育の見直しについて、「見直し完了／考えている・計」が37%。

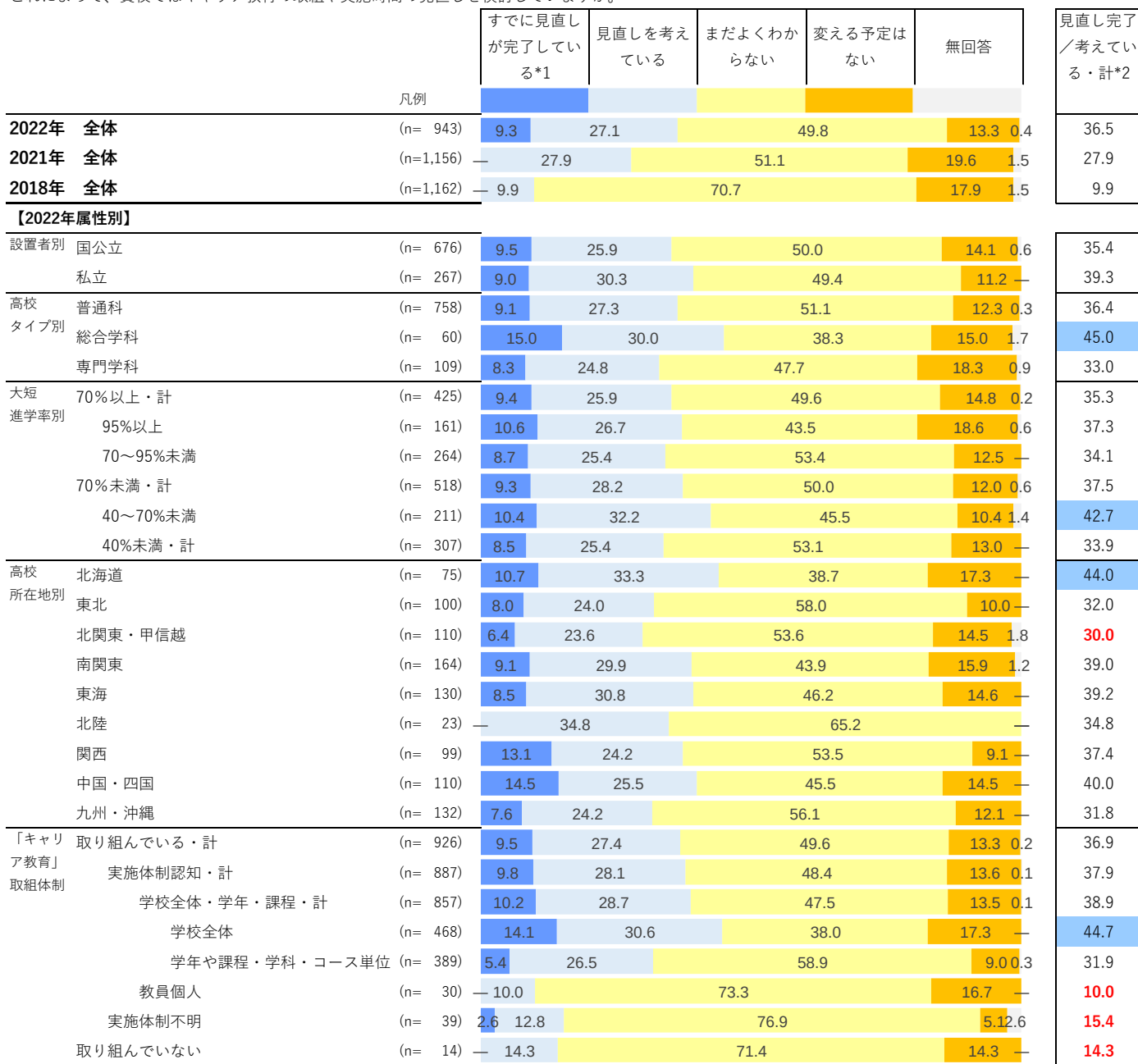
- 全体のうち9%は「すでに見直しが完了している」と回答。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「見直し完了／考えている・計」が45%で全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、40～70%未満の層で「見直し完了／考えている・計」が全体と比べて高い。

■ 特別活動を要としたキャリア教育の見直し（全体／単一回答）

（%）

今回の新しい学習指導要領では、特別活動を要として「キャリア教育の充実を図ること」が明記されました。

これによって、貴校ではキャリア教育の取組や実施時間の見直しを検討していますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※*1：「すでに見直しが完了している」は2022年から追加した選択肢

※*2：2021年以前の小計は、「見直しを考えている」のスコア

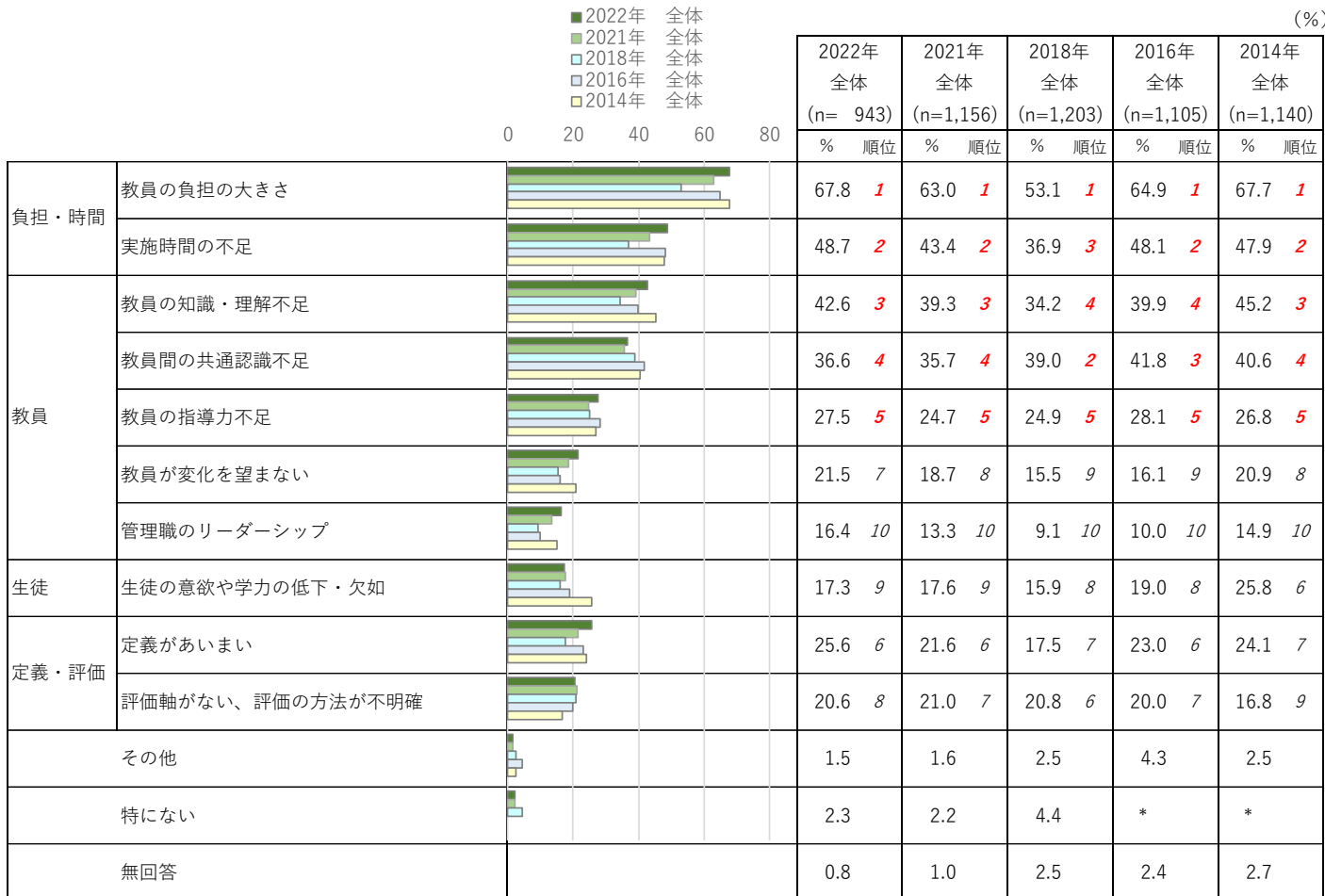
5. キャリア教育を進めていく上での今後の課題

- キャリア教育の今後の課題は「教員の負担の大きさ」が68%で突出。
- 上位3項目は前回と比較してやや上昇しており、「教員の負担の大きさ」「実施時間の不足」は過去最高のスコア。

■ キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。

(%)



小計	課題あり・計	96.8	96.7	93.1	97.6	97.3
	負担・時間・計	79.7	76.6	66.8	77.6	77.7
	教員・計	68.6	65.3	60.3	68.7	68.5
	生徒	17.3	17.6	15.9	19.0	25.8
	定義・評価・計	36.1	34.3	32.1	36.0	33.4

※カテゴリーごとに降順ソート

※2014～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、私立は【教員】に関する項目で国公立と比べてスコアが高め。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「教員の負担の大きさ」「教員の知識・理解不足」「教員間の共通認識不足」が全体と比べて特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が低いほど「生徒の意欲や学力の低下・欠如」のスコアが高い。

■キャリア教育の今後の課題（キャリア教育実施校／複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。

		2022 年 全 体 (n= 943)	設置者別		高校タイプ別			大短進学率別			高校所在地別										高校所在地別									
			国公立 (n= 676)	私立 (n= 267)	普通科 (n= 758)	総合学 科 (n= 60)	専門学 科 (n= 109)	70%以 上・計 (n= 425)	70%以 上95%未 上 (n= 161)	70%未 満 (n= 264)	70%未 満・計 (n= 518)	70%未 満40%未 満・計 (n= 211)	70%未 満・計 (n= 307)	北海道 (n= 75)	東北 (n= 100)	東・甲 信越 (n= 110)	東・南 関東 (n= 164)	東海 (n= 130)	北陸 (n= 23)	関西 (n= 99)	中国・ 四国 (n= 110)	九州・ 沖縄 (n= 132)	取り組 んでいる ・計 (n= 926)	実 施体制 ・計 (n= 887)	学校全 体・学 校全 体 (n= 857)	学年や 課程・ 科目・ コース 単位 (n= 468)	教員個 人 (n= 389)	教員個 人 (n= 30)	実 施体制 不明 (n= 39)	取り組 んでいる ・計 (n= 14)
負担・ 時間	教員の負担の大きさ	67.8	69.8	62.5	68.2	75.0	64.2	64.9	59.0	68.6	70.1	71.1	69.4	65.3	65.0	66.4	62.2	66.2	60.9	62.6	75.5	79.5	68.1	67.9	67.7	68.8	66.3	73.3	74.4	50.0
	実施時間の不足	48.7	49.1	47.6	50.3	38.3	44.0	52.5	50.9	53.4	45.6	53.6	40.1	49.3	50.0	52.7	53.0	39.2	34.8	41.4	50.0	54.5	48.8	49.2	49.0	50.6	47.0	53.3	41.0	42.9
教員	教員の知識・理解不足	42.6	41.4	45.7	42.2	51.7	44.0	39.8	35.4	42.4	45.0	44.1	45.6	44.0	49.0	40.0	48.2	40.0	39.1	37.4	40.9	40.9	43.0	41.9	41.2	37.6	45.5	63.3	66.7	28.6
	教員間の共通認識不足	36.6	36.1	37.8	36.8	41.7	30.3	35.8	38.5	34.1	37.3	37.0	37.5	40.0	40.0	33.6	39.6	34.6	39.1	31.3	38.2	34.8	36.5	36.1	35.9	32.3	40.4	40.0	46.2	50.0
	教員の指導力不足	27.5	24.9	34.1	27.8	21.7	29.4	25.9	21.1	28.8	28.8	34.6	24.8	25.3	29.0	22.7	35.4	25.4	34.8	22.2	25.5	28.0	27.4	26.4	25.6	23.7	27.8	50.0	51.3	35.7
	教員が変化を望まない	21.5	20.3	24.7	22.7	16.7	18.3	21.4	18.0	23.5	21.6	27.0	17.9	25.3	19.0	21.8	26.2	20.8	13.0	21.2	18.2	20.5	21.4	20.7	20.4	19.0	22.1	30.0	35.9	35.7
	管理職のリーダーシップ	16.4	14.2	22.1	17.4	10.0	14.7	16.2	16.1	16.3	16.6	20.9	13.7	14.7	17.0	14.5	20.7	13.1	21.7	17.2	11.8	18.9	16.3	15.4	14.7	13.0	16.7	36.7	35.9	28.6
生徒	生徒の意欲や学力の低下・欠如	17.3	18.2	15.0	16.0	20.0	22.9	9.2	4.3	12.1	23.9	18.0	28.0	12.0	13.0	18.2	12.8	18.5	17.4	13.1	22.7	25.8	17.5	16.9	16.6	16.2	17.0	26.7	30.8	7.1
定義・ 評価	定義があいまい	25.6	26.5	23.2	26.9	18.3	21.1	26.4	25.5	26.9	24.9	19.9	28.3	26.7	29.0	26.4	31.1	20.8	17.4	26.3	20.9	24.2	25.5	24.5	24.4	22.2	27.0	26.7	48.7	35.7
	評価軸がない、評価の方法が不明確	20.6	19.4	23.6	20.4	20.0	21.1	17.2	14.3	18.9	23.4	20.4	25.4	22.7	28.0	26.4	19.5	16.9	17.4	13.1	24.5	16.7	20.6	20.0	20.0	15.0	26.0	20.0	35.9	21.4
	その他	1.5	1.5	1.5	1.5	—	—	1.6	2.5	1.1	1.4	0.9	1.6	1.3	1.0	1.8	0.6	1.5	—	2.0	0.9	3.0	1.5	1.6	1.6	2.1	1.0	—	—	—
	特になし	2.3	2.1	3.0	2.5	1.7	1.8	3.3	5.0	2.3	1.5	1.4	1.6	4.0	2.0	3.6	2.4	3.1	—	1.0	0.9	2.3	2.2	2.3	2.3	2.8	1.8	—	—	14.3
	無回答	0.8	1.0	0.4	0.8	1.7	0.9	1.4	1.9	1.1	0.4	0.9	—	1.3	—	0.9	1.2	2.3	4.3	—	—	—	0.6	0.7	0.7	1.3	—	—	—	—
課題あり・計		96.8	96.9	96.6	96.7	96.7	97.2	95.3	93.2	96.6	98.1	97.6	98.4	94.7	98.0	95.5	96.3	94.6	95.7	99.0	99.1	97.7	97.2	97.1	97.0	95.9	98.2	100.0	100.0	85.7
負担・時間・計		79.7	81.5	75.3	80.6	80.0	77.1	79.1	75.2	81.4	80.3	82.9	78.5	74.7	82.0	78.2	78.7	78.5	78.3	74.7	80.9	87.9	80.2	80.4	80.4	80.6	80.2	80.0	76.9	57.1
教員・計		68.6	67.2	72.3	69.1	68.3	66.1	66.6	64.6	67.8	70.3	71.1	69.7	70.7	67.0	64.5	73.8	66.2	78.3	65.7	70.0	67.4	68.9	68.1	67.3	62.2	73.5	90.0	87.2	64.3
生徒		17.3	18.2	15.0	16.0	20.0	22.9	9.2	4.3	12.1	23.9	18.0	28.0	12.0	13.0	18.2	12.8	18.5	17.4	13.1	22.7	25.8	17.5	16.9	16.6	16.2	17.0	26.7	30.8	7.1
定義・評価・計		36.1	36.1	36.0	36.9	28.3	34.9	35.3	36.0	34.8	36.7	30.8	40.7	33.3	43.0	35.5	40.2	33.8	30.4	31.3	37.3	33.3	36.2	35.2	35.1	29.5	41.9	36.7	59.0	35.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

※カテゴリーごとに降順ソート

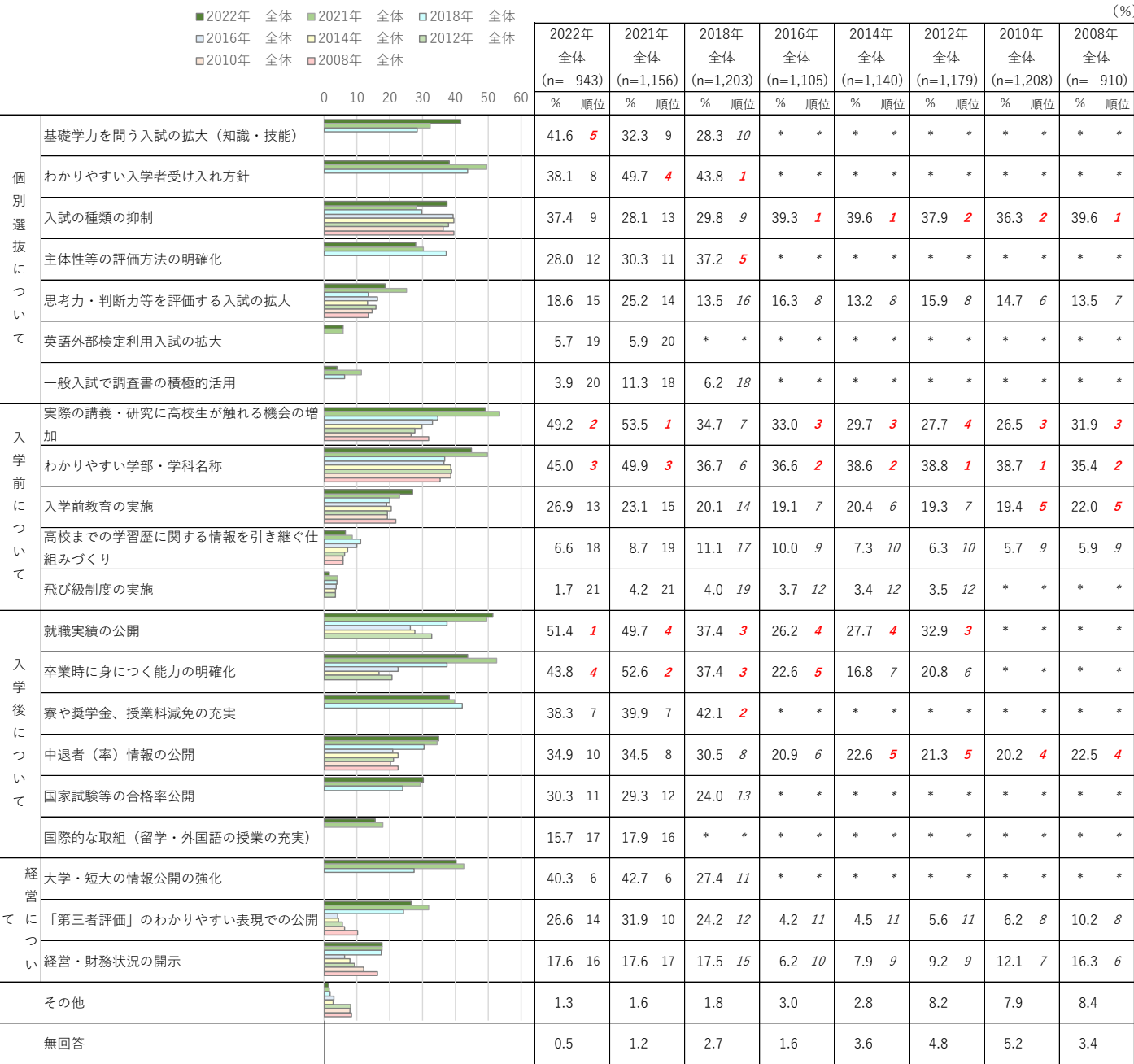
Q21

1. 大学・短期大学に期待すること

- 大学・短期大学に期待することは「就職実績の公開」が51%でトップ。前回からスコアもやや上昇。
- 上位の項目では「基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）」が大きく上昇し、5位になった。

■大学・短期大学に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのはどのようなことですか。



※カテゴリーごとに降順ソート

※調査年によって設問文が異なる。過去調査の設問文は下記の通り

2018年：以下の中で、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。

2008～2016年：高大接続・連携の観点から、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、私立は「英語外部検定利用入試の拡大」が全体と比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「入学前教育の実施」「高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり」、専門学科は「入学前教育の実施」「就職実績の公開」が全体と比べて特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い層は「入試の種類の抑制」、進学率が低い層は「わかりやすい入学者受け入れ方針」「入学前教育の実施」「中退者（率）情報の公開」がそれぞれ高い。

大学・短期大学に期待すること（全体／複数回答）

（%）

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのはどのようなことですか。

		2022 年 全 体 (n= 943)	設置者別		高校タイプ		大短進学率別						高校所在地別										
			国公立 (n= 676)	私立 (n= 267)	普通科 (n= 758)	総合学 科 (n= 60)	専門学 科 (n= 109)	70%以 上・計			70%未 満・計			北海道 (n= 75)	東北 (n= 100)	北関 東・甲 信越 (n= 110)	南関東 (n= 164)	東海 (n= 130)	北陸 (n= 23)	関西 (n= 99)	中国・ 四国 (n= 110)	九州・ 沖縄 (n= 132)	
								95%以 上 (n= 425)	95%未 満 (n= 161)	95%未 満 (n= 264)	40%未 満 (n= 518)	40%未 満 (n= 211)	40%未 満 (n= 307)										
個別選抜について	基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）	41.6	41.4	41.9	43.0	43.3	30.3	43.8	37.3	47.7	39.8	44.1	36.8	26.7	43.0	33.6	43.9	49.2	52.2	27.3	41.8	53.8	
	わかりやすい入学者受け入れ方針	38.1	37.4	39.7	37.5	41.7	40.4	32.0	34.2	30.7	43.1	43.6	42.7	42.7	44.0	42.7	35.4	32.3	34.8	44.4	35.5	34.1	
	入試の種類抑制	37.4	38.5	34.8	39.8	26.7	27.5	44.5	45.3	43.9	31.7	34.1	30.0	26.7	31.0	35.5	47.0	40.0	26.1	34.3	39.1	38.6	
	主体性等の評価方法の明確化	28.0	26.8	31.1	28.1	30.0	28.4	27.8	26.1	28.8	28.2	32.7	25.1	26.7	29.0	25.5	26.8	30.8	39.1	21.2	31.8	28.8	
	思考力・判断力等を評価する入試の拡大	18.6	18.2	19.5	19.0	18.3	16.5	21.4	22.4	20.8	16.2	17.1	15.6	24.0	22.0	15.5	18.9	15.4	8.7	17.2	18.2	21.2	
	英語外部検定利用入試の拡大	5.7	3.0	12.7	6.5	1.7	2.8	7.3	5.6	8.3	4.4	6.2	3.3	4.0	2.0	4.5	11.6	3.1	4.3	10.1	3.6	4.5	
	一般入試で調査書の積極的活用	3.9	3.6	4.9	3.3	6.7	4.6	3.1	1.2	4.2	4.6	3.3	5.5	6.7	5.0	2.7	3.0	3.1	13.0	1.0	2.7	6.1	
入学前について	実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加	49.2	48.5	50.9	50.9	43.3	41.3	49.6	53.4	47.3	48.8	55.5	44.3	52.0	57.0	41.8	56.7	50.8	34.8	45.5	48.2	43.2	
	わかりやすい学部・学科名称	45.0	43.5	48.7	45.4	38.3	44.0	46.6	47.2	46.2	43.6	42.2	44.6	38.7	44.0	47.3	57.3	37.7	52.2	38.4	45.5	42.4	
	入学前教育の実施	26.9	25.3	31.1	24.9	33.3	36.7	19.5	8.1	26.5	33.0	32.7	33.2	30.7	30.0	21.8	22.6	21.5	39.1	25.3	31.8	32.6	
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	6.6	7.5	4.1	5.7	15.0	9.2	4.5	4.3	4.5	8.3	5.7	10.1	12.0	8.0	7.3	4.3	8.5	—	8.1	5.5	3.8	
	飛び級制度の実施	1.7	1.9	1.1	1.5	—	4.6	1.4	0.6	1.9	1.9	2.4	1.6	4.0	1.0	—	1.2	2.3	—	—	2.7	3.0	
入学後について	就職実績の公開	51.4	53.0	47.6	51.1	53.3	57.8	47.5	39.8	52.3	54.6	49.3	58.3	49.3	57.0	50.0	56.1	52.3	34.8	42.4	52.7	51.5	
	卒業時に身につく能力の明確化	43.8	41.9	48.7	44.2	46.7	41.3	43.5	41.0	45.1	44.0	44.5	43.6	38.7	52.0	41.8	49.4	42.3	34.8	41.4	39.1	43.9	
	寮や奨学金、授業料減免の充実	38.3	41.0	31.5	37.5	41.7	40.4	35.8	34.8	36.4	40.3	37.4	42.3	36.0	48.0	40.0	29.3	33.8	39.1	33.3	50.9	39.4	
	中退者（率）情報の公開	34.9	36.7	30.3	35.0	26.7	39.4	28.7	24.8	31.1	40.0	44.5	36.8	41.3	32.0	27.3	40.9	31.5	26.1	34.3	35.5	37.1	
	国家試験等の合格率公開	30.3	30.5	30.0	32.7	21.7	19.3	32.2	31.1	33.0	28.8	30.8	27.4	30.7	27.0	25.5	43.3	23.1	17.4	24.2	36.4	29.5	
	国際的な取組（留学・外国語の授業の充実）	15.7	14.3	19.1	17.5	6.7	10.1	21.4	26.7	18.2	11.0	15.2	8.1	16.0	20.0	10.9	23.8	10.8	13.0	17.2	13.6	12.1	
経営について	大学・短大の情報公開の強化	40.3	39.9	41.2	41.2	36.7	37.6	40.5	37.3	42.4	40.2	44.1	37.5	33.3	37.0	45.5	40.9	28.5	34.8	44.4	47.3	45.5	
	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	26.6	25.4	29.6	27.7	23.3	21.1	25.6	24.8	26.1	27.4	32.2	24.1	26.7	31.0	25.5	32.9	23.1	34.8	21.2	16.4	31.1	
	経営・財務状況の開示	17.6	18.8	14.6	17.4	21.7	16.5	15.5	13.0	17.0	19.3	19.4	19.2	14.7	17.0	19.1	18.3	20.0	17.4	16.2	20.9	13.6	
	その他	1.3	1.3	1.1	1.5	1.7	—	1.9	2.5	1.5	0.8	0.9	0.7	1.3	1.0	1.8	1.8	1.5	—	2.0	—	0.8	
	無回答	0.5	0.7	—	0.4	1.7	—	0.5	1.2	—	0.6	0.5	0.7	—	—	1.8	0.6	0.8	—	—	—	0.8	

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

※カテゴリーごとに降順ソート

Q22

<フリーアンサー> 大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題

■ オンライン情報提供の拡充

- **大短進学率70%以上**
 - ・近くに大学があれば、生徒を頻繁に大学にいかせ、大学がどんな所かを十分知ることができるが、立地的に頻繁に大学に行くことは難しいため、オンラインを活用したりして、もっと大学が身近になるようにしたい。[静岡県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・オンラインでの情報やオンラインでのオープンキャンパスが増えたのはありがたいです。[東京都/都立/普通科]

■ 生徒の進学につながる情報提供の要望

- **大短進学率70%未満**
 - ・高校でのどのような取り組みが評価され大学進学につながるか、各大学学部が明確に表明してくれると、高校での活動に意欲になる生徒も増えるのではないかと。[茨城県/県立/総合学科]

■ 卒業後の進路に関する情報の提供の要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・「就職率No.1」「合格率No.1」などの何を基準としたものであるのかの説明が乏しい大学が散見される。[熊本県/私立/普通科]
 - ・就職率などは、大学ごとの算出法によるのではなく、全国で統一した指標を使ってほしいと思います。そのような比較のための統一指標が、あまりにも欠けているように思います。[香川県/県立/その他]
- **大短進学率70%未満**
 - ・特殊資格への合格実績の公開。[石川県/私立/専門学科]
 - ・卒業生の単位取得状況や卒業後の進路について情報公開して欲しい。[大阪府/私立/普通科]

■ 接続・連携に対する要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・「探究の時間」への協力。専門知識をもつ方に協力していただきたい。[愛知県/私立/普通科]
 - ・高大接続に関わる出張授業や高校生が参加できる講座の拡大[東京都/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・高大連携自体は、意義のあることなのですが、お互いに計画や報告等の実務や、時間的な負担等が過重にならないようにしたい。[茨城県/県立/普通科]
 - ・入学後の元生徒の学びや生活についてもっと教えてもらいたい。[鳥取県/県立/普通科]

■ 大学教育のレベルアップへの要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・本当に「大学」の名に値する大学、就職のための大学ではなく、学問をする場としての大学になってほしいと考えています。[東京都/都立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・研究機関としての大学を維持してほしい。[山形県/私立/普通科]
 - ・学生の人間性を高めるための各大学・短期大学独自の取り組み。[静岡県/私立/普通科]

■ 入試方法や学科名の簡明に関する要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・大学ごとに入試形態が多様化するなか、情報量が多く、それを入手し整理することが難しいと感じている。[栃木県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・求人票と同じように全ての大学の指定校、公募、総合型の入試要項を統一してほしい。[千葉県/県立/普通科]
 - ・学部学科の名称と学部学科の内容が合っているのか、情報を公開してもらいたい。[福島県/私立/普通科]

■ 選抜基準の明示に関する要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・大学入試問題の解答例、配点、採点基準を公開してほしい。[東京都/私立/普通科]
 - ・入試情報は積極的に公開してほしい。特に個別試験の採点状況など知りたい。[鳥取県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・総合型選抜の評価基準が見えにくい。[岩手県/私立/普通科]

2. 専門学校に期待すること

- 専門学校に期待することは「就職実績の公開」が55%で今回もトップ。
- 「大学・専門職大学との違いの明確化」はスコアが上昇し、2位に。また、前回順位の下がった「AO入試の実施時期の見直し」はスコアが上昇し3位となっている。

■ 専門学校に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。

(%)

■ 2022年 全体
 ■ 2021年 全体
 ■ 2018年 全体
 ■ 2014年 全体
 ■ 2010年 全体
 ■ 2021年 全体
 ■ 2016年 全体
 ■ 2012年 全体
 ■ 2008年 全体

0 10 20 30 40 50 60 70

			2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)	2016年 全体 (n=1,105)	2014年 全体 (n=1,140)	2012年 全体 (n=1,179)	2010年 全体 (n=1,208)	2008年 全体 (n= 910)
			% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
出願について	AO 入試の実施時期の見直し		43.4 3	36.7 8	34.5 4	27.4 5	30.9 3	28.1 4	26.4 4	* *
	学力測定の実施		26.7 11	26.5 13	26.7 9	21.9 6	18.8 7	22.8 6	19.0 6	16.5 8
	入学者受け入れ方針の明確化		20.3 14	33.7 10	24.3 12	12.6 9	13.1 9	11.2 9	14.2 9	19.0 7
	AO 入試の実施		9.1 15	12.8 15	6.5 17	3.5 13	4.4 13	3.8 12	3.1 12	2.4 11
入学前について	大学・専門職大学との違いの明確化		45.8 2	43.6 4	34.8 3	* *	* *	* *	* *	* *
	実際の授業に高校生が触れる機会の増加		28.2 9	35.1 9	23.9 13	17.3 8	19.6 6	18.2 7	17.3 7	19.3 5
	業界の最新情報の提供		27.5 10	31.5 11	25.6 11	18.1 7	16.9 8	17.3 8	15.6 8	19.1 6
	教員向け説明会の充実		6.7 16	10.8 16	8.8 15	5.6 12	7.1 12	6.3 11	6.9 11	8.0 10
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり		4.1 17	6.2 17	7.1 16	* *	* *	* *	* *	* *
入学後について	就職実績の公開		55.0 1	58.3 1	43.6 1	44.8 1	43.2 1	43.6 1	44.6 1	45.7 1
	資格取得情報の公開		42.1 4	45.8 3	31.3 7	31.2 4	23.6 5	26.9 5	25.6 5	28.6 4
	卒業時に身につく能力の明確化		41.6 5	52.6 2	40.8 2	33.5 3	28.2 4	30.4 2	31.5 2	36.6 2
	中退者（率）情報の公開		40.1 6	38.8 7	33.7 5	34.3 2	33.4 2	29.9 3	30.9 3	30.9 3
	国家試験等の合格率公開		38.5 7	41.8 5	32.4 6	* *	* *	* *	* *	* *
	寮や奨学金、授業料減免の充実		26.7 11	29.2 12	29.8 8	* *	* *	* *	* *	* *
経営について	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開		35.5 8	40.7 6	26.4 10	7.8 11	9.2 11	9.4 10	8.5 10	12.9 9
	「職業実践専門課程」の認定校の質の保証		21.1 13	21.8 14	17.8 14	11.8 10	11.1 10	* *	* *	* *
その他			3.5	1.1	0.5	3.3	2.5	5.9	8.6	8.4
無回答			2.9	2.2	9.1	8.6	11.9	13.1	12.7	13.4

※カテゴリーごとに降順ソート

※調査年によって設問文が異なる。過去調査での設問文は以下の通り。

2018年：以下の中で、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

2008～2016年：高専接続・連携の観点から、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、上位になる項目は同じだが、私立は全体より低い項目が散見される。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「AO入試の実施時期の見直し」が6割と高く、期待することのトップとなっている。
- 大短進学率別にみると、全般的に進学率が低い層の方がスコアが高く、「AO入試の実施時期の見直し」「実際の授業に高校生が触れる機会の増加」などで差が顕著。

■専門学校に期待すること（全体／複数回答）

（%）

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。

		2022 年 全 体 (n= 943)	設置者別		高校タイプ			大短進学率別						高校所在地別																							
			国公立 (n= 676)	私立 (n= 267)	普通科 (n= 758)	総合学 科 (n= 60)	専門学 科 (n= 109)	70%以 上・計 (n= 425)			70%未 満・計 (n= 161)			70%未 満・計 (n= 264)			70%未 満・計 (n= 518)			70%未 満・計 (n= 211)			70%未 満・計 (n= 307)			高校所在地別											
								95%以 上 (n= 264)	95%未 満 (n= 264)	40%未 満・計 (n= 307)	40%未 満・計 (n= 307)	北海道 (n= 75)	東北 (n= 100)	北関 東・甲 信越 (n= 110)	南関東 (n= 164)	東海 (n= 130)	北陸 (n= 23)	関西 (n= 99)	中国・ 四国 (n= 110)	九州・ 沖縄 (n= 132)																	
出 願 に つ い て	AO 入試の実施時期の見直し	43.4	44.4	40.8	42.1	60.0	45.0	31.3	16.8	40.2	53.3	61.6	47.6	42.7	38.0	49.1	31.7	43.1	39.1	52.5	46.4	49.2															
	学力測定の実施	26.7	29.1	20.6	27.6	21.7	22.9	28.5	20.5	33.3	25.3	24.6	25.7	33.3	29.0	23.6	17.7	27.7	30.4	24.2	27.3	34.8															
	入学者受け入れ方針の明確化	20.3	19.8	21.3	19.9	18.3	25.7	19.3	18.6	19.7	21.0	17.1	23.8	22.7	22.0	20.9	25.6	15.4	21.7	16.2	19.1	18.9															
	AO 入試の実施	9.1	8.4	10.9	8.2	8.3	15.6	5.9	5.6	6.1	11.8	9.5	13.4	10.7	13.0	7.3	9.8	7.7	4.3	8.1	10.9	7.6															
入 学 前 に つ い て	大学・専門職大学との違いの明確化	45.8	46.2	44.9	46.8	40.0	43.1	45.6	41.0	48.5	45.9	50.2	43.0	38.7	44.0	54.5	47.0	45.4	39.1	43.4	43.6	47.7															
	実際の授業に高校生が触れる機会の増加	28.2	30.3	22.8	25.9	35.0	40.4	16.9	14.3	18.6	37.5	31.3	41.7	32.0	37.0	21.8	30.5	25.4	8.7	20.2	32.7	30.3															
	業界の最新情報の提供	27.5	26.8	29.2	27.6	30.0	29.4	21.6	19.9	22.7	32.2	34.6	30.6	34.7	21.0	30.0	36.0	23.1	21.7	24.2	20.9	28.8															
	教員向け説明会の充実	6.7	6.4	7.5	5.4	13.3	11.9	3.3	1.2	4.5	9.5	6.6	11.4	8.0	10.0	5.5	4.9	3.8	4.3	3.0	8.2	11.4															
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	4.1	3.8	4.9	4.2	8.3	1.8	2.6	0.6	3.8	5.4	6.2	4.9	8.0	4.0	4.5	1.2	3.8	13.0	5.1	3.6	3.8															
	就職実績の公開	55.0	57.7	48.3	54.7	48.3	61.5	51.5	42.2	57.2	57.9	57.8	58.0	56.0	61.0	57.3	62.8	52.3	34.8	51.5	55.5	47.0															
入 学 後 に つ い て	資格取得情報の公開	42.1	42.5	41.2	43.5	33.3	36.7	42.8	37.3	46.2	41.5	46.9	37.8	42.7	42.0	40.0	51.8	40.0	34.8	39.4	42.7	36.4															
	卒業時に身につく能力の明確化	41.6	41.1	42.7	41.3	48.3	39.4	37.6	33.5	40.2	44.8	43.1	45.9	46.7	44.0	40.9	48.8	46.2	34.8	28.3	38.2	37.9															
	中退者（率）情報の公開	40.1	42.3	34.5	41.6	31.7	34.9	36.5	31.1	39.8	43.1	49.8	38.4	53.3	37.0	37.3	49.4	38.5	34.8	24.2	37.3	42.4															
	国家試験等の合格率公開	38.5	39.1	37.1	40.4	30.0	29.4	39.3	29.8	45.1	37.8	40.3	36.2	41.3	44.0	30.9	51.2	34.6	21.7	28.3	39.1	37.1															
	寮や奨学金、授業料減免の充実	26.7	29.1	20.6	25.7	26.7	32.1	20.7	18.6	22.0	31.7	27.0	34.9	33.3	37.0	24.5	22.0	21.5	21.7	19.2	28.2	33.3															
	経 営 に つ き	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	35.5	36.2	33.7	36.3	38.3	30.3	31.8	23.6	36.7	38.6	42.2	36.2	38.7	44.0	36.4	38.4	29.2	47.8	30.3	28.2	37.1														
「職業実践専門課程」の認定校の質の保証		21.1	22.2	18.4	20.7	18.3	24.8	20.0	16.8	22.0	22.0	20.9	22.8	18.7	17.0	21.8	22.0	15.4	21.7	22.2	22.7	27.3															
	その他	3.5	3.3	4.1	4.0	1.7	1.8	6.1	13.7	1.5	1.4	0.5	2.0	1.3	2.0	5.5	5.5	3.1	4.3	4.0	1.8	3.0															
	無回答	2.9	2.8	3.0	2.8	1.7	1.8	4.9	7.5	3.4	1.2	1.4	1.0	—	1.0	3.6	3.7	2.3	4.3	5.1	3.6	2.3															

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

※カテゴリーごとに降順ソート

<フリーアンサー> 専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題

■ 入試の実施時期に関する課題感

- **大短進学率70%以上**
 - ・AO入試の早期実施は絶対にやめていただきたい。解禁日を大学と同じ9月1日とすべき。[長野県/県立/普通科]
 - ・1学期中にエントリーを兼ねた面接実施により、生徒を焦らせたり、あおるような言動がないか、懸念している。早期に合格の確約をすることで2学期以降の学力低下、学習意欲の低下が問題。[三重県/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・早い学校は4月からAO入試のエントリーがはじまり、5月には、内定が出される。志望理由書のみで、学力は不問の学校が多い。3年間の学びをきちんとはかる入試をしてほしい。[岡山県/県立/普通科]
 - ・入学者選抜や合格の時期が早すぎる。青田買いにならないようにしてほしい。[神奈川県/市立/普通科]

■ 学校経営重視のスタンスに対する懸念

- **大短進学率70%以上**
 - ・専門学校であっても、経営中心ではなく、教育センターの教育機関になるべき。[熊本県/私立/普通科]
 - ・経営優先で、教育的要素のない専門学校の排除（認可取消し）。[北海道/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・学校教育というより利益追求型の営利企業のような学校がある。「第三者評価」は現状では形式的で実効性が希薄である。[千葉県/県立/普通科]

■ 専門高校との接続・連携に関する要望

- **大短進学率70%以上**
 - ・本校から進学した生徒の詳しい状況を知りたい。[広島県/県立/総合学科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・専門学校の場合は、職業教育として就職にダイレクトにつながるため、その業界についてのより深い研究が高校でできるよう協力していただけたらと思います。[青森県/県立/総合学科]
 - ・高校と専門学校の連携は重要。一部の分野を除いて、判断の尺度となるもの（ランキング表的もの）が無いので、相談を受けた場合、過去の入学実績のあるところに偏りがち。本当にそれで良いのか心配になることも。[埼玉県/私立/普通科]

■ 学校に関する情報開示

- **大短進学率70%以上**
 - ・社会情勢の変化に対応してどのように指導を変えていつているのか等、色々と聴きたいこともあるが時間的に厳しく対応できていないのが現状である。例）歯科医不足、歯科衛生士の需要増（今後、国民皆歯科検診が導入される予定）。[長崎県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・入学後のミスマッチが生じないようにより多くの情報と機会の提供。[茨城県/私立/普通科]
 - ・専門学校の教育の実際の公開、生徒向けの体験の場。[鳥取県/県立/普通科]

■ 入試の選考基準の開示・見直し

- **大短進学率70%以上**
 - ・大学・短大は文科省から、総合型選抜と学校推薦型選抜の実施時期とどの選抜においても学力を見るように指示されているが、専門学校も大学・短大の入学者選抜に準じてほしい（あまりに早くから入試を行っている、実施時期を大学・短大と揃えてほしい）。[岩手県/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・学力を測り、基準に達しない受験生は不合格にして欲しい。（かなり甘く考えている生徒も一定数いるため）。[新潟県/県立/普通科]

■ 卒業後の進路についての情報開示

- **大短進学率70%以上**
 - ・文化・教養系でも特にイラスト、声優などのコースがどのような就職に結びついているのかの情報を知りたい。[東京都/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・就職率とその後の先輩を写真などで紹介までしていただけると安心します。[京都府/私立/普通科]
 - ・卒業後の進路についての詳しい情報。それがわからないと、生徒へ勧めようがない。[愛知県/県立/専門学科]

教員の労働時間について

1. 最も時間のかかる業務

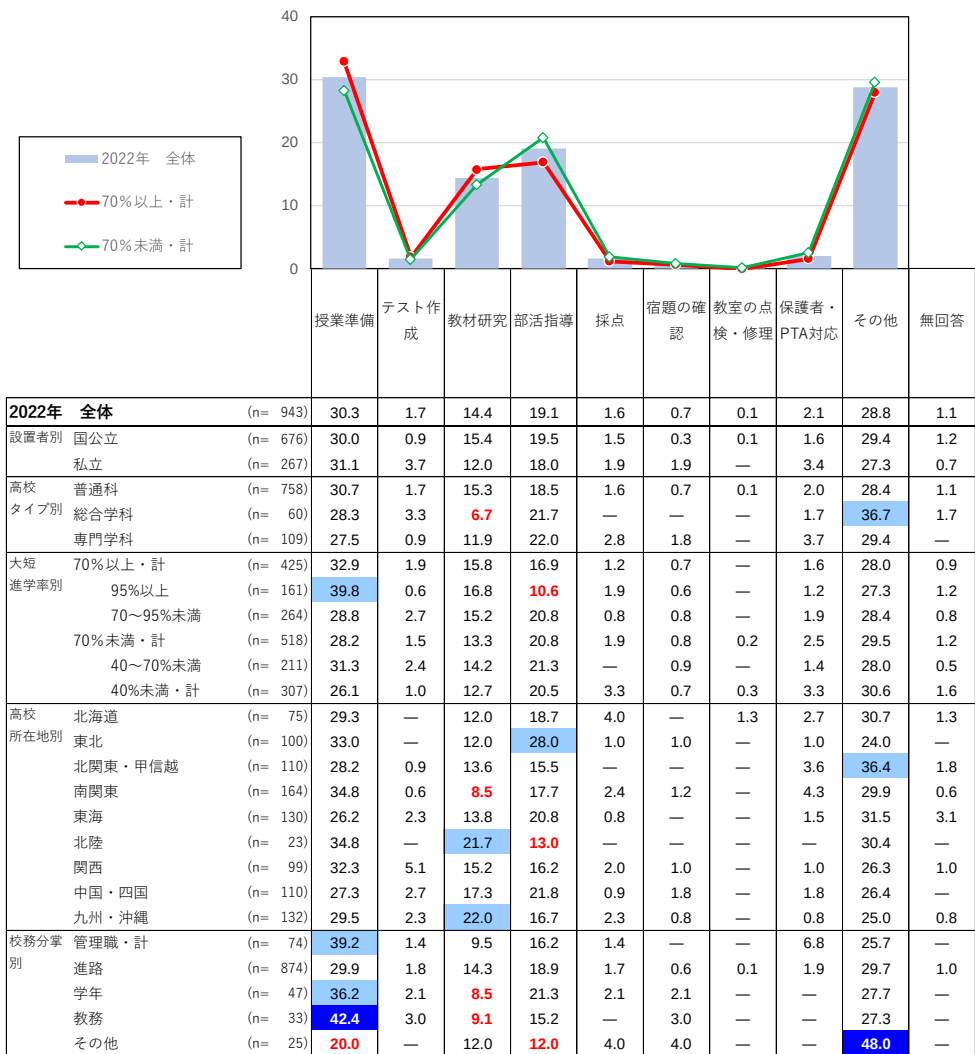
■ 最も時間のかかる業務のトップは「授業準備」（30％）。

- 「その他」もスコアが高いが、その内訳（自由回答）をみると、「校務分掌」「進路に関する行事の準備・対応」「外部対応」などの回答が多い。

■最も時間がかかる業務（全体／単一回答）

（％）

生徒の指導にかかわる業務や学校運営にかかわる業務、外部対応といった業務のうち、最も時間がかかる業務は次のうちどれですか。
ひと月あたりを想定してお答えください。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q24その他追加

2. 最も時間がかかる業務についてひと月あたりの時間数

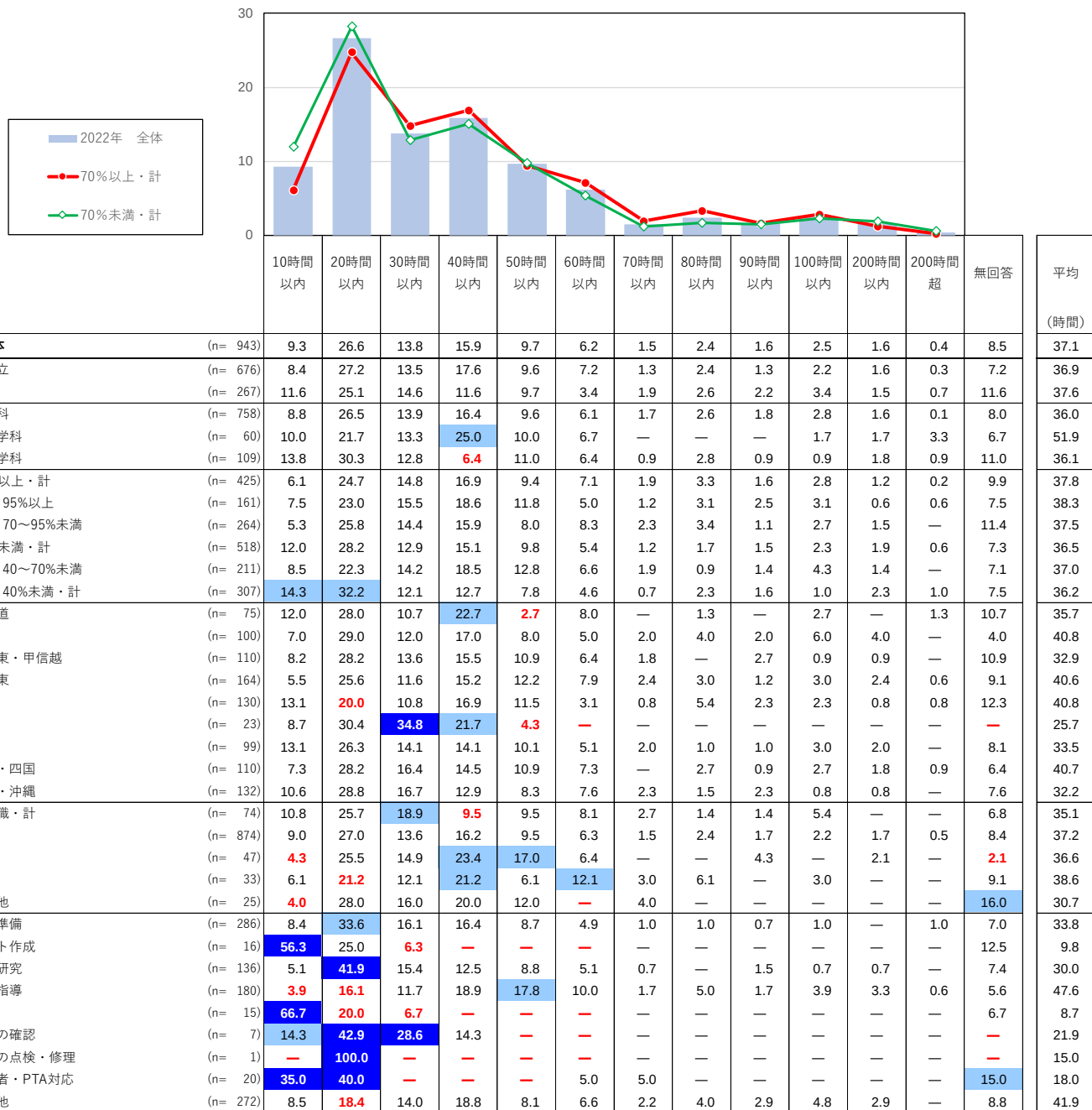
- 最も時間がかかる業務についてひと月あたりかかる時間は「20時間以内」が最も多く、平均で37.1時間。

- 高校タイプ別にみると、総合学科は平均時間が52時間で全体を大きく上回る。

■最も時間がかかる業務の時間数（全体／単一回答）

(%)

その業務は、ひと月あたりどのくらいの時間がかかっていますか？おおよその時間を教えてください。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／●0-5pt以上低い

Q25その他追加